

---

# 真恋姫無双 死神の名を継ぐ者

紅夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真恋姫無双 死神の名を継ぐ者

### 【ZPDF】

Z2287Q

### 【作者名】

紅夜

### 【あらすじ】

旧名「伝説のモンスターと最強の死神」

5月20日タイトル変更しました

殺し屋として生きてきた少年が恋姫無双の世界へ転生する  
そこで彼は、何のために戦い、何を守る?

翔「若干ウソ入って無いか?」

作者「何でもありがモツトーダ」

翔「なるほど」

## 第零話 その男、黒宮翔！

とある町・・・

？？？

「「」かターゲットは・・・」

全身黒ずくめの少年はある家の前に立っていた・・・

？？？

「すぐに終わらせるか」

と言つと少年はアタッショケースからスナイパーライフルを取り出し、構えたが・・・

？？？

「チツ、撃てる状況じやないな」

少年はターゲットから、アンテナに向けて撃つた

ダーン！

ターゲット

「何だよテレビがぶつ壊れたのかよ！」

ターゲットが外から当たる位地に着いた・・・

？？？

今だ！・・・

ダーン！

パリーン！

？？？

「任務完了」

ターゲットが死んだこと確認した少年はその場を去つた・・・

少年の名前は黒宮翔くろみやしょう

表向きは普通の高校生しかし、裏は暗殺を仕事とする殺し屋なのである

そして、いつもの家に帰れるかと思った・・・  
その時！

ギイーーー！

翔の目の前で子供がトライック引かれそうになつた！

翔  
「ガキ、あぶねえ！」

翔は子供を助けたがその代わり・・・

？？？・・・

翔  
「うひ・・・」

翔  
「うひ・・・」

？？？

翔  
「お主は一應生きてるのじや」

翔  
「アンタは？」

？？？

翔  
「ワシは神様じや」

翔

「神様？閻魔様じやなくて？」神様

「ハツハツハツーお主は本来死ぬ運命では無いのじやがお主が子供を助けたからの」

翔

「おい、ジジイ子供はどうなつた？」

神様

「ワシにジジイは無いだろ」

ざつと見て神様は三十前半の人見える

翔  
「わかつたからさつを言へ」

神様

「あの子供は無事じや」

翔

「良かつた」

神様

「さて、お主にはある世界に行つてもうい七体のモンスターを封印しに行つて貰ひ」

翔

「封印？おれなんかが出来るのか？」

神様

「お主は格闘、銃、刀など売べきだから大丈夫じゃ」

翔

「・・・わかつた、どの世界へ行くんだ？」神様

「恋姫無双の世界じゃ」

翔

「恋姫無双？」

神様

「後、パートナーを呼んでおくから」

翔

「武器は？」

神様

「向ひつで」

翔

「まわか・・・」

神様

「では、行つてくれじゃ」

その時、翔の足元に穴が現れ・・・

ヒューン

落ちた

翔

「ジジイ！ふざけんなよーー！」

さて、は神様から七体のモンスターを封印する仕事を頼まれた翔  
彼は転生した世界で任務を達成出来るのか？

## オリキャラ（主人公）紹介（前書き）

翔「今日は俺の紹介だ」

## オリキヤラ（主人公）紹介

### 黒宮翔

任務の帰り道にトラックに引かれて死んだと思ったがジジイ（神様）が恋姫無双の世界にモンハンの伝説のモンスターが逃げ出したらしく、神様から封印して来てくれと頼まれた高校生今までいろんな任務をしながら高校を過ごしてきた仲間を大事にしているが、それは転生前の世界で何かあつたらしい・・

### 武器

#### 太刀（天翔）

普通の太刀に翼や黒い布が鞘に装飾されている片手で振り回す事も出来るが基本は両手で振る

### 籠手（天空）

#### 両腕につける武器

かなり重そうに見えるが実はとても軽い刀や弓矢を折れるくらい強い

### 脚籠（月影）

#### 脚につける武器

普通は天空と一緒につける木などを簡単に壊せる天空とつける事で身体能力が跳ね上がる

### 姿

ガンダムOOの刹那  
ファーストシーズン

性格

若干クールだが仲間思いである

特徴

黒い服を纏い、天翔と天空と月影を常に装備してゐるが本人は天空と月影だけで十分らしい・・・

翔「なあ、天翔は外させてくれ」

作者「それは無理だ」

死神だつて愚痴るんです・・・

頭は・・・まあまあかな

翔「まあまあって・・・」

作者「頭良すぎるのつて嫌じやん」

翔「勉強しろよ作者・・・」

人には優しいが、愛紗（関羽）には何か違う・・・

翔「なあ、作者これ違うよな？」

作者「いや、愛紗は俺の嫁だ」

翔（痛い人だな・・・）

作者「バカな人だとおもつただろ」

翔「えつ？ソンナコトオモツテナイヨ」

作者「・・・」

彼が封印する伝説のモンスター

ミラボレアス

ミラバルカン

ミラルーツ

アカムトルム

ウカムルバス

?????

の七体

翔「なあ、????? もモンハンのモンスター？」

作者「まあネタバレな所も有るからな」

翔「封印出来る気がしないんだが・・・」

作者「まあ、大丈夫さ（笑）」

## オリキヤラ（主人公）紹介（後書き）

翔「なあ、俺強すぎると気がするんだが・・・」  
作者「いや、まだまだ進化して行くよ、弱いから」  
翔「もう、チートをしてるような気がする」  
愛紗「それより私がいてよろしいのですか？」  
翔「作者がいてくれって言うから良いんじゃない？」  
愛紗「しかし作者殿が・・・」  
作者「はあはあはあ・・・愛紗可愛すぎると・・・」  
翔「・・・イカれちまつた」  
作者「愛紗ーー！愛してるぜーーー！」  
愛紗「翔殿助けてくださいーーー！」  
翔「まあいいか、楽しそうだし」  
作者「さあ愛紗、俺と一緒に良いことじょうぜーーー！」  
愛紗「翔殿ーーー！」  
翔「ガンバれ！」  
愛紗「ちょっと、翔殿ーーー！」  
作者「さあ逝こうぜ、あつ違つた行こうぜ」  
愛紗「うわーん！翔殿ーーー！」  
その後愛紗は作者と・・・  
翔「んな訳無いだろ俺が作者を・・・殺したから」  
愛紗は大丈夫だったが・・・  
作者「痛てー翔天空で殴るなよ」  
まあ、こんな感じであとがきは毎回作者が暴走しますが皆様、ご感想をよろしくお願ひします。  
翔「後、作者を殺す方法や作者を地獄に陥れるイタズラをよろしくこれからよろしくお願ひします。

## 第一話 桃園の四人（前書き）

お待たせしました！

（）はキャラの心の声です

# 第一話 桃園の四人

？？？サイド

？？？「ほら、みんな早く～」

？？？一 お待ちくたさし桃香様」

？？？一矢二矢三矢四矢五矢六矢七矢八矢九矢十矢  
山賊かしるかもしれんじゃん？」

その時は鉢巻かせに一石三鳥のた！」

彼らは、山に何かが落ちた音を聞きその落ちた物を探しに来てる  
のだが・・・

？？？——ふえ、ん見つからぬいよ」

？？？——そりゃり簡単に見つからなかったぞ」

？？？一はにゃ？誰か倒れてるの？」

下がてください様

桃香お姫ちゃんに下かせておくのだ」

羽サイド

翔（痛え～ジジイ、もう少しマシな落ち方無いんか・・・）

心中でボロクソ言いまくつてゐるが・・・まあ良いでしょう

翔（しかし、ここのはどこだ？）

彼の回りには草原が広がつてゐる

翔（あそこに誰かいるな、ここのがどこか聞いてみるか）

翔「すみません、ここのはどこですか？」

「？」「その前にお前の名前を言え」

翔「俺は黒宮翔」

「？」「黒宮さんは天の國の人なんですか？」

翔「天の国？」

「？」「桃香、俺が話すから良いよ」

「？」「うん、わかつたご主人様」

翔「お前、フランチエスカか？」

「？」「フランチエスカを知つてゐるのか？」

翔「俺も高校生だからな・・・いや、だつたか・・・」

「？」「だつたか？」

翔「ああ、俺は……ちょっと死んでしまってさ」

？？？「何をふざけた事を…」

？？？「ま、待てよ！愛紗といつあえず話を聞こつ

？？？「くつ、分かりました」

一刀「俺は北郷一刀」

翔「なあ、一刀彼女達はなんだ？」

一刀「彼女達は……」

翔「お前のメイドか？」

一刀「違つよ、仲間だよ

翔「仲間？」

一刀「とりあえず、紹介を……」

翔「なあ一刀、ここはどこだ？」

？？？「ここは桜閣さく閣だ」

翔「桜閣？」

一刀「とりあえず紹介するから鈴々、桃香、愛紗

一刀が言うと三人の女が来た

桃香「えっと、私の名前は劉備です」

翔「……はつ？」

鈴々「鈴々は張飛なのだ」

愛紗「我が名は関羽」

翔「一刀ちょっと来い」

一刀「なんだ翔？」

翔は、一刀を呼ぶと彼女達の方を指しながら聞いた

翔「あれ、偽名だよな？」

一刀「俺も最初はそう思つたよ」

翔「えつ、じゃあ……」

一刀「多分、気付いただろ？けど今俺らは……」

翔「三国志の世界にいるだと？」

一刀「うん

翔「ウソだろ……」

愛紗サイド

愛紗（まつたく、）主人様は・・・あんなわからない者をどうするのだ）

桃香（もしかしたら彼なら・・・）

桃香は何かを決心し翔に話かけた・・・

桃香「あの、翔さん！」

翔「ん、なんだ劉備？」

桃香「あの、私達の仲間になつてくださいー。」

翔「へ？？」

愛紗（桃香様、何を！？）

翔サイド

翔（仲間になつてくれか・・・）

翔は、桃香の目には何かの決意があるとわかつたからだ

翔（話を聞いてみるか）

翔「で、その訳は？」

桃香「私思つんです、どうして力がない人が虐められるのかを・・・

「

翔「・・・」

桃香「だから私、思つたんです、私が力のない人が虐められない世の中に変えて見せるつて！」

翔（力のない人が虐められない世の中か・・・）

桃香「そして、いろんな人に力を借りながら実現させようと頑張っているんです」

翔「つまり、俺がその理想を叶えるために手伝ってくれど？？」

桃香「ハイ！」

翔「・・・わかつた」

桃香「じゃあ・・・」

翔「ただし、条件がある」

桃香「条件？」

翔「ああ」

翔が出した条件それは・・・

翔「そこにはいるのは関羽と張飛なんだろう？なら、戦わせてくれよ

そこにいた全員が空いた口が塞がらなかつた・・・

一刀「翔、マジで言つてんのか？」

翔「マジだ」

愛紗サイド

愛紗（こいつはバカか、私たちが負けるはずが無い）

愛紗は翔なんか、雑魚だろうと思ひながら勝負を受けた・・・

愛紗「わかった、その勝負受けよ！」

翔「へえー、やる気満々だな」

鈴々「鈴々を忘れるななのだ！」

翔「二人まとめてかかってこい！」

翔サイド

翔は一刀に天翔となんかの入ったアタッシュケースを渡した

一刀「なあ、翔これ何が・・・」

翔「さあ・・・あつ、それ十キロぐらい詰まつてるらしいから

一刀「ちょ十キロって、ふんぎや――！」

桃香「ご主人様大丈夫！？」

翔「あ～あ、やっぢやつたな」

いつたい、彼のアタッシュケースには何が入ってるんだろうか・・・

移動してる内に決戦場?に着いた

翔「わあ～て、始めますか」

翔は、天空と月影を装備し、構えた

愛紗「では、始めるぞ」

翔「後、お二人さん、俺投げ技しかしないからな

愛紗「ふざけた事を・・・参るー」

鈴々「参るのだ!」

翔「かかってこい!」

愛紗「はああああ!」

ブン!

翔「よつと」

愛紗「やああああ!」

シユン!

翔「ほらほら、その程度かな?」

愛紗「くつーーー！」

翔は、避けてる一方なのだが戦つ氣はあるのか？

翔（今だ！）

翔は、関羽達の懷に入り込み・・・

翔「はああああー！」

投げ飛ばした・・・

翔（うつ・・・じうなつた？）

彼の目の前は真っ暗

彼は手当たり次第、  
周囲を触つていると・・・

ピーツ

翔（柔らけー）

ピーツ

愛紗「あん、そこは・・・」

翔（えつ？）

翔が目を開けるとそこは・・・

翔と愛紗

「「あつ・・・・・」」

翔は、愛紗の一つの膨らんだ山を揉んでた・・・

翔「あつこれは・・・・・」

愛紗「このバカがーーー.」

ドン！

翔「くボツー？」

翔は愛紗から右ストレートを咬まされぶつ飛んだ・・・

その後・・・

翔「なあ、許してよ」

愛紗「ふんつー」

翔（はあ・・・・・わつ）えば真名つてなんだろ？）

翔は真名の事を聞いたとした

翔「なあ、一刀真名つてなんだ？」

真名・・・それは認められた者しか呼んではいけない名、たとえ知つてもその人の許可なしに言う事は死に値する

桃香「と、いう感じです」

翔「まあいいか、これからよろしく」

桃香「じゃあ、私たちの真名も授けます」

愛紗「桃香様！」

桃香「愛紗ちゃん、翔さんは仲間だからねわかつてるでしょ」

愛紗「むう～」

桃香「じゃあ、私から名前は劉備、真名桃香だよ」

鈴々「鈴々は張飛、真名は鈴々なのだ」

愛紗「むう～仕方ありません、名前は関羽、真名は愛紗」

一刀「俺は北郷一刀、フランチュスカの学生だ」

翔「俺は黒宮翔、よろしく」

こつじて死神黒宮翔は女だらけの三国志、恋姫無双の世界に降臨した、これから彼らの戦いが始まる・・・

## 第一話 桃園の四人（後書き）

翔「皆の頭脳を調べて見よー。」

翔「作者、テスト近いのに大丈夫か？」

作者「ああ・・・たぶんな」

翔「・・・まあいいか鈴々、 $6 + 4$ は？」

鈴々「64なのだ！」

翔「桃香、分かるよな？」

桃香「私も64かな？」

翔「・・・愛紗」

翔  
愛紗「ハイ！46ですよね？」

翔

作者「愛紗ちゃんバカでも良いから後で俺の所に来い」

愛紗「分かりました」

作者（今から愛紗ちゃんをか・ん・き・んしてやるフツフツ・・・）

後日・・・

作者「警察さん！僕は監禁してません」

警察「とりあえず、カツ丼食うか？」

作者は監禁未遂罪で捕まった・・・

## 第一話 アルティメット来る！（前書き）

久しぶりの更新です

## 第一話 アルティメット来る！

愛紗達の仲間になつた死神、黒宮翔  
しかし・・・

翔「何で俺らは歩いてんだ？」

愛紗「翔殿、それ聞くの三十回目ですよ」

翔「だつてさあ、馬か何かは無いの？」

一刀「仕方ないじゃん無いんだから」

なぜ彼らがこうなのかつて？

それは数日前の事である・・・

数日前・・・

翔「仲間になつたは良いがこれからどうするんだ？」

愛紗「そうですね、東に向かつて見ますか」

翔「東つて何が有るんだ？」

桃香「なんか、もんすたーって言つのがいるつて

翔「モ、モンスター？」

鈴々「そつなのだ、強いらしいのだ」

翔「それで、東に？」

愛紗「という事です」

そして、今に至る・・・

鈴々「鈴々、歩くの疲れたのだ」

一刀「俺もだ、町は無いの？」

翔「あつ、あるみたいだぜ」

桃香「お腹すいたー」

鈴々「鈴々もなのだ」

翔「町でモンスターの情報を集めて見ますか

とあるラーメン屋・・・

翔「東園<sup>とうえん</sup>？」

愛紗「東園つて所にもんすたーって言つのがいいらしきです」

翔「東園か・・・」

東園・・・東の方では有名らしいが・・・

翔（実際の歴史上では無かつたな）

しかし、そんなことは彼にとつてはぜりつでも良かつた

翔（しかしジジイが言つてた相棒つてどんなモンスターだ？）

ジジイが相棒がいるとしか言われて無いためどんなモンスターか知らない、えつ？どんなモンスターかつて？それは作者にしかわからない

翔「早くしろよ」

ズズズ・

翔「ラーメン美味えなあ」

ズズズ・

ラーメン食つてから東園に出発した翔達、そして・・・

東園

翔「着いた」

愛紗「着きましたね」

鈴々「着いたのだーーー！」

桃香「やつと着いた」

一刀「やつと着い・・・・」

翔「じゃあ、行くか

一刀「ちよ、翔俺にも言わせてよ」

ガヤガヤ・・・

東園に来たが不思議なぐらい騒いでた・・・

翔「なあ、何があつたんだ?」

兵士「あなたは天の御遣い様ですか?」

翔「ああ、そうだが・・・」

兵士「良かつた、こちから来て下さい」

翔「・・・?」

するとそこで翔が見たのは・・・

愛紗サイド

愛紗「まったく翔殿はどこにいるんですか・・・」

愛紗が愚痴るのも仕方ない、桃香と一刀はかるくイチャイチャしながらどこかに行き、鈴々に限つては・・・

鈴々「ご飯が鈴々を呼んでるのだ!」

と言つとどうかに行つてしまつたから愛紗が一人で探しているので

ある

愛紗（はあ・・・自由なんだから）

と思ひながらため息をし、探していると・・・

桃香「愛紗ちゃん」

一刀「愛紗～」

鈴々「愛紗～早く来てなのだ」

愛紗（何があつたのだ？）

するといこには・・・

翔サイド

翔「お前がジジイの言つてた相棒か？」

「そりだけど、アンタが死神だね？」

？？？

翔「ああ、名前は？」

アル「俺はアルティメット、死神の新しい相棒だ」

アルティメット

見た目は一足で立つているドラゴン、翼があり右腕にガトリング、

左腕にソードを装備している  
擬人化した時はガンダムSEED DESTINYのシン

翔「アルティメットか……」

アル「どうしたんだ?」

翔「いや、名前が長いからな、アルだな」

アル「アルかあ……略すなよ」

翔「まあ良いじゃん」

ビビ「でも良い事言つてたら……」

愛紗「翔殿、その方は?」

翔「新しい相棒だ」

アル「なあ、そろそろ正体ばらして良いよな?」

翔「まあ……大丈夫かな」

と言つとアルトはモンスター化した

ガヤガヤ……

桃香「すごい……」

一刀「スゲー……」

鈴々「すごいのだ！」

愛紗「翔殿大丈夫なのですか？」

翔「まあ良いしょ」

その時！

兵士「大変だ！黄巾党がこの町に襲撃しに来る」

翔「その話、本当か！？」

兵士「はつ一数は一万です！」

一刀「一万つて・・・」

桃香「どうしよう」

愛紗「余りに戦力が違うすぎる」

翔「一万つて余裕だろ、アル」

アル「ああ、そうだな翔」

翔「俺達に任せろ」

という訳で・・・

翔「アル、簡単に殺られるなよ

アル「それはアンタもだろ」

ハハハハ・・・

翔「さて、行きますか」

翔は天翔を構え、アルはモンスター化し、黄巾党に言つた

翔「聞け賊共！俺はお前らを地獄に連れて行く死神だ！覺悟がある奴だけかかるて来い！」

と言つとアルと翔は戦場に入り戦い始めた・・・

数分後・・・

翔「簡単だつたな」

アル「雑魚過ぎ」

二人は余裕の表情で帰ってきた

愛紗「お疲れ様でした、凄かったですお一人の武術」

翔「そうか？」

そんな話をしてたら町長がやって來た

町長「黒富様、もんすたーが北の方にいるとの噂を聞きました」

翔「本当か町長？」

町長「はい、そりゃじこですか」

翔「ありがとうございます」

翔「皆、北の方にモンスターがいるらしくから行って見よせ」  
愛紗「それがよろしいでしょ」

桃香「行ってみよ」

翔「よし、出発だ！」

全員「オー！」

俺らは北の方に向かい、モンスターを探しに行く事になった

## 第一話 アルティメット来る！（後書き）

翔「アルってさ何で両腕に武器が着いてるの？」

アル「さあ、作者にしかわからないじゃん」

翔「作者、テストは大丈夫だったのか？」

作者「多分、ヤバいかも・・・」

愛紗「作者殿、勉強していください」

作者「じゃあ、愛紗が教えてよ」

愛紗「分かりました」

後日・・・

作者「翔アル、愛紗に勉強を聞いたのが間違いだった」

アル「でも、何か良い事あつた感じだよ」

作者「いやあ、ちょっと愛紗の二つの山を触り捲つてアーピーしてたんだよ！」

翔「あー、警察さん？ここに痴漢と監禁とわいせつをした容疑者がいるので至急逮捕をよろしくお願ひします」

作者「・・・」

アル「お決まりみたいなもんだろ」

## 第三話 人妻と迷子探し（前書き）

翔「他の一作品は更新していないようだが大丈夫か？」

作者「まあ、更新停止かな・・・」

翔「まじめにしろや」

作者「では、本編をどうぞ」

## 第三話 人妻と迷子探し

前回、町長から北の方にモンスターの噂を聞き向かっている翔達  
彼らが行く先にモンスターはいるのか？

翔（まだ、桃香は国を入手していないのか？）

彼がそう思つるのは黄巾党が襲撃して來たからだ

翔（蜀がないつて事は、大きな戦がまだないつて事か・・・）

アル（まあ、歴史の流れ通りに行くかわからぬからな）

翔（何でお前がいるんだよ）

アル（能力で心をシンクロさせて話せるからな）

翔（意外だな、でどう思つ？）

アル（まず、武将達が女である事が違う）

翔（次に、聞いた事が無い場所がある）

アル（多分、パラレルワールド説が有力かと思うな）

翔（パラレルワールドって存在しないつて言われてるのに？）

アル（じゃないならこれはどう説明できる？）

翔（確かに・・・）

話をしてる内に・・・

桃香「この村で休憩しましょうよ

一刀「うん、俺もそう思つ

鈴々「ご飯なのだー」

翔「情報を集めるためにな

アル「俺は人間化して置くぜ」

翔「ああ、頼む

村

ガヤガヤ・・・

翔「ここも賑わってるよな

愛紗「そうですね

アル「まあ、あそこでイチャついてるカップルがいるけどな

桃香「ねえねえ、ご主人様これ可愛いよね？」

一刀「俺もそう思つよ桃香」

桃香「ホント、『主人様？』

一刀「ああ、スゲー可愛いよ」

これ以上この二人の様子を書くのはダルいので翔ばします

作者「無限に続くから書くのはダルい」

翔「その様子を見ている俺達はどうしたら良い？」

作者「愛紗ちゃんはやらないからな、エロ神」

翔「だれがエロ神だーー！」

ヒュン！

作者「では続きを」

愛紗サイド

愛紗「鈴々、食いきれるのか？」

鈴々「大丈夫なのだ！」

愛紗「はあ・・・」

愛紗（翔殿を置いてきぼりし、鈴々に連れてかってきたのだが大丈夫でしょうか？）

愛紗にそんな心配をされている翔は・・・

翔サイド

翔「俺ら、迷子だな」

アル「迷子だな」りや・・・

翔「・・・」

アル「・・・」

二人の間に沈黙が流れ・・・

二人「はあ・・・」

二人「どうしようか、アル「翔」」

そんな二人の目の前に小さな泣いてる女の子がいた

少女「うえーん、お母さん！」

アル「やつやしき口リコンやろ・」

翔「誰が口リコンだ！」

んな事言いながら翔は泣いてる少女に話しかけた

翔「どうしたんだお嬢ちゃん」

少女「あのね、お母さんとね、はぐれて迷子になつたの」

翔「お兄ちゃんと一緒にお母さんを探しに行こう」

少女「私ね、璃々つて言つの」

翔「じゃあ璃々ちゃん、あのお兄ちゃんと一緒に探せ」

翔が指差した先には・・・

アル「で、俺も手伝えと?」

翔「まあ、良いじゃん」

アル「良くねえ、なあ璃々お母さんってどんな人?」

璃々「んーとね、優しくてきれいでいろんな男の人には話しかけられるよ」

アル「ナンパされるほどの美人ってどんな人だよ」

璃々「お兄ちゃん、なんぱつてなーに?」

翔「璃々ちゃん気にしなくて良いよ、あのチャラ男（龍）はバカだらな」

アル「誰がチャラ男やー?」

そんなバカな事話してる内に

???

「璃々～ビーン～」

璃々「あつ、お母さんの声だー。」

声のする方角に行へと・・・

愛紗サイド

あの後、愛紗と鈴々は一刀と桃香に合流し翔とアルを探しに行つて  
ると・・・

？？？

「あの、」の辺で女の子を見てしまんか？

愛紗「女の子？いや、見てないが」

桃香「どうかしたんですか？」

？？？

「娘とはぐれて迷子になつたみたいで」

鈴々「それは大変なのだー。」

桃香「私達も一緒に探します」

？？？

「あつがどうぞこまわ」

そつして探してゐた

璃々「お母さん!」

？？？

「璃々! 良かった、本当に良かった」

翔「良かったな璃々ちゃん見つかってさ

璃々「ありがとう翔お兄ちゃん!」

そう言つと璃々は

チユツ

翔のほうにチューした

愛紗「翔、殿、な、にしたん、で、すか?」

翔「愛紗、苦しい、首首!」

桃香「翔さん、何したんですか?」

翔「するわけ無いだろ!」

アル「あ、やつちやつたなあ、一刀?・・・・

少女「御遣い様」

一刀「ハイハイ、わかつたからな

アル「桃香、一刀が浮氣してるぞ!」

桃香「つも？本当に？」

アル「あそこ！」

その後、一刀は殴られ、翔は死ぬ直前になつてた・・・

翔「で、あなたの名前は？」

紫苑

「黄忠と聞こます」

翔（なあアル、黄忠つて『』の名手だよな？）

アル（仲間になつてくれたらうれしいと思つぽい）

翔（シヨウトーネゴシヨウーションを開始だ）

アル（ネゴシヨンねえ～？）

翔「黄忠殿、俺らと共に旅をしないか？」

紫苑「はい、いらっしゃるじくお願ひします」

愛紗「翔殿！何を考えているんですか？」

桃香「愛紗ちゃん、きっと翔さんは天の国の御遣いで強いからと思つよ」

鈴々「鈴々は、翔お兄ちゃんは天の国の御遣いで強いからと思つよ」

なのだ！」

愛紗「もう～鈴々まで」

アル「まあ、良いじゃないか姉さん」

愛紗「アル殿まで・・・あ～分かりました！」

翔「なあ黄忠、真名つて」

紫苑「紫苑で良いですよ」

翔「じゃあ、紫苑よろしく」

こうして、紫苑が仲間になつてくれた翔  
これから大変そうだ・・・

## 第二話 人妻と迷子探し（後書き）

翔「なあ、紫苑つてさいるんな男からナンパされるつて璃々ちゃんから聞いたんだが何の仕事をしてるんだ?」

紫苑「昼は普通の母親で夜は・・・」

アル「怪盗 ウーマンとか言つやつ・・・」

璃々「夜は、お母さん璃々の知らない男の人と抱き合つてたよ

一刀「えつ? それってセ・・・・」

翔「言つな 一刀!」

璃々「何か抱き合つてた時に声も聞こえたよ

アル「やつぱ、それってセ・・・・」

翔「お前も言つな!」

愛紗「翔殿、その・・・」

翔「愛紗も言つな!」

璃々「で、何か朝までやつてたの

桃香「本当にすじこよね、セ・・・・」

翔「桃香も言つなー！」

翔「璃々ちゃんお母さんの仕事の話はもう良いくからな、この小説誰が読んでるか分からないからな、あそここの変態作者みたいな奴がいるからな」

作者「誰が変態だ、ロリコンー。」

翔「ロリコンだとー？」

作者「俺は愛紗一筋だからな、変態とは違つのだよ、変態とは」

翔「そのセリフはあれだな」

作者「さあ、愛紗ちゃん今から家でイロイロじょじょー。」

愛紗「翔殿、助けてー！」

しかし、作者が愛紗の二つの山に触れた瞬間ー。

愛紗「この、変態作者がーーー！」

ピカーン！

愛紗の右アッパーが炸裂し、作者は天国？（地獄）に墜ちた・・・

紫苑「ちなみに私の仕事は です」

翔「自信満々に言つなよー！」

## 第四話 死神の戦い方（前書き）

今回、短いです

後、グロい所もあります

## 第四話 死神の戦い方

翔「なあ、いつになつたら着くんだ?」

愛紗「話だと、この辺らしいですが」

アル「ここつて北方面だろ」

翔「つて事は、魏か・・・」

桃香「魏つて?」

翔「将来、敵になるかもな」

愛紗「敵・・・ですか」

翔「命は自分でどうにかしろよ」

一刀「どうにかって・・・」

翔「璃々と紫苑と一刀とアルは残つててくれ」

アル「大丈夫なよつならシンクロで呼んでくれ」

翔「わかつた、愛紗、桃香、鈴々、行くぞ」

翔達は魏の国の関所を越えて魏の国のある町、砂背さばいの城に入った

???

「あなた達？私の所を通りたいのは」

翔「いや、話をしに来た」

？？？

「他の人を呼んで来なさい」

翔（アル、来てくれ）

アル（了解）

数分後・・・

翔「俺たちの話を聞いてくれてありがとう、曹操」

華林「！…よく私が曹操ってわかったね」

アル「へえー、こんなチビドリル頭が曹操か」

春蘭「キサマ、華林様になんて事を！」

華林「春蘭！いい加減にしなさい」

春蘭「クツ！」

翔「話に来たのは・・・」

兵士「申し上げます！」

華林「今、会談中の分からぬのー。」

兵士「今、噂のモンスターの大群が襲撃に来て！」

華林「すぐに兵士を！私も後から行く」

翔「俺たちも行くぞ」

愛紗「御意！」

鈴々「わかつたのだ！」

翔「一刀と桃香と璃々ちゃんはここに残つてくれ

一刀「わかつた！」

翔「アル、ひと狩り行きますか！」

アル「よっしゃ、行くぜ！」

そして、戦場に行つた・・・

戦場

翔「おお・・・いるいる

アル「ドスランポスヒドスジャギイにイヤンクックか

愛紗「あれが・・・」

華林「今よー弓隊放て！」

ヒュン！

しかし、ドスラン・ポス達の前では無効かだった・・・

ギヤオギヤオ！

ズサツ！

兵士「うわー！来るなーーー！」

兵士達がどんどん死んでいく中、華林は・・・

華林「そんな我が軍の部隊が・・・」

春蘭「華林様！」

華林「はっ！？」

ギヤオギヤオ！

その時、華林の後ろにラン・ポスが飛びかかった・・・

華林（クツ！）

ボキッ！

ギヤア・・・

バタツ・・・

華林「いつたい誰が・・・」

翔「ぼさつてするな、死にたいのか！」

愛紗「翔殿・・・」

そう、彼はランボス達の首を折つたり、ヤンクックの耳を引きちぎつたりと血を出さず殺してると思ったら・・・

翔「はああああ！」

ビュン！

ズサツ！

ギャア！

頭を天翔で切り落としたりと残酷な光景になつていて・・・

愛紗「これが翔殿のやり方・・・」

華林「死神・・・」

鈴々「何も言えないのだ・・・」

アル「翔・・・死神の名にふさわしい人物だな」

翔（血が弾け、首が飛ぶぜ！）

そして翔は叫んだ・・・

翔「これが俺のやり方！死神のやり方だ！血が足りねえ、もっと殺してやるよ！」

彼は・・・もはや死神の状態に入ってしまった・・・

愛紗「鈴々、大丈夫か！？」

鈴々「愛紗、もうここにいたく無いのだ」

モンスターの大群を全部片付けた後

華林「あなたの目的は何？」

翔「俺の目的はモンスター狩りをしながら、桃香達の理想を手伝う事だ！」

## 第四話 死神の戦い方（後書き）

翔「はあ・・・」

作者「かなり、殺したな死神」

翔「ああ、死神の戦い方ってこんなグロッキーで良いのか？」

作者「まあ大丈夫だろ」

アル「まあ、死神の名にふさわしいからな」

翔「死神か・・・」

作者「という訳で死神に愛紗ちゃんの魂を持つて行かれたくないから拉致・・・じゃなくて誘拐・・・じゃなくてお持ち帰りじゃなくて連れて帰るわ」

翔「いろいろ危ない事言い過ぎだろ、犯罪者予備軍が！」

作者「なんや、璃々に普通に話しかける口リコンが！」

アル「まあまあ、待てや一人とも」

翔と作者「「黙れ、エロ龍が！」」

愛紗「はあ・・・」の作品大丈夫でしょうか？」

## 第五話 雷獸、ジンオウガ！

華林「それがあなたの目的？」

翔「ああ

華林「・・・で私はどう手伝つたら良いの？」

春蘭「華林様！」

華林「春蘭、落ち着きなさい」

秋蘭「落ち着け姉者」

春蘭「しかし！」

翔「話を続けて良いか？」

華林「ええ、続けて」

翔が聞いた事それは・・・

翔「噂で良い何か無いか？」

華林「私は聞かないねえ」

風「確かにモンスター情報が無いですね」

秋蘭「確かに」

兵士「あの・・・」

翔「何だ?」

兵士「りこねこ雷山の所で満月の夜に何かの鳴き声が聞こえると・・・」

翔「満月・・・鳴き声・・・」

桂花「そんなの普通じゃない」

翔「いや、心当たりがある」愛紗「本当ですか翔殿?」

アル「雷山・・・満月・・・鳴き声・・・アイツか」

翔「多分あれだな、おい猫女」

桂花「誰が猫女だ!」

華林「桂花、黙りなさい」

翔「いつ、満月だ?」

桂花「クッ! 答えたくないが、今日だ」

翔「曹操、兵士を雷山に行かせるな

華林「どうして?」

翔「相手は素早く、雷の攻撃だ」

愛紗「あの・・・翔殿我々は？」

翔「愛紗は大丈夫だ来てくれ」

決戦まで・・・

翔「はつ！」

ガキーン！

凪「クツ！はつ！」

ガーン！

翔「大分、ペースがわかつて来ただろ」

凪「はあはあ・・・スキが少ないがはあはあ・・・体が追い付かない」

翔「まあ、しゃーないやろ」

アル「さすがだな翔」

愛紗「翔殿つてあんな感じだが大丈夫なのかアル殿」

アル「知らねえ、でもやつて行けるから良いんじゃない？」

アルは愛紗と一緒に木の下で餡まんを食いながら、翔と凪の演習の様子を見てた

愛紗「翔殿危ない！」

翔「よつとー！」

凪「ここまでだな」

翔「ああ、良い動きじゃん楽進」

凪「そうか？ 体が軽くなつた気がするが」

その時

典韋「凪……！ 昼飯出来たよ……黒富むん達も……！」

翔「ああ、行くか楽進！」

凪「うむ」

愛紗「あれ？ 翔殿私達はつてアル殿？」

気が付いたら周りに誰もいなく愛紗一人だつた・・・

夜

翔「よし、作戦の説明をする」

今回の作戦

翔「まず、俺とアルでモンスターの動きを止める、その間に紫苑と

夏候淵が弓隊で弓を放つ、残りの者は距離を開けてまあ観戦してくれ以上、質問がある奴」

秋蘭「弓はどのくらい放てば良い?」

翔「やうと一万だな」

桂花「一万つて少ないが大丈夫なの?」

アル「その後は俺と翔で奴に接近して戦」

愛紗「接近って危険です!」

翔「愛紗、俺とアルが弱そうに見えるか?」

愛紗「うう・・・それは・・・」

紫苑「愛紗ちゃん、翔さんは帰つて来るから大丈夫」

愛紗「むう・・・」

翔「説教は帰つてからな」

翔が愛紗の頭を撫でてから天翔と天空と月影を装備し

翔「やあああてやるぜ!」

翔がそう叫ぶと馬に飛び乗り、雷山に向かつた・・・

## 翔サイド

翔（やつぱ雷つて事はアイツだが武器は良くても防具がな・・・）

アル（神様から聞いたんだが、防具などは大丈夫つて）

翔（ジジイがねえ・・・嘘つぽいな）

アル（まあ、大丈夫わあ）

翔  
だけどなあ・・・

その時！

ウオオオーン！

翔「今のはー?」

アルト「いづちだー！」

翔達は声がした方に向かつたが

翔「いねえじやん！」

アル「おかしいなあ」いづちからしたんだが・・・」

愛紗「翔殿ーー！」

紫苑「翔さんー！」

翔「何があつた紫苑！」

愛紗「翔殿私は？」

翔「紫苑、何かあつた？」

紫苑「実はですね・・・」

愛紗「あの私は・・・」

アル「放置されたな姉さん

愛紗「うう～翔殿～」

アル「姉さんドンマイ」

そんな、愛紗を放置してゐる張本人は・・・

翔「愛紗を放置してゐんぢやない、あえて無視してゐんだ

アル「やつぱ翔らしいな」

紫苑「あの話をよろしいかしら？」

翔「話をしてくれ」

その話は緊急事態ハイマージンシテ！だつた・・・

翔「璃々がいなくなつた！？」

紫苑「ええ、田を離してたらいなくなつてて・・・」

翔「アイツに見つかつたらヤバいかもな・・・」

紫苑「ビッシュショウー。」

翔「急いで探そう。」

璃々がいなくなり更に緊迫した状態になつた翔達・・・

一方

璃々「エリビー?」

璃々は紫苑と離れてしまい一人ぼっちにまたなつてしまつた

璃々「お母さん! 翔お兄ちゃん!」

???「どうしたの?」

璃々「あのねえ~お母さん達と迷子になつたの」

???「俺も探すよ」

璃々「ありがとう、大きな犬さん!」

ジン「俺は大きな犬さんじゃなくてジンオウガな」

璃々「私は璃々だよジンお兄ちゃん!」

ジン「んじや、探しますか！」

璃々「おお！」

璃々はジンオウガの前足から背中に乗り璃々とジンオウガは翔達を探す事になつた・・・

その頃翔達は

翔一璃々どこだ――！」

紫苑一璣々！」

愛紗 - 扱わかやハ・・・・」

アル「そんなこと考えるな、どうせなら翔と紫苑がやつてからもつ  
一人作れば良いじゃん」

翔アール！てめえ、裏切ったな！」

紫苑「そうねえ、子供はもう一人欲しいからねえ」

# 愛紗「紫苑まで！？」

翔「俺が紫苑と！？」

紫苑「翔さん私が妻ではダメですか？」

翔  
「うつ  
・  
・  
・  
」

翔（紫苑はスタイル抜群だし、美人だしマジで結婚しようかな？）

華林「ねえ、何か来てない？」

翔が考へている間に華林が言った

アル「この気配・・・来るぞ！」

ウォオオーン！

璃々「お母さん！」

全員「え？」

その時声がしたのはジンオウガだけではなく璃々もだつた・・・

紫苑「璃々、何してるのー？」

璃々「何つてジンお兄ちゃんと一緒にお母さん達を探してたの」

ジン「と訳です」

翔「ジンオウガだよな？」

ジン「あんたは？」

翔「俺は、翔お兄ちゃんだよジンお兄ちゃんー・・・だ

ジン「セリフとられたな」

翔「うるせえ、どうせ戦うだけだ

アル「やれやれ、翔がセリフとられたて泣いてやがる」「

翔「アル行くぞ！」

アル「ハイハイ行きますか

しかし・・・

璃々「ダメー翔お兄ちゃんでもジンお兄ちゃんをいじめるのはダメ！」

翔「璃々ちゃん・・・」

愛紗「璃々殿・・・」

紫苑「璃々かばつてもダメです！」

璃々「お母さんもジンお兄ちゃんをいじめるの？」

紫苑「危ないから離れなさい！」

璃々「嫌だ！お母さんでも退かない！」

紫苑「璃々わがまま」もつ言わなくていいよ紫苑」しかし！

愛紗「そうです翔殿！危険なのでは？」

翔「いっは危険じゃない、大丈夫俺を信じろ！」

愛紗「……分かりました」

翔「……ジンオウガがどうする？..」

ジン「俺は……「ジンお兄ちゃんも一緒に行けー。……一緒に行く」

翔「改めてよろしくなジンオウガ」

「うして新しい仲間ジンオウガが仲間になった

後日

前回は餡まんだったが今回は肉まんを食いながら木の上にいる翔、  
そこに・・・

愛紗「翔殿、こんな所にいたのですか」

翔「ああ、愛紗か肉まん食う？」

愛紗「いえ、いりませんそれよりも曹操殿がお呼びです」

翔「曹操が？」

皆、曹操の所に集められたそこで言った事

華林「黒宮、私の仲間に」却下「どうして？」

翔「俺は百合百合しい所にいたくは無いね！」

愛紗「翔殿・・・」

翔「皆、行くぞ」

タツタツタツ・・・

華林「黒富翔、ますます気に言つたわ」

そんな華林の不敵な笑みを翔達は知らないだろつ・・・

門を抜けた所

翔「さて、これからどうする?」

アル「宛も無いし」

愛紗「モンスターの噂も有りませんからね」

桃香「あ、思い出した!」

一刀「桃香どうしたんだ?」

桃香「もう少し先の所に白蓮ちゃんの所だった!」

翔「誰?」

一刀「桃香の幼なじみで公孫贊つて人らしいんだけど・・・」

鈴々「どこかで聞いた気がするのだ」

ジンオウガ「どうするアーチキ?」

翔「んじゃ、影薄様の所に行つてみますか」

ジンオウガ「皆、俺の背中に乗つて!」

璃々「出発なのら~!」

ジンオウガ「なのら~!」

翔「璃々楽しそうだな」

紫苑「ええ、嬉しいみたいです」

翔達はジンオウガの背中に乗り、公孫贊（影薄様）の所に向かつた。

## 第五話 雷獣、ジンオウガ！（後書き）

翔「璃々、今日はお手柄だな」

璃々「ありがとう翔お兄ちゃん！」

翔「ほいアメちゃん」

璃々「ワードイありがとうー！」

愛紗「翔殿さつき璃々殿にあげたのは？」

翔「天の世界にあるお菓子だ」

一刀「でも、どうやって持つて来たんだ？」

翔「最初一刀に持たせたアタッシュケースがあつただらあの中に入つてた」

一刀「他に何が入つてるんだ？」

翔「わあ？」

璃々「翔お兄ちゃんー」この本何？」

そこには「あつたのはグラビア雑誌だつた・・・

翔「何でそんなものがーーー？」

紫苑「しかも巨乳系とロリ系とビキニ系ですね」

桃香「翔さんそんな趣味だつたんですね・・・」

愛紗「翔殿・・・覚悟出来てますね?」

翔「あのな愛紗、これは違うからな」

愛紗「何が違うんですかーーー!」

愛紗が青竜刀を振り回しながら追いかけられる翔

翔「桃香あれは一刀もあつたぞ璃々ようじくーーー!」

璃々「分かつたよ翔お兄ちゃん!」

一刀「やべ、ジン助けって裏切る気かよーーー!」

ジン「俺は璃々の味方だ!」

翔と一刀「「ロリコンかよーーー!」

ジン「俺はロリコンかもな!」

この後翔は愛紗から・・・

一刀は桃香から・・・

ジンは紫苑から・・・

ボコボコにされたのであつた・・・

鈴々「鈴々が出てないのだ――！」

## 第六話 男の娘は、孔明の罷…？（前書き）

翔「題名が男の娘って……」

作者「一度やりたくないだろ？」

翔「ああ」

作者「後、口リコンと小学生か……」

翔「作者も口リコンだろ」

作者「！？」

## 第六話 男の娘は、孔明の罷…?

ジン「桃香さん、どうですか？」

桃香「えつーとあっちかな？」

ジン「んじゃ行きますか」

桃香「いや、こっちかな？」

ジン「どうだよ桃香さん…」

翔（俺達は今桃香の友達公孫賛の所に向かってるのだが…）

アル（迷ったんだよな翔）

翔（ああどうしたら良いんだよ）

ジン（桃香さんが方向音痴過ぎて辛いよ）

翔  
ああどうじんもか…

ジン（もう三日間この辺歩いてるよな…）

璃々「お母さん璃々お腹すいたー」

紫苑「璃々我慢しなさい」

璃々「でもー」

翔「桃香いつになつたら着くんだよ」

桃香「えつーとアハハ・・・・」

皆が途方にくれてもう無理だろ思つたその時…

キャーーー！

アル「もういれ、お約束だよな」

翔「ああ・・・・」

一刀「助けに行くんでしょ？」

翔「どうしようつか？ダルいし助けに行かなくて良い？」

ドカッ！ボキッ！

翔「愛紗殴らなくて良いじゃん・・・・」

愛紗「なら助けに行きますよね？」

今、愛紗は笑顔で青竜刀を構えてるがその後ろには鬼神が見える・・・

翔「助けに行きます」

森林

翔「声がしたのは二つちだな・・・つてもう賊がいるし」

「はわわ、どうしてかわいがっていいんだー。」

？？？「あわわ、どうしちゃつ朱里ちゃん！」

チビ「良い子にしてるよ」

テブ「そうだな、良い子にしるんだな」

ノッポー大丈夫すぐに一命を消してやるからな」え？

翔は一刀の両足を持ちそして・・・

一刀一劍? 翔何を

## 翔 - 必殺! ハイテク・ソーラー!

翔は一刀を投げ、賊共に当たった！

三人 キヤー！」

ヒカル・シテ

翔一ついでにロリコン一刀死ねえ！」

一刀「投げるなよ投げるなよ——！？」

翔「ぶつ飛べえ——！」

一刀は翔に投げられ木にクリティカルヒットしたそして・・・

翔「やうにアル、ジン！」

アル「ロリコン一刀」めんな（笑）フレイムバーナー！

ジン「璃々に手出したら殺す！サンダーブレーク！」

アルは口から炎を、ジンは頭の角から雷を一刀に当たた・・・

その後・・・

翔「で、あわわとはわわの嬢ちゃんじゃないの？」

朱里「はわわの嬢ちゃんじゃないです」

翔「どうでも良いからわつわ言え」

離里「あわわ殺さないでください」

愛紗「翔殿殺すのは止めてください」

翔は天翔を構えて朱里と離里を斬りつとしていたが仕方なくやめた

一刀「とらあえず幼女の話を聞」いつぜ「ロリコン死ね」とりあえず・・な？」

翔「ちつ！」

愛紗（翔殿舌打ち聞こえていますからー。）

翔「一刀、あわわとはわわから話聞いてて「えつちゅつ翔ー。」もうしく

と壇つと翔殿はどこかに行つた・・・

桃香「翔さんどこに行つたんだろうね?」

紫苑「ああ、ビリビリしちゃつね?」

翔サイド

翔「ジジイ、いるんだろー。」

ジジイ「ジジイ、いる翔よ」

久しふりの登場の神様ジジイしかし声だけである・・・

翔「ジジイ、呼んだ理由は何だよ?」

ジジイ「もうすぐお前達の前に謎の敵が襲撃してくる」

翔「謎の敵?・・・」

ジジイ「後、お主の知り合こがやつて来る」

翔「俺の知り合いが？」

ジジイ「そして・・・」

アル「この歴史は普通の歴史じゃないことだろ？」

翔「アル！？」

アル「よお翔、ジジイ」

神様「やつぱお前もジジイかい」

アル「良いじやねえか」

翔「なあ、歴史が違うって事は本来起きないのが起きるって事？」  
神様「そつじやそれだから何が起きるか分からぬからな」

アル「話はそこまで良いか？」

翔「そろそろ愛紗が心配しそうだからな」

神様「まあワシはシンクロで話せるからな」

翔「何かあつたらまた連絡する」

アル「じゃあなジイさん、次は土産持つて来いよ「老人に無理をさせん気がい？」アンタは老人じゃないだろ」

ジジイ「バレたか、つまらんのう・・・」

翔とアルはジジイと話を終えて戻つた・・・

戻つてから・・・

翔「ただいま戻つた」

アル「戻つたぞ〜」

桃香「翔さん何してたんですか?」

翔「まあ、食い物探してた」

朱里「あの〜」

一刀「どうしたの?」

朱里「この先に私達の仲間がいるはずなんですね」

翔「オイはわわ、それはマジか?」

朱里「私は、はわわじゃなくて諸葛亮ですぅ」

全員「はあ（えつ）（マジかよ）（びっくりなのだ）！？」

雛里「私は鳳統ですぅ」

全員「・・・」

ジン「アンビリーバボ〜」

そう、皆がビックリするのも無理はない今、彼らの前にいるのはあの天才諸葛亮と鳳統が小学生に見えるからだ……

翔「……じゃあその仲間の所に連れて行ってくれ口リ小学生」

朱里「私は口リでもなく小学生じやないです」

翔「さつさしろよ」

翔は軽く朱里と雛里に嫌みを言いながら、一刀を殴っていた……

一刀「ちょ翔！痛いから、痛いし！黙れ口リ」  
「うう……」

桃香～

桃香「えつーとアハハ……」

翔「あんまりあれだと俺の寿命が縮まる修行に付き合わせるが」

一刀「それはカンベンしてよ～（泣）」

こんな感じで一刀を虐めながら朱里と雛里の仲間がいる所に行つた。  
・

帝希

朱里「翠さん、星さん今戻りました」

と諸葛亮が青髪の少女と茶色の髪の少女に言った

星「むつ、その連れの方は？」

朱里「今、噂の天の御遣いなのです」

翠「なあ、星一人だけ気迫が違つ奴がいるよな?」

星「うむ、しかしあれは何処かの軍にいたとか?」

翠「さあ、俺にはさつぱりだ」

翠と星が明らかに翔に対して言つたのだが一刀は無し・・・

一刀「なあ、俺嫌われてるのか?」

アル「知りませんよ」

一刀「うう・・・桃香(泣)」

桃香「ご主人様泣かないでください(泣)」

翔「バカツブルが・・・」

愛紗「あれは確かに呆れます・・・」

アル「まあ平和にな」

白蓮「星、何があつたんだ?」

蒲英公「お姉さまじうしたんです?」

やつて来たのは蒲英公と白蓮だった

翔「アンタは?」

白蓮「マイツの仲間だ」

蒲英公「馬超の従妹だ」！

翔「・・・また変わった奴らだな・・・」

白蓮「ん？ 桃香じゃないか？」

桃香「あのね」

桃香は白蓮達に今までの事と翔の事を話した・・・

白蓮「なるほど、そんなことがあつたんだな」

桃香「うん、で愛紗ちゃんの隣にいるのが翔さんだよ」

白蓮「あの男が黒宮翔」

星「あの男が死神って呼ばれてる男・・・つておらんではないか」

桃香「え？ それ今までいたのに」

一刀「翔なら愛紗と出かけたよ」

桃香「え？」

一方その頃翔と愛紗は・・・

翔サイド

翔「ありがとおつかせん、勘定ようじへ  
「へじゆよ」

翔「おつかせん「毎度ありーーー！」

翔は町で飯を食いにに行ひとして愛紗に捕まりついてに愛紗も連れて行く事になり今に至る・・・

翔「いやーうきの店の料理ばかりよな

愛紗「そうですね、とにかくで翔殿何で隣に璃々殿が?」

翔「あつ? 璃々は紫苑に頼まれたからなあ 璃々?」

璃々「うん、お母さんから一緒に出かけたと言われたの

翔「まあうこう訳で仕事よひじへ

翔は愛紗に仕事を任せでどうかに行ひとして・・・ガシッ・・・上手く行かなかつた・・・

愛紗「どう行くんですか翔殿?」

翔「えつ? あー璃々と遊びに行ひーーー!」

愛紗「翔殿、仕事をしましょうか

翔々「翔お兄ちゃん、遊びに行ひーーー!」

翔「とこう訳でそんじやーーー!」

翔は璃々と一緒に遊びに行ってしまった・・・

愛紗「はあ・・・じうしたら良いものか」

アル「まあそこは俺に回つてくるんですけどね」

愛紗「アル殿、何でいるんですか?」

アル「仕事の件は、朱里と雛里に脅しじゃなくて頼むよつこ翔から指示されたから」

愛紗「脅しつて・・・」

アル「まあそこは大人の事情と作者の都合上で」

愛紗「・・・」

翔サイド

翔（ふう・・・愛紗から逃げれたけどどうつか）

璃々「翔お兄ちゃん、あの人形さんが欲しいー」

翔「あーでもな璃々」

ジン「買つてやれやアニキ」

翔「ああ・・・つげジン?」

ジン「アニキびつしました?「何でお前がいるんだ?」紫苑姉さん

から行き代わるよつて

翔「タイミング悪すぎだろ」

ジン「憐れだなアーキ」

翔はジンから人生終了の知らせを聞きもう終わつたと思つてたが・・・

愛紗サイド

愛紗「星よ、この格好を私にか?」

星「そつだ、この格好で死神は大喜びで発情するだろ?」

愛紗「星、恥ずかし過ぎだろ?」

紫苑「確かに星ちゃんの言つ通りだよ、翔さんを振り向かせてみた  
いなその格好しないと」

愛紗「紫苑まで!もう・・・分かりました」

れて愛紗は何の服を着たんだろうか?

翔サイド

翔(はあ・・・愛紗に殺されるよな・・・)

愛紗に殺される事を覚悟してた翔だったが・・・

翔「ただいま戻りました・・・」

愛紗「お、お帰りなさいませ」、「主人様」

翔「・・・えつ？」

いきなり愛紗がメイド服で「主人様」て言われた翔はどうすれば良いのか分からなかつた・・・

翔「・・・今日何かあつたか？」

紫苑「いえ、何も有りませんよ」

星「黒りんよ、愛紗に對して何か言つのは無いのか？」

翔「黒りん！？」、星ふざけるなよ・・・愛紗、その・・・可愛いな・・・

愛紗「あ、ありがとうございます翔殿・・・」

鈴々「あつ、愛紗の顔が赤くなつてゐるのだ！」

愛紗「鈴々！そんな事無い！・・・」

全員「アハハハハハ・・・」

翔に言われて、愛紗は照れて楽しそうになつてゐた所に・・・

白蓮「大変だ――」

翔「公孫賛どうした？」

白蓮「賊の大軍が攻めて来てるんだ！」

愛紗「何！？」

白蓮「愛紗、何でお前その格好だ？」

愛紗「あ、あのこれは・・・」

翔「とりあえず叩きに行きますか、アル！、ジン！」

アルとジン「わかった！」

翔とアルとジンは賊を叩きに向かつたが・・・

翔「なあ・・・策が無いよな

ジン「策があ・・・」

アル「策ならあるよ

翔「じゃあさっさとやせ！」

アル「それには、翔にはコイツを着てくれんか？」

翔「・・・はつ？」

アルとジンに無理やり・・・

翔「俺思つんだが、男の娘だよな？」

アル「まあ、大丈夫だろ翔子ちゃ「殺すぞアル」ジンも爆笑だからな」

ジン「いやあ爆笑だよ」アネキ「死にたいかジン？」笑つてるだけだよ？」

翔「もう良いだろ・・・行こう」

作者も翔の女装、翔子に大笑いしながら書いてます

翔「笑うな作者！」

こんなアホな作戦で、賊に通じるのか？

賊の皆

翔「ここかよ？」

ジン「多分～」

アル「どう入るんだ？」

翔「こうすれば良い」

と直つと翔は皆に向かってこう叫んだ・・・

翔「すみません！誰かいませんか――！」

デブ「アーチー！ 良い女がいますよ！」

チビ「隣の男達が連れて来たんじゃないんすか？」

ノッポ「入れてやれ！」

賊1「入れ！」

翔「ありがとうございます、ごめんけど今から死んで」

賊1「えっちょ！」

ザシュー！

翔は近くにいた賊を斬つた・・・

アル「ヒュー、怖いねえ翔子ちゃん」

翔「ついでに斬ろうかアル？」

ジン「おー！ 人さん、ここを崩壊させてからな」

翔「ハデに暴れるぜ！」

アル「面白そうじゃん！」

ジン「殺さうぜ！」

翔は、天翔と天空と月影を装備し、アルはガトリングと剣を構え、

ジンは片手剣とシールドを持ち・・・

翔「ハデに殺さひせー！」

翔がそう叫びながら、賊の大将のいる宴会場に向かった・・・

宴会場

ノッポ「良いじゃねえか嬢けやん触らせてよー」

女「や、止めて下下さい！」

ノッポが女の胸を揉みながらそんなことを言しながら幸せに浸つて  
いたら・・・

翔「ちわー、殺しに来ましたー」

アル「と言つて」

ジン「さよならーーー！」

ダダダダ！

ザシユ！  
ズサッ！

翔「血祭りじや血祭りじやーーー！」

ジン「アニキ、男の娘の格好で言つたらアニキの人気が落ちますから・・・」

アル「さすが、死神！楽しそうだな」

ノッポ「くそ、覚えてるよー。」

チビ「覚えてるよー。」

テブ「覚えて「セツセツ失せりトブ！」ヒィーーー。」

翔「ちつ、逃げやがった」

ジン「アニキ、怖いんすけビ」

女「あ、あのありがとひ」「やれこます」

翔「ん？捕まつてたのお前だけか？」

女「いえ、まだいます・・・」

賊2「さつきの奴らを捕まえろー。」

賊3「敵は少ないから殺せー。」

翔達がわざと脱出した事に賊達が気が付いてしまったーーーあ、どうする？

翔「わざと潰すー。」

・・・単純だな

子供1「うわ～～ん助けてーーー！」

子供2「怖いよーーー！」

賊4「黙れガキ共死にたいのか！」

翔「それはアンタが死んでも良いと言つ訳だよな？」

賊4「えつ？」

ゴキツ！

翔は後ろから女装した状態で賊4の首を折った・・・

翔「おい、今開けるから待つてろ！」

子供1「ありがとうお姉ちゃん！」

力チャン

翔はさつきの賊から牢屋のカギを取り出し開けた

翔「早く逃げろ、後俺は男だ！」

その後賊の皆を徹底的に潰した翔は・・・

翔「ああ～ダルかった」

アル「まあ、あんな事が起きればな（笑）」

ジン「お疲れでした」エキ（笑）」

翔「……？お前、何笑ってるんだ？」

ジンとアル「いや、何でもねえ（つす）」「

なぜ、アルとジンが笑ってるかって？それは……

帝希

愛紗サイド

愛紗「はあ……翔殿遅いですね」

紫苑「そ、うね、び、うしたのかしら？」

白蓮「でも、もひすぐ戻るだろ」

璃々「ねえ、お母さん「なーに璃々？」アルさんとジン君と知らな  
いお姉ちゃんが帰ってきたよ」

全員「「え？？」

アル「ただいま戻りました」

ジン「戻った～」

翔「……ただいま」

愛紗「すまないどちら様だ？」

翔「ああ～分からねえか、俺だ、死神だ」

全員「ええ――!？」

愛紗「・・・」

翔（うわ～鈍引きだよな・・・）

愛紗（美女だ・・・）

桃香（綺麗）

一刀（男じゃなくとも行けるよな?）

翔「一刀、今めっちゃくちゃムカつくんだが!」

一刀「えつ?ソンナコトナイヨ」

翔「・・・殺す!」

一刀「えつ、ちよー?」

ボキッボキゴキッ！

皆、女装の翔を見て、女子校に行けるんじゃないかって思ったが本人は嫌がってるが・・・

翔「一度と、女装しねえ――!」

また、彼の叫びが響いた・・・

？？？

？？？「姫様、計画通りに動いてます」

？？？「計画通りね、例の奴は？」

？？？「うまく、行つてます」

？？？「フツフツフツ、これで黒宮翔を殺せる」

彼女の後ろには、カプセルがあり、そこに女と男がいた・・・

## 第六話 男の娘は、孔明の罷…？（後書き）

作者「本編とは関係ないが」

翔「無いんかい」

作者「暇なので、小学生の一人組に最強 × 計画を歌つて貰いましょっー」

翔「・・・」

朱里と離里「「はわわ（あわわ）、小学生じゃないですっ！」

作者「良いから歌え」

朱里と離里「「えっーと、フギヤー！」」

一刀「あれ？ 何で鼻血出しながら倒れてるの？」

翔「・・・はあ」

作者「小学生が倒れたので、愛紗ちゃんに歌つて貰いましょっー」

愛紗「えっーと私が？ 「ああ、歌うんだ愛紗ちゃんー」えっーと、子作りしましょっー」

愛紗が歌い終わつた後・・・

桃香「愛紗ちゃんも興味有るんだね」

愛紗「桃香様、私は！」

作者「さあ、愛紗ちゃん！俺と子作りし……」

翔「たああ！」

ヒュン！

翔「避けた！？」

作者「愛紗は連れて帰るぜ！」

愛紗「助けて下さい翔殿～～！」

翔「愛紗、ごめん無理！」

紫苑「翔さん、私と作りましょう！」

翔「ちょ！？紫苑カンベン、アル！」

アル「今日も平和だな！」

翔「裏切り者……！」

その後愛紗は帰つてきたが翔は・・・

翔「帰つてきるからな！」

## 第七話 第四の勢力、クロノス！（前書き）

作者「戦闘描写は大の苦手です。」

## 第七話 第四の勢力、クロノス！

？？？

？？？「姫様、どうしますか？」

？？？「そうね・・・十万ぐらいの兵士を蜀に行かせて襲撃するようう！」

？？？「はっ！姫様の為に！」

？？？「フッフッフッフッ 黒宮翔、これで終わりよ！」

少女はナイフを投げた

ヒュン！グサッ！

その刺さった先には黒宮翔の写真があつた・・・

帝希 庶務室

翔「ああ～あ、何で俺は庶務をしなきゃいけないんだ？」

アル「それはアンタがサボつたからだろ！」

翔「じゃん時に限つてジンはいないし」

アル「俺がやると姉さんに怒られるからな」

翔とアル「はあ・・・ため息つきたいのは」つちだ（俺だ）「

二人は顔を合わせて

翔とアル「泣けるぜ・・・」

愛紗サイド

愛紗は考えてた、翔殿は多分庶務で疲れてるだろ?と思つた  
しかし、彼に仕事を与えたのも彼女である  
ぶつちやけ、翔が仕事をしないから青竜刀を突きつけながら仕事を  
するように脅したのである

愛紗（はあ・・・料理を作つて翔殿に食べてもらいますか）

そう、思つと彼女は厨房に向かつた・・・

厨房

愛紗は料理を作つていた・・・しかし、出来上がりは得体の知  
れない物体?いや、何か紫色の物体を作つた・・・

愛紗（これを翔殿に食べさせれば・・・）

こつからは愛紗の妄想です

愛紗「翔殿!料理を作つて來たので食べて頂けませんか?」

翔「ああ、わかつた」

パクつ

翔「やば、これウマイ!」

愛紗「本当ですか翔殿？」

翔「ああ、愛紗が料理作るなら仕事ガンバるな

愛紗「はーー！」

愛紗の妄想終了・・・

愛紗「えへへ、よし持つて行こひー。」

愛紗は翔のいる庶務室に着いた

愛紗（翔殿、喜んで下されるかな？）

一方内部では・・・

翔サイド

翔「なあ、アル仕事やつてくれよ」

アル「はあ？俺が殺されるわ」

翔「へえー、じゃあ棚の下にあるロココ系と貧乳系とスク水系の本を皆こぼらすからな」

アル「上等だ！お前が持つてゐる巨乳系とメイド系と水着系の本ばらすぞ！」

翔「やつてみるや口リ龍！」

アル「やつてやるよ変態が！」  
バチバチ！

二人共、えつちい本を持つてるんですね  
まあ、二人共喧嘩してると  
コンコン

翔「はい？」

愛紗「翔殿、料理を持つて来ました」

アルと翔「えつ？」

ガチャ

愛紗は料理を持つて入つて来たが・・・

翔（なあアル、料理だよな？）

アル（うん・・・料理だな）

愛紗「あら、アル殿もいるなら翔殿と一緒に食べて下さい」

翔とアルはどうしようも無かつた・・・

アル「じゃあ、食つぜ」

パクつ

アル「× #\$\_- !?」

バタン、チーン・・・

アルは余りの不味さに倒れてしまった・・・

翔（やべえ、アルが倒れてたって事は・・・逃げるが勝ちー。）

翔は逃げようとしたが

ガシツ！ふらーん・・・

愛紗に捕まり釣り上げられた・・・

翔「あ、愛紗？」

愛紗「翔殿、食べててくれますよね？食べないなら無理やりです、

と囁つと愛紗は料理？を翔の顔にぶちまけた！

翔「ギヤアーーー！」

その後・・・

寝室

翔「お前はすぐ治つやうじやん

アル「お前は頭に包帯だからな（笑）」

翔「笑えないだろ」

アル「そうだな・・・」

その時、体のあちこちに包帯を巻かれたジンが来た

翔「ジン、何かやらかしたのか?」

ジン「璃々と遅くまで遊んでて、紫苑姉さんに怒られて弓矢の的代わりにされて今に至るんです」

翔「お前も大変みたいだな」

ジン「ああ

まさかのこの三人が寝室で寝ながら話すって普通はないだろうしかし、この後翔達にピンチが起きてしまうのだった・・・

桃香「あれ、翔さんは？」

愛紗「寝室で寝てます！」

鈴々一何か愛紗怒ってるのだ

星一 黒りんも何をしたのか・・・

翠 - なあ愛紗 黒宮に何をしたんだ?」

愛紗「翔殿に料理を作つて食べてもらつたら突然痙攣しながら倒れたのだと、何でだろう?」

全員（（（（それ、余りの不味さに倒れただけ（なのだ）（でしょ  
う）だる）））

皆、愛紗の料理は殺人が出来るくらい不味いのは知っていたからこんなことを思った

全員（（（憐れ・・・）））

この後、会議が開かれたが

白蓮「あれ、黒寅は？」

愛紗「翔殿なら・・・」

ガタン！

その時皆は驚いた！

何故なら、そいつらは寝てたはずなのだが・・・

アル「会議に間に合つた！」

ジン「何で会議に呼ばないんだよ影薄さん！」

白蓮「影薄言つながらーーー白蓮だ！」

そして・・・

翔「ゆづくら寝てられ無いからな」

愛紗「翔殿ーー？」

しかし・・・

翔「頭痛え―――」

アル「やべえ、また吐きそう……」

ジン「愛紗さん……じつやつたらあんな料理が出来るんだ?」

愛紗「私が原因ですか?」

その愛紗の質問に皆頷いた

そして……

愛紗「わ、私だつてヒック……ヒック私だつて翔殿のためを思つてヒック作つたのにヒック、私はダメダメです……」

あらりー完全にダメダメになつたな

突然愛紗が泣き出した事に翔は……

翔(愛紗……俺のために……)

翔は謝るつと思ひ愛紗に話しかけた

翔「愛紗」

愛紗「ヒック……なんですがじょう殿」

翔「俺のためにありがとな」

愛紗「へつ?」

翔「愛紗が俺の為に料理を作ってくれたのに不味いとか言つていいめん・・・」

愛紗「翔殿、その・・・勉強して上手くなつたらまた食べてくれますか?」

翔「ああ、楽しみにしてるぜ」

無事、愛紗と翔は仲直りし発展し和やかなムードになつてたその時!

兵士「も、申し上げます!」

白蓮「何があつた?」

兵士「見たことの無い軍が襲撃して来ました!」

全員「「「何!?」」」

翔「なあアルまさか・・・」

アル「第4の勢力・・・」

ジン「つて事は・・・」

翔「近代兵器を持つた奴らかよ!?」

アル「ヤバいな・・・」

ジン「ねえ兵士さん、数は?」

兵士「多分、十万ですか」

翠「十万つて」<sup>ヒサヒサ</sup>と回<sup>ヒサヒサ</sup>じちゃん

翔「いや、多分」十万の力だ

桃香「勝てるんですか？」

翔「負ける確率が高いな

愛紗「どうするんですか…？」

翔「俺とアルとジンで突撃して、五千に減らす！」

愛紗「本気ですか！？」

翔「やらなきゃいけないんだよ…」

アル「モンスター状態の方がたくさん行けるしな

ジン「アルさん、でも相手はヤバいですよ」

アル「やるだけやれば良いんだよ…」

翔「修羅場だろ？が無差別地域だろ？が関係ない！」

アル「じゃあ、行きますか」

翔「ああ…」

ジン「やひつー。」

しかし

愛紗「私達にもやらしてトわー。」

アル「姉さん！これは姉さん達じゃ危険過ぎるからヤバーって！」

愛紗「でも！私達だけ出来るはずですー。」

翔「・・・桃香を守る部隊と迎撃部隊を至急作れ！」

愛紗「御意！」

愛紗達は皆で桃香を守る部隊と迎撃部隊の配置を話し合い始めた

アル「翔、バカか！？」

翔「アイツらを信じるしか無いだろ！」

アル「だけどー。」

ジン「アニキ、アルさん行きましょー。」

アル「背中は任せたぜ」

翔「俺のセリフ取るなよ（笑）」

ジン「決めセリフをー。」

翔「やああああてやるぜー！」

アル「派手に暴れるぜ！」

ジン「暴れまくるぜー！」

その時、ドラの音が響いた・・・

ドーン！

翔「エングエイジ開戦！」

ジン「バトルスターート！」

アル「レツツパーティーー！」

三人は武器を構え、謎の軍に走り出した

翔「邪魔だあ！」

ズサツ！

翔は周囲の敵を天翔で斬り、天翔を地面に突き刺し高く飛び月影と  
天空で蹴り飛ばしたり、首を折つたり、叩きつけたりしてた

アル「オラオラオラオラオラ、死にたい奴はかかるて来やがれ！」

ダダダダタ！

ガトリングを撃ちながら、ソードで切り払い、空を飛び

アル「フレイムバー！－！」

火を放つた

ジン「桃香さん達の所には行かせねえ！－！」

ジンは頭の角に電気を集め雷を落とし

ジン「ウオオオオ！俺は今、猛烈に熱血してるうーーー！」

ジンがチャージをしてそして・・・

ジン「チエンジ！ライトニングフォーム！」

ボカーン！

ジンは体に電気を帶電させ

ジン「ウオオオオ！喰らえええ！」

ジンは叩き潰し、雷を放ち、敵を倒していく

ジン「ウオオオオ！」

ジンは雄叫びを上げながら、勝利を確信してたが・・・

愛紗サイド

愛紗「くつー？」

カキーン！

愛紗は苦戦してた・・・

愛紗（くつ、翔殿が戻るまではどうにか持たないと・・・）

鈴々「愛紗、そっちに行つたのだー！」

愛紗「しまつた！？」

グサツ！

星「何をしてる愛紗、早くするんだー！」

愛紗「あ、ああ・・・」

その時！

翔「愛紗ー！」

愛紗「翔殿どうしてー！？」

翔「ある程度片付いたのと心配になつたからだ

愛紗「無事で何よりです」

愛紗と翔が互いの安否を確認して大丈夫だと思われたが・・・

ザツザツ

草むらからいきなり、大量の矢が愛紗を目掛けて飛んで来た！

それをすぐに気付いた翔は・・・

翔「愛紗――！」

愛紗の前に出てかばつた・・・

グサッグサッグサッグサッ！

沢山の矢が翔の体を貫通した・・・

翔「グハツ！？」

愛紗「翔殿！？」

翔「バーカ、大丈夫だつて」

彼は自分の体に沢山の矢が刺さつていて立ち上がれないはずなのだが  
が彼は立ち上がれた

愛紗「翔殿大丈夫ですか、今すぐに治療を！」

翔「愛紗、お前は逃げろ！」

愛紗「しかし、翔殿！」

その時、敵が撤退し始めた・・・

帝希に帰る途中・・・

翔「くつ、愛紗悪いな」

愛紗「翔殿、あんな無茶しないでください」

翔「けど、あれをするしか無かつたんだよ」

愛紗「やつですが、もう少ししたら帝希に着きますから」

翔「あ、ああ」

その時、彼の世界は揺らいだ

翔（無理をし過ぎたか・・・）

そして、彼は倒れた・・・

愛紗「翔殿！？」

愛紗サイド

愛紗「翔殿、翔殿しつかりしてくださいーー」

星「愛紗、どうした？」

愛紗「翔殿が、翔殿が！」

星「傷が深いな、急いで戻れば大丈夫だ！」

愛紗「すまぬ！」

タツタツタツタツ・・・

愛紗は倒れた翔を抱えて馬に乗つて戻つた

帝希

愛紗「朱里！」

朱里「愛紗さん、どうしたんですか？」

愛紗「翔殿が私をかばって矢が・・・」

アル「コイツはヤバいな」

ジン「アーチー！しつかりしてくださいー！」

朱里「あの、アルさん薬草と薬と包帯を持って来て下さいー！」

アル「わかった！」

愛紗（翔殿しつかりしてくださいー！）

ひつて、彼らの治療により翔は多少の傷は残つたが治つた・・・

## 第七話 第四の勢力、クロノス！（後書き）

作者「よく死ななかつたよな死神」

翔「ああ

愛紗「本当に良かつたです」

翔「愛紗・・・」

愛紗「翔殿・・・」

作者「愛紗ちゃんは俺の嫁だ！」

愛紗「作者殿、料理食べててくれますね」

作者「ああ、嫁の料理は絶品だからなー！」

パクつ

翔「作者、顔が青いよ・・・」

作者「た、多分大丈夫だ」

愛紗「まだまだ有りますから食べて下さいね

作者「アハハ・・・死神も食えよ」

翔「バ、バ力食わせるな！」

作者は翔に愛紗の料理？を食わせて・・・

その後・・・

作者と翔は病院行きになつた・・・

## 第八話 対決、黒龍//ラボレアス！（前書き）

翔「戦闘シーンとヤバいシーンがはっきり分かるな」

作者「スゲエ、眠い」

翔「永遠の眠りにつけ」

作者「酷くねえ！？」

## 第八話 対決、黒龍//ラボレアス！

翔「モンスターの噂がここにも無かつたよな」

ジン「ええ、またはずれ？」

アル「翔、これで三軒だぞ……」

三人「……はあ……」

アル「どうすんだ？」

翔「宿も探さなきやな……」

愛紗「宿は見つかりました」

翔「愛紗いつからいた？」

愛紗「つこちつきです」

翔「まあ宿に戻るか」

彼らは、白蓮の所を出発し、西に向かいながらモンスターの噂を探しているのだが見つから無いのである

宿

翔「そっちも無いか……」

愛紗「はい、しかしどうなってるんですかね？」

翔「やあ？」

アル「近くに何も無いの？」

翠「俺も聞いて来たけど無いな」

全員「はあ・・・」

その時、璃々がある噂を聞いてたらしい

璃々「ねえねえ、翔お兄ちゃん

翔「どうした璃々？」

璃々「大人の人達が言つちやダメつて言つてたんだけど近くに古い  
お城があつてそこにアルお兄ちゃんみたいのがいるつて言つてた  
の」

翔「本当か！？」

璃々「うん！」

翔「お手柄だぞ璃々！」

愛紗「翔殿、行くんですか？」

翔「今日は暗いし明日行けば良いだろ

愛紗「そうですね、そうしましょ」

翔「紫苑が料理作ってるだらうじ行こうぜ璃々」

璃々「うん！」

愛紗「あの、翔殿私は？」

アル「また、無視去れたな」

愛紗「翔殿は私に好意が無いのだろうか？」

アル「・・・」

夜宿

翔「星、飲み過ぎじやねえの？」

星「そう言いながら翔殿も飲んでるではないですか？」

翔「ああ、たまには飲みたいんだよ」

紫苑「翔殿もたまにはですよね？」

三人「「「あははははは・・・」」」

一刀「翔、お前飲んで大丈夫なのか？」

翔「どうにかなるつて~ほら、お前も飲めつて!」

一刀「そんじゃあ俺も・・・」

翔達は、酒を飲みまくつて今に至るが・・・

翔「なあ一刀？桃香ぢやんめっちゃ良い女だよな？」

一刀「ああ、俺も会つた時、思つたんだよ」

翔「でも、俺は愛紗も良いと思つんだよ」

一刀「ああ、分かる気がするー。」

翔「愛紗何か、ポン・キュー・ポン！だよな？」

一刀「桃香も愛紗より胸はデカイぜ？」

翔「実は、お前が桃香の胸揉んでるんじゃないの？」

一刀「無いから（笑）」

ええ～この二人の話はしばらく続きます

翔「紫苑もさあ～璃々がいるのにスタイル抜群だよな？」

一刀「もう、胸なんかバインバインだからな

翔「翠も弄りがいが有るからな

紫苑「翔さん、私も一緒に良いですか？」

翔「ああだけどます」

翔は紫苑の胸を鷺掴みし、揉み始めた・・・

翔「その、胸を堪能してからな！」

紫苑「ああもう翔さん・・・」

一方、一刀は・・・

一刀「桃香～」

桃香「ご主人様～」

こつちも同じ事をやつていた・・・

愛紗サイド

愛紗「鈴々、璃々よ見てはいけないからな

星「愛紗よ、本当は黒りんにやられたいのでは？」

愛紗「な、何を言つんだ星！？」

星「本当の事だらつ？」

こつちもこつちで面白い事が起きてた・・・

朝 翔サイド

翔（うう・・・昨日の酒がまだ残つて頭痛いし）

俗に言ひ | 口酔いである

翔（でも、何かふにふにした物があるし）

彼はふにふにした物を堪能したが・・・

翔（ふにふにした物？）

紫苑「あら、おはよう」れこます翔さん

翔「・・・何で紫苑が？」

紫苑「昨日は激しかつたですよ」

翔「うう、うあ――！」

愛紗「翔殿どうしたん・・・」

愛紗サイド

愛紗（翔殿の叫びが聞こえた？）

愛紗は翔の部屋に向かつたが・・・

愛紗「翔殿どうしたん・・・」

愛紗は見てしまった、翔と紫苑が抱き合つていて多分、一夜を過ごしてしまったのだろうと勘違いをしてしまった・・・

愛紗「朝から何をしてるんですか翔殿ー！」

翔サイド

翔（ヤバい、愛紗に勘違いされてるしー）

翔「愛紗、これは・・・」

愛紗「もう知りませんー！」

愛紗は翔が言い訛するのに飽きて、怒つて行ってしまった・・・

古城に向かつ途中・・・

翔「なあ、愛紗・・・」

愛紗「・・・」

翔「・・・」

紫苑「愛紗ちゃん・・・」

アル（ジン、これって修羅場だよな？）

ジン（多分・・・アルさん『まよ過ぎのんですか』）

アルヒジン（（なあ・・・））

「」の修羅場がじばりく続き・・・古城に着いた

古城

翔「アル、ジン行くぞ」

アル「了解」

ジン「わかつた！」

翔達は古城にいるモンスターを探しに向かつたが・・・

愛紗サイド

愛紗（翔殿が悪いんだあんな事をして・・・）

桃香「愛紗ちゃん、彼から話は聞いたの？」

愛紗「いえ、聞いてません」

桃香「戻つて来たら話を聞いて上げたら？」

愛紗「・・・そうですね話を聞いてみます」

翔サイド

翔「・・・コイツが古城の持ち主」

ボレアス「ここは人間が近づけない土地だよ？」

翔「俺は死神だからな」

ボレアス「戦うんだろう僕と？」

翔「シュレイド城の黒龍ミラボレアス、貴様を死神黒宮翔の名において封印する！」

ボレアス「僕を楽しませてよ？」

翔「アル、ジン行くぞ！」

アルとジン「おうー！」

ボレアス「僕に勝てるのか？」

アルはボレアスに接近戦で挑んだが・・・

ボレアス「動きが読めるんだよ！」

ザシユ！

アル「しまった！？」

ボレアスにアルは腕のガトリングとソードを破壊され、地上に落ちた

アル「ぐはっ！？」

ジン「アルさん！？チクシヨー！」

ジンは超帶電状態に入るため、電気をチャージし始めた

ジン「俺は今！猛烈に熱血してる――！」

ズザーン！

ジン「超帶電ジンオウガ降臨！」

ボレアス「僕を楽しませてよ！」「

ジンはボレアスに翔び蹴りをかましたが・・・

ジン「止められた！？」

ボレアス「分かりやすいんだよ！」「

ボレアスは零距離でジンにブレスをかまし呑きのめした

翔「てめえ、よくも！」「

ボレアス「人間は雑魚過ぎるよ！」「

ボレアスは翔を地面に叩きのめした

翔（しまった！？天翔が！）

叩きのめられた勢いで翔は天翔を落としてしまった！

翔（くそ、届け！）

天翔まで後、数センチの所で

ボレアス「もう一回ぶつ飛べ！」「

ボレアスが翔の体を掴み、愛紗達のいる所に投げられた

ドオオオン！

愛紗サイド

愛紗「翔殿——！」

愛紗（翔殿今助けに・・・）

ボレアス「君、死にたいの？」

愛紗「あ・・・ああ・・・」

愛紗（私はここで死ぬのか？・・・）

ボレアスは愛紗にブレスを噛まそうとしたが・・・

翔「ジユユユエットマグナム！」

翔はボレアスの顔面に殴り技をかました

愛紗「翔殿！」

翔「何、ボサつて・・・」

グシャ！

ボレアス「僕に勝とうなんて甘いよ」

ボレアスの尻尾が翔の体を貫いた・・・

翔「愛・・・紗」

バタン！

愛紗「翔殿――！」

ボレアス「アハハまた来るからな！」

ボレアスはどつかに飛んだが・・・

愛紗「翔殿！翔殿――！」

## 第八話 対決、黒龍//ラボレアス！（後書き）

ええ～翔が今回、いないので作者と愛紗ちゃんしか今いません

作者（愛紗ちゃんを今ならやれるぜー・）

作者は愛紗を呼び出し、後ろから

ガシッ！ プニーフニ

愛紗の胸を驚掴みし揉みまくつた・・・

愛紗「ちゅうと、作者殿！ な、何をして・・・」

作者「死神がおらんからな、今のつかこやつてしまおつと考えたか  
「ら

愛紗「だ、だからってこんなことは・・・」

作者「バインバインであれがしつとつシャシャなのにて？」  
愛紗「うう・・・」

紫苑「作者さん、何してるんですか？」

作者「何つて、嫁である愛紗をいじめてたつて・・・紫苑？」

紫苑「今から、私の部屋に逝きましょ！」

作者と愛紗は腰が抜けた・・・紫苑の笑顔の後ろにめつちや黒い才  
ーラとめつちや怖い般若がいたからだ

作者「あ、あのな紫苑」

紫苑「とりあえず行きますか

作者「た、助けてーー！」

愛紗「・・・」

愛紗は空いた口が塞がらなかつた

## 第九話 新たな力、クロス Chernobyl (前書き)

翔「やつと新しい力を使えるるー。」

作者「バリエーションはこれから増えてくるよ」

ボレアス「僕は・・・」

作者「黙れ、僕っ子は苦手なんだよー。」

翔「ツンデレもだろ?」

作者「そう、デレデレと・・・」

アル「本編、初めろや」

作者「・・・」

ジン「番組に最後にプレゼントがありまーす」

ジン以外「「「「無いからー。」」」

## 第九話 新たな力、クロスチェンジ！

愛紗「翔殿！しつかりしてください！」

翔「うう愛・・・紗？」

愛紗「グスツ、翔殿——！」

愛紗は怪我だらけの翔に抱きついたが・・・

「キツ！」

翔「ギャアアアアー！？」

怪我してる人に抱きつくのは止めましょう  
怪我が悪化する恐れが有ります

村に戻つてから・・・

翔「愛紗、俺を殺すつもりか？」

愛紗「いえ、翔殿を殺すつもりは有りません」

翔「お前なあ、怪我してる人に抱きつくつて・・・

翔は村に戻つてから・・・いや村にもどる道から翔は愛紗に説教をしてた・・・

愛紗サイド

愛紗（翔殿に今朝の事を謝りなきやいけないのに・・・）

翔「なあ、愛紗？」

愛紗（私はいつたい何をしてるんだ・・・）

翔「愛紗ー。」

愛紗「は、はい！何でしそうか翔殿？」

翔「今朝の事だが・・・」

愛紗「・・・わかつてますよ勘違いつて」とは

翔「「」めんな」

村

愛紗「桃香様、アドバイスありがとうございました」

桃香「愛紗ちゃん、自分に素直なるつて事も大事だからね」

愛紗「ハイー。」

しかしその一方・・・

翔「アル、どうしたら良い？」

アル「分からねえよ」

ジン「でも、アイツはまた攻めて来ますよ！」

アル「今、張り合える奴は俺らしかいねえから考えてるんだが」

翔「俺にもっと力があれば……」

ジン「アーチキ……」

翔「しばらく一人にさせてくれ

アル「わかった」

愛紗サイド

愛紗「翔殿……」

星「おや、どうしたんだ愛紗？」

愛紗「何だ星か……」

星「悩んでるんだろ愛紗よ」

愛紗「酔っ払いは悩みが無いから良いよな

星「そうか？私も悩みぐらいはあるぞ」

ゴクッゴクッ

星は持参した酒を飲みながら愛紗にも薦めた

星「飲んだら、悩みも消えるかもな」

愛紗「真つ毎間から酒を飲むのはお前ぐらいだ」

星「黒りんの事だろ悩みは?」

愛紗「・・・」

星「おや? 図星のよつだな」

愛紗「私は分からないんだ、翔殿に対しどうしても怒る事が多いんだ」

星「そんな鬼のよつな顔だとな(笑)」

愛紗「・・・斬るわ」

星「お主は[冗談も分からぬのか?」

愛紗「・・・」

星「愛紗よお前は鬼のよつな顔では無いぞ、お前が心を黒りんに開かないだけだ」

愛紗「・・・」

星「よく考えてみるんだな」

アドバイスを言つと星は酒を持ってビールに行つた

愛紗「私は・・・」

翔サイド

翔は滝の所にいた・・・

ザアーー

翔（天上天下唯我独尊、我ニ新タナ力を授ケヨ・・・）

カタカナなのはなんとなくです

翔は壁にぶつかった時、天上天下唯我独尊を唱え自分なりの考えを見つけ壁を越えていた・・・が

翔（ダメだ、考えが思い浮かばない）

いつものように考えが出なかつた・・・

翔は修行用の服、道場服からいつもの死神の格好、黒のロングコートを身に纏い、村へ戻つた・・・

村

翔（ボレアスが空中戦に持ち込まれたらこいつちはキツいな）

翔が対策を考えると・・・

翠「あつ、黒宮じゃねえか！」

翔「誰かと思つたらお漏りし将軍」

翠「・・・殴るやー。」

翔「上等だあー。」

しかし・・・

朱里「す、翠ちゃん」「でもねつまつですか?」

翠「黒富がふざけた」とを囁つかひー。」

離里「翔さんもいじりじゃ 大変ですよー。」

翔「じやあ、戻つてから殺るぜー。」

宿

翔「翠、かかつて」こよー。」

翠「言わぬ無くてもー。」

その時ー。

ドーンー・ボカーンー

翔「何事だー?」

民「ば、化け物が・・・」

翔「化け物？まさか！」

翔はあわてて、宿の外に出たがそこは・・・

翔「そんなバカな・・・」

愛紗サイド

愛紗「急いで、子供と年配の方を！」

愛紗（なぜ、今あれが？・・・）

突然の出来事に焦りを隠せない愛紗、それもそのはず彼女の目の前には・・・

ボレアス「さあ泣けよ！そして混乱してしまえ！」

ボレアスが家に向かつて火の球を放つた

ボカーン！

愛紗「ああ私はどうすれば・・・」

ボレアス「お姉ちゃん、死にたく無いならこつから消えな

愛紗「！」

ボレアス「僕はどうなつたつて知らないからねえ！」ボレアスのブレスが愛紗に放たれたその時！

翔「死なせるかあ——！」

愛紗「翔殿！？」

ボレアス「お前、動けないはずじゃ！？」

翔「確かにアンタの攻撃は効いた、だが！」

翔は天翔を構え・・・

翔「守りたい気持ちがあれば何度も立ち上がるんだよ！」

愛紗「翔殿・・・」

ボレアス「でも、君の攻撃は僕に通用しない！」

ボレアスは翔に火の球をぶちかました

翔サイド

ボーン！

翔（やべえ、）「イツの攻撃を連續を受けたら・・・（）

ボレアス「君に考える時間なんて無いよー！」

ボレアスは火の球を放つてゐる間に翔との間合いを詰めていた！

翔「しまつー？」

ド、ゴーン！

愛紗「翔殿——！」

しかし現れたのは・・・

アル「つたく、こんな所で死んでどうするんだよ死神？」

翔「アル！かばつたのか？」

アル「俺はジジイからアソタガこの世界のモンスターを封印することを手伝つのが仕事だからな」

愛紗「アル殿・・・」

ボレアス「まとめて皆消してやる！」

ボレアスがキレてとてもマズイ状況になつてしまつたが・・・

翔「行けるよな、相棒？」

アル「へつ、死神から相棒つて言われるなんてな、行けるぜ翔」

翔とアル（人間状態）は手を組み武器を構えたその時！

ウオオオン！

謎の鳴き声が聞こえ、翔とアルの体を光が包んだ・・・

？？？

翔「！」は・・・

目覚めよ少年・・・

翔「誰だ！？」

少年よ、力が欲しいか？・・・

翔「力・・・」

そり、守るための力だ・・・

翔「・・・眞を守るために力が欲しい！」

少年よ、モンスターと魂を一つにせよ・・・

そこで声は消えた・・・

愛紗サイド

愛紗「翔殿・・・」

ボレアス「スキをみせるんじゃなこよー！」

愛紗（翔殿！）

ピカーン！

そこに現れたのは・・・

翔サイド

翔「アル！」

アル「この力を試してみるか！」

翔「行くぜ！」

アル「ああ！」

翔とアル「クロスチェンジ！」

翔とアルがそう唱えると現れたのは・・・

翔「参上アルティメットクロス！」

アルをモチーフにした防具装備し右腕にガトリング、左腕にソードを装着した翔がいた

翔「これがクロスチェンジ・・・」

愛紗「翔殿・・・スゴいです！」

クロスチェンジ（CROSS CHANGE）

翔がモンスターの力を借りて戦う能力

例えば、アルのガトリングやソードを翔が使うようなもの

翔「これでアンタと戦えるぜ！」

ボレアス「ふ、ふざけるなあ！」

ボレアスは火球を放つたが・・・

翔「よつと」

あつさり避けた（笑）

翔「どうしたそんなものか？」

ボレアス「僕をなめるな！」

ヒュン！

ボレアスは翼を広げ翔んだ・・・

翔「こつちだつてなアル！」

アル（任せろ！）

翔は背中からアルの翼を展開し、ボレアスを追いかけた  
ボレアス「コイツ！・・・」

ボレアスは火球を放つたが・・・

アル（今の翔には！）

翔「聞かないんだよ！」

天翔で火球を切り裂いた！

ボレアス「何！？」

そして翔はボレアスとの間合いを詰め

アル「必殺！」

翔「ドラゴンスラッシュ  
龍殺斬！」

翔はボレアスに必殺技をかました！

ボレアス「うわああああ！」

勝負が着いた・・・

翔「ボレアス、もう良いだろ？」

ボレアス「うるさい僕は！」

アル「諦めろ、アンタの負けだ」

ボレアス「くつ！」

翔はクロスチェーンジを解除し、ボレアスを説得していたその時

愛紗「翔殿！」

紫苑「翔さん！」

ボレアス「か、母さん？」

翔「えつ？」

ボレアス「母さん！僕だよ！ボレアスだよ」

紫苑「えつ、えつーと？」

翔「ボレアス、説明してくれ」

ボレアス「人間状態の方が良いよね」

ボレアスは人間状態になつた

アル「えつ？」

翔「お前、女？」

ボレアス「僕は女の子だよ」

ボレアス

姿 モンハンのミラボレアス

人間状態はテイルズオブシンフォニアのコレット

武器 ムチ

ついでにジンも

ジン「俺はついでにかよ！？」

ジン

姿 モンハンのジンオウガ

人間状態はテイルズオブシンフォニアのジーニアス

武器 片手剣とシールドブームラン

その後・・・

ボレアス「紫苑さん、手伝うことがあります?」

紫苑「じゃあ、あそこにあるお皿を洗つてくれる?」

ボレアス「はーい」

あの後ボレアスは仲間になつたが・・・

ジン「紫苑さん、お代わり!」

ボレアス「僕も!」

紫苑「二人とも、よく食べるわね」

翔「いや、違うだろ」

また不思議な仲間が増えた・・・

その一方

? ? ?

？？？

「ここの世界に翔が・・・」

？？？「勇行くよー！」

？？？「ああ、行こうかレウス」

？？？「翔にあれを渡さないとね」

？？？「対クロノス用にな」

アタッシュケースの中には銃とダブルドライバーとガイアメモリが  
入つてた

そして、勇と呼ばれる少年の手にはディエンドドライバーが・・・

## 第九話 新たな力、クロスチョンジー（後書き）

翔「作者よ、最後の奴誰だ？」

作者「まあ、次回登場で」

翔「次回登場ねえ・・・」

作者「まあ、忘れろ」

翔「ああ」

作者「愛紗ちゃん！今からいろいろやろう・・・」

紫苑「作者さん、真面目にしましようか？」

作者「えつーと紫苑？ギャアアアアア！？」

翔「愛紗、これ大丈夫かな？」

愛紗「さあ、分かりません？」

その後・・・

作者「はあ・・・偉い田にあつたぜ」

翔「何やらかしてんの」

作者「愛紗ちゃんが寝てる所を襲おうとしたら紫苑に捕まり、川に

投げられ、馬に蹴られ、弓矢で的代わりにしたんだよ！」

翔「はあ・・・」

アル「作者さんよ」

作者「何だアル？」

アル「こんなグダグダで良いのか？」

作者「まあ良いだろ」

愛紗「あなたと合体したい・・・」

作者「はい喜んで！」

翔「二回死ねええええ！」

翔「僕たちは一人で一人の探偵さ

アル「一人しかいねえじやん」

ジン「俺は専門家では無い、スペシャリストだ！」

作者「バカっぽい・・・」

アル「上のネタは関係有るのか？」

翔「さあ？」

## 第十話 怪盗、水谷勇現れる！（前書き）

作者「久しぶりの更新です」

翔「死ね作者！」

作者「第一声がそれ！？」

## 第十話 怪盗、水谷勇現れる！

翔「ヒマだ」

アル「ヒマだな」

ジン「ヒマだね」

ボレアス「ヒマだあ～」

四人「　　はあ　　」

愛紗「翔殿！ ちやんと仕事をしてくださ～！」

翔「ええ～？ ダルいじやん」

愛紗「はあ　　どうして翔殿は　　」

紫苑「愛紗ちやん、無理に頼んじやダメだよ」

ジン「あつ、紫苑さん仕事を伝えます」

紫苑「あら～、ありがとうねジン君」

ジン「いやあ～それほどでも～」

ボレアス「誉めてない」

彼らは今、影薄様（白蓮）の帝希にいるがなぜいるのって？

それは数日前のこと・・・

数日前

翔がクロスチェンジを手に入れボレアスを仲間にしてから数時間後  
翔達は、宿に戻りこれからの考えていたのだが・・・

翔「・・・でアンタは謎の奴に指示されたと?」

ボレアス「そういうこと」

ジン「信じれるわけねえだろ!」

ボレアス「僕は嘘をついて無い!」

ジン「嘘つくなよ男女!」

ボレアス「うるさい雷犬が!」

アル「お前達黙れ!」

ジンとボレアスのケンカをアルが止めて一喝した

翔（謎の奴が指示・・・）

ボレアス「だつてこのロリ犬が!」

ジン「はあ!？それはこっちのセリフだ男女!」

アル「黙れやバカ共！」

翔（・・・分からんな）

アル「だからお前らはなー！」

翔「アル」

アル「何だ？」

翔「宿だからな」

アル「ああ・・・」

璃々「アルお兄ちゃん怒られてるーーー！」

翔「バカが・・・」

その時

朱里「あーーー翔さん」

翔「何やはわわ小学生、斬られたいのか？」

朱里「はわわ！？小学生じゃありません！」

翔「斬るぞ！」

朱里「はわわ！？命だけは～」

一刀「翔、聞いてあげよつよ」「まつよ

翔「めんどくせえ」

翔が朱里に話を聞いたが内容は・・・

呉の国にもう一人の転生者がいる噂が黒宮翔を探してくると

翔（転生者？まあ会いに行つてみるか）

噂では帝希に向かっているらしいのだが・・・

で今にいたる

翔「で探しているのだが・・・」

アル「来るんか？」

愛紗「何か爆音が聞こえませんか？」

ジン「何か来るー！」

ボンボン！

来たのはマシンディケイダーに似たバイクで運転手はヘルメットで  
分からぬ

愛紗「敵襲か！？」

ジン「なら殺りますか！」

アル（人間形態）や愛紗達は武器を構えたが……

翔  
まさか…

翔は氣付いたもしかしたらアイツかもしれない

翔（聞いてみるか）

翔「間違つてたらすまんがお前、勇か？」  
ヨウ

勇「当たつたり！」

ヘルメットを外すと素顔を表した

水谷勇  
ミズタニユウ

姿 テイルズオブジアビスのルーク

武器 ハンドガン（サムライエッジ）

相棒 レウス

翔の幼なじみで翔と同じように、後一人の幼なじみを探してゐる  
だが・・・実は怪盗ブルースである

翔「・・・で何のようだ？」

勇「神様からお届けものを届けに」

翔「神様？」

勇は翔にスーシーケースとアタッシュケースを渡した  
すると中身は・・・

翔「コイツは!?

勇「第四の勢力クロノスに対抗するための兵器その名は、ダブルドライバー」

翔「ダブルドライバー・・・仮面ライダーWになれって事か」

勇「大丈夫、俺もライダーだから」

翔「えつ?」

勇はデイエンドドライバーを取りだし

勇「変身!」

カメンライド!  
デイエンド!

青色のカードが勇を包み、変身した!

勇「どうだ?」

翔「・・・まさか今から?」

愛紗「翔殿！ボコボコしてくださいーーー！」

ジン「アニキ！ファイトっす！」

翔「・・・仕方ない」

翔は渋々、変身することにした

サイクロン！  
ジョーカー！

翔「変身ーー！」

翔は右手にジョーカーメモリ、左手にサイクロンメモリを持ち、クロスさせるように上に投げて落ちて来た所をキャッチし、ドライバーに差し込み、ドライバーを変形させた！

翔「コイツは最高だなー！」

愛紗「翔殿が変わった・・・」

紫苑「さすが、翔さん」

翔はノリノリでの名セリフを言った

翔「ああ、お前の罪を数えろーーー！」

アル「パクリやがった！？」

ジン「パクつたな」

ボレアス「パクつたね」

翔「ああ、やるつぜ勇！」

勇「かかってこい、翔！」

翔（WC）は勇に接近戦で持ちかけようとしたが・・・

勇「他の人を呼びますか」

カメンライド！

G3 X！

イクサ！

勇はG3 Xとイクサ（新型）を呼び出した

イクサ「その命、神に返しなさい！」

アル「ここまできたらこの小説救いようの無いな」

ジン「うん、そうだな」

作者「もひ、無理なんだよ（泣）」

一方、愛紗達は・・・

愛紗「翔殿、後ろです！」

桃香「カツコいいよね仮面ライダーの翔さんあ、危ない！」

G3 Xは倒せたが、イクサに苦戦してた

翔（イクサは、接近も銃撃もいけるからな）

翔はメモリをどうするか考てる間に

勇「翔、スキが有りすぎだよ？」

翔「しまった！？」

勇は後ろから銃撃してきたが！

翔「簡単にやられるかあ！」

サイクロン！  
メタル！

翔は当たるギリギリの所でメモリチエンジし、翔はCからCMに  
変わりメタルシャフトを振り回し銃弾を跳ね返した

勇「ヒュー！ カツコいいねえ！」

翔「どうも、コイツは相性が悪いな」

イクサ「はあああ！」

ヒート！  
メタル！

翔はC MからH Mに変わり、メタルシャフトでボコボコに殴り……

メタル！

マキシマムドライブ！

メタルメモリをメタルシャフトに挿し込み

翔「メタルブランディング！」

ズガーン！

翔はイクサに必殺技をかまし倒したが……

翔「後は勇だけか」

ルナ！

トリガー！

翔はH MからL Tに変わり

翔「はつ！」

勇「銃はあんまり得意じゃないみたいだね翔！」

ダーン！

翔「だけど普通よりは撃てると思うがな！」

ダダダダダ！

勇「決着をつけるか！」

ファイナルアタック「ライド！  
ディディディディエンド！」

翔「負けたら何かおごれよ！」

トリガー！

マキシマムドライブ！

翔はトリガーマグナムにトリガーメモリを挿し込み、勇はディエン  
ドドライバーにカードを挿し込み、お互いに向けて構えた

勇「ディメイショナスター！」

翔「トリガーフルバースト！」

ドオオオオン！

愛紗「どちらが勝った？」

煙が晴れたが・・・二人は立つてた

翔「やるじゃねえか

勇「腕を上げたね」

この後勇は翔にマシンガンなどの銃器、マシンハードボイルダー（  
バイク）、（ハードボイルダーの支援ユニット）リボルギヤリー、

ファングメモリを渡した

翔「勇、これからどうするんだ?」

勇「帝希を観光する(笑)」

翔「単純だな」

## 第十話 怪盗、水谷勇現れる！（後書き）

作者「レッツゴー仮面ライダーを見に行つたぜ！」

勇「感想は？」

作者「完璧だよ！」

翔「その影響でライダーをか？」

作者「いや、前から」

ジン「何で俺達はライダーじゃ無いんだよ

作者「そのうち出すから」

ジン「よししゃあああ！」

翔「作者よ、なぜショッカーがいるんだ？」

ショッカー「イー！」

作者「ショッカーは愛紗ちゃんを調教じゃなくて、レッツゴーライダーを歌わせる為に、レッスンで来てもうつた」

ショッカー「イー！」

勇「ホントは就職口が無いから求人で来たと言つてるよ」

ショッカー「イー！」

作者「準備が出来たみたいだ、行こうぜ」

作者は翔と勇を連れて会場に行つた

会場

愛紗「ありがとう皆――！」

ショッカー「イー！」

翔「これが？」

作者「俺はWの主題歌、WBX ダブルボイルドエクストリームが  
良いな」

翔「知るかああああ！」

第十一話 サボリと酒（前書き）

久しぶりの更新です

## 第十一話 サボリと酒

翔「クロノス…」

勇「奴らの目的は不明だが、僕らを潰すことだひつと思ひ

翔「思う? 他に有るのか」

勇「分から無いよ、噂では知り合いがいるらしきからな」

翔「夏菜と元以外にか?」

勇「噂では、赤義アカギがトップらしきのだが…」

翔「赤義? 赤義って俺達が中学生の時の同じクラスだったアイツが  
?」

勇「たぶん…」

翔と勇は戦ったあの後、帝希の食堂で互いの情報を提供し合っていた

翔「とりあえず、何か食おうぜ」

勇「オツケー」

翔と勇は料理を頼み、食べていた

そこに

星「おや？ 黒りんと勇殿では有りませんか」

翔「星、黒りんと呼ぶなつて言わなかつたか？」

星「はて？ 私は言われて無いのですが」

勇「ブツ、翔が黒りん？ マジ笑えるんですけど（笑）」

翔「勇、笑い」とじやないだろ」

勇「いや、笑えるじやん」

星「そ、ういえば、愛紗達が探してましたよ」

翔「愛紗が？」

翔と勇は愛紗達に呼ばれ行つた

帝希 会議室

愛紗「翔殿、仕事をサボつてどこに居ましたか？」

愛紗は、笑顔で笑いながら青竜刀を構えて待つていた

翔サイド

翔（どうも、黒竜翔です）

翔（ただいま、愛紗に拘束されています）

翔はイスに縄で拘束されていた

翔「愛紗、ほどいてくれ」

愛紗「嫌です」

翔「何で?」

愛紗「翔殿が会議出なかつたからです」

翔「俺が出る必要ある?」

愛紗「はい、貴方は一人の將軍ですから」

翔「わかつたから縄をほどいてくれ」

愛紗「嫌です、まだ会議有りますので」

ガチヤン

翔は会議室に残されたが・・・

勇「翔、賭レースに行か無い?」

翔「行きたいが・・・つて勇、どうから来た?」

勇「屋根から(笑)」

翔は上を見たが・・・

翔「何もねえじゃん」

勇は翔に透明のワイヤーを見せた

勇「カモフラージュタイプだからわからないよ」

勇は翔に話しながらナイフで縄を斬つてた

プチっ

勇「さて、行こうぜ」

翔「了解」

翔は勇に引っ張られ、屋根に上がり、屋根を渡りながらレース場に向かつた

愛紗サイド

愛紗（翔殿も懲りたでしょう）

桃香「翔さんがいじけて無いこと良いけど」

一刀「まあ黒宮だから大丈夫だろ」

朱里「でも、寝てたりしてたら…」

愛紗「その時は、起き起こすだけだ」

愛紗達が会議室に向かつている間そんなことを話していたが…

会議室 前の廊下

朱里「愛紗さん、ここに翔さんが？」

愛紗「どうした朱里？」

朱里「人の気配がしませんが…」

愛紗「何だつて！？」

一刀「ウソだろ！？」

桃香「と、とりあえず開けてみよつよー。」

ガチャ

会議室

中には翔は居なく、手紙があつた

桃香「し、朱里ちゃん手紙を呼んでみて」

朱里「はわわ、はいです」

手紙の中身は・・・

翔「勇と賭レースに行つて来る（笑）」

と一言書いてあつた

愛紗「しょ～う～ど～（怒）」

一刀「愛紗、怒ってるよな？」

桃香「う、うんどうしょ～」主人様…」

愛紗「ご主人様、桃香様（怒）」

一刀と桃香「はい！？」

愛紗「私は翔殿を連れて来ます（怒）」

愛紗は言いつと青竜刀を持つて行き、翔を探しに行つた…

一刀「翔、無事だと良いな」

そのころ翔は…

翔サイド

翔「これで、五十勝！」

勇「やっぱ、すげえな翔！」

翔と勇は賭レースで連勝した後、賭場に行つてた…

男1「ああ～やっぱ黒宮将軍には負けるわ

女1「翔様～カッコいい～」

翔「ああサンキュー」

勇「翔、何か飲むか?」

翔「テキーラのストレートを一つ!」

勇「ああ~ハイハイ、すいません~お酒のおかわりお願ひします」

店員「はい、酒一つ!」

その時

愛紗「翔殿? お迎えに参りました」

翔  
あ  
…  
翔

その後翔は・・・

ここからは音声だけで(笑)

翔「あはは…愛紗?」

愛紗「はい?」

翔「まだ遊んで良い?」

愛紗「ダメです」

翔「まだ、遊び足りないんだが」

愛紗「仕事が終わってからです」

翔「えつ？愛紗、何で青竜刀？ちょ待て！？」

翌日

翔「勇、賭場に行けなくなつた」

勇「あれ？お持ち帰りがバレた？」

翔「してねえし、酷い目にあつた」

勇「あつ、そういうえば呉に連れて行かなきや行けなかつた」

翔「今！？何で呉に？」

勇「そこに所属してるから」

そんな訳で翔は呉に向かう事になつた

翔「お前、マシンティエンダー動かせるのか？」

勇「ああ、ハードボイルダーも良いみたいだね」

アル「何で俺は翔ばなきや行けねえんだよ」

ジン「歩きたく無い」

勇「分かつたよ、サイドバッシャーを出すから」

勇はサイドバッシャーを出すと、アルビジンを乗せた  
アル「ジン、運転するか？」

ジン「いや、アルさんがやつて下れー」

アル「んじゃ、ゴーグル着けな」

アルビジンはゴーグルを着けると翔と勇の後を追いながら奥に向か  
つた

## 第十一話 サボリと酒（後書き）

作者「今日はグダグダだ」

翔「でも、キーワードが隠れてるんだろ」

作者「読者様から意見を貰いました」

翔「だから、笑いと裏ネタと裏ヒントを書くと…」

作者「やつこい」と

翔「原作のキャラはゲスト出演か

勇「オリキャラは毎回ねえ~」

作者「皆さま、これからも恋姫無双 伝説のモンスターと最強の死神をよろしくお願ひします」

第十一話 呪のH、孫策（前書き）

「J感想をよろしくお願いします

## 第十一話 炎のH、孫策

翔「勇、後ろのへりいだ?」

勇「もう少ししたら着くと思ひよ」

アル「ほとんど砂漠じゃんこの辺」

ジン「でも、自然もあるじゃん」

翔「あつ、あれだ」

翔達は帝希を出て県の国、カイズ海砂にバイクで向かってた...

海砂

兵士「水谷様、お戻りになりましたか」

勇「何があつたの?」

兵士「孫策様が早く、帰つて来なせこと」

勇「・・・怒つてた?」

兵士「はい、お酒と肴がいるのではと」

勇「用意してる?」

兵士「もちろんです」

勇は兵士から酒と肴を貰つと城へ向かつた

翔「勇、それは？」

勇「ウチの大将さんが怒つてる時の対策」

翔「・・・」

アル「翔！刺身が美味いぜ」

ジン「このアコの塩焼きサイコーーー！」

アルとジンは屋台の魚料理を食つてた…

翔「観光しに来たんじゃ無いぞ」

勇「まあ良いじゃん」

観光してたら…

? ? ? 「あら、勇戻つてたんだ」

勇「蓮華、雪蓮どつなつてる？」

勇は、ピンク色の髪の女の子に聞いてた

翔（アル、あれは誰だと思つ？）

アル（孫家の間だろ）

ジン（でも、孫策か孫權じゃない？）

翔（まあ聞いてみよっぜ）

アル（とひひで翔、何故寿司を食つてゐ？）

翔（ん？腹減つたから）

アル（結局、翔もじやん…）

勇「翔？翔！聞こえてる~？」

翔「ん？何だ勇？」

勇「翔紹介するよ、」  
「あらは、」

蓮華「孫權です、あなたが死神ですね」

翔「俺は黒宮翔、よろしくな孫權」

勇「雪蓮達にも会つた方が良いかな？」

蓮華「姉さまも会つてみたいらしいけど…」

勇「やつぱ、怒つてた？」

蓮華「ええ…」

翔「？」

翔達は何にも分からぬまま勇に連れて行かれた

海砂 会議室

雪蓮「ああ～もう勇遅い！～！」

冥林「少し待たないか雪蓮？」

雪蓮「だつてさあ～死神を連れて来るつて言つてたじやない

冥林「それがどうした？」

雪蓮「遅すぎるのよ！～！」

冥林「はあ…」

冥林がため息ついたのは雪蓮が待つ事が出来ないからだ

冥林（勇、早く戻つてこい）

その時

バン！

勇「ただいま～」

雪蓮「遅い！～！」

蓮華「冥林ありがと」

冥林「死神は連れて来たのか？」

勇「うん、翔！」

翔「聞こえてるぜ勇」

愛紗サイド

愛紗（翔殿大丈夫でしょ「つか？」）

桃香「愛紗ちゃん」

愛紗（私もついて行けば良かった…）

桃香「愛紗ちゃん？」

愛紗「はあ…」

桃香「愛紗ちゃん！」

愛紗「は、はい何でしょ「桃香様！？」

桃香「心配？」

愛紗「な、何がですか？」

桃香「翔さんが心配なんでしょう」

愛紗「なー?」

桃香「どうなの?」

愛紗「そ、そりです・・・」

桃香「帰つて来たら、ね?」

翔サイド

雪蓮「翔、貴方最高!」

翔「雪蓮も最高だぜーーー!」

雪蓮と翔「アハハハ」

冥林「勇、お前どんでも無い奴を連れてきたな」

勇「まあ、許してよ冥林」

冥林「仕方ないな」

アル「しゃあないしよ冥林」

冥林「この苦労の理解者がいて良かつた」

明命「はああーお猫様ー!」

ジン「苦しそー」

ジンは小さくなり、ぬいぐるみみたいになつてゐ

蓮華「思春、どうすれば良いかしら?」

思春「蓮華様、どうにもならないでしょ?」

蓮華「はあ?」

翔「どんどん飲むぜ!」

雪蓮「浴びるほど飲むわよ!」

その時

冥林「お前らは飲むの辞めや!」

冥林の平手打ちと説教により、翔と雪蓮は反省した

一時間後

雪蓮「今、天の御遣いは三人いると?」

勇「翔、俺、一刀でしょ」

翔「で桃・・・じゃなくて劉備の所に一人

冥林「雪蓮の所に一人か」

翔「だが、魏の曹操の所にもいると思う

ジン「マジかよ！？」

アル「多分だがな」

レウスの「タイプは？」

翔「そうだな…ってアンタは？」

レウス「勇のパートナー、レウスだ」

レウス

姿 テイルズオブヴェスペリアのカロル

武器 ツインハンドガン

悩み

身長が伸びない事

レウス「よのじく…」

翔「よのじくなチビ」

レウス「チビ言つな…！」

アル「チビだからしゃあない」

レウス「だからチビ…」

ジン「牛乳飲んでも伸びないんじゃ？」

レウス「・・・ちくしょーーー！」

と窓のとレウスは窓を突き破つて翔んで行つた

翔「大丈夫なのか？」

勇「まあ、帰つて来るしょ」

こんな感じでしばらく話は続いた

翔「今回もグダグダだな」

作者「すいません」

翔「あれ？ 作者、調子悪いのか」

作者「体育で倒立の練習がキツイ」

翔「それは愚痴だろ」

ボレアス「僕が教えようか？」

作者「僕っ子は嫌いだ！！」

ボレアスの「ちょー？」

翔「作者も酷い事言つんだな……」

## 第十二話 ダブルバティエンド（前書き）

かなりグダグダです

感想をよろしくお願ひします

## 第十二話 ダブルバティエンド

翔「なあ、勇」

勇「どうした翔？」

翔「お前まだ怪盗を続けてるのか？」

勇「今はやつて無いよ・・・多分（笑）」

翔「・・・まあいいか、お前変装とか潜入系の仕事得意だが、戦は専門じやないんじや？」

翔「そうだな……」

翔が窓から外を見ると・・・

明命「アイルー様、警備に行きましょう！――！」

アイルー「ニヤーー！」

明命の後に十人いや、十つ匹連れて警備に行つた

翔「・・・平和だな」

勇「そう？」

その一方…

愛紗サイド

紫苑「愛紗ちゃん、これも良いんじゃないかしら」「ひじ

紫苑は愛紗に黒の下着を渡したが

愛紗「紫苑、これ小さく無いか?」

紫苑「当たり前じゃない、小さく方が誘えるわよ」

愛紗「はあ…」

翔サイド

翔「なあ、勇」

勇「何だい翔?」

翔「暇だな」

勇「じゃあまたライダーバトルする?」

翔「面白れえ」

二人は、城から離れた森に向かつた

離れた森

翔「さて、一本勝負やろ」

勇「もちろん」

翔はダブルドライバーを装着し、サイクロロンメモリとジヨーカーメモリを取り出し、勇はディエンドドライバーにディエンドのカードを挿し込み

翔と勇「「変身!...」」

サイクロロン!  
ジヨーカー!

カメンライド!  
ディエンド!

翔は(WC)に変身し、勇はディエンドに変身した

が:

ギャア～オン

翔「ファング?」

ファング「ギャア～オン!」

翔「ファングジヨーカーになれと?」

ファング「ギャア～オン!」

翔「しゃあないな」

ファング！  
ジョーカー！

翔は一旦、変身解除してからFJに変身した

翔「ファング、力を貸してくれよ」

勇「さて行くよ」

勇は翔（FJ）に先制攻撃をかけたが…

翔「何度も同じ手にかかるかよ！」

ギャア～オン！

ショルダーファング！

翔は肩から出たファングブレードを取り、勇に投げつけた

勇「あつ、ヤバ！」

バーン！

勇は翔が投げつけてきたファングブレードを撃ち落とそうとしたが

ガキーン！

勇「くつ…」

翔「ガンガン行くぜーーー！」

ギヤア～オン！

アームファング！

翔の腕からファングブレード出てきた

勇「やるしか無いー！」

アタックライド！  
ファイズエッジ！

勇はファイズエッジで応戦したが

翔（この一撃で決めるー！）

ギヤア～オン！  
ファング！  
マキシマムドライブ！

勇「ならー！」

ファイナルアタックライド！  
ファファファファファイズ！

勇のファイズエッジが赤く光出した！

勇「クリムゾンスラッシュ！ー！」

翔「ファングストライザー！！！」

お互いの必殺技がぶつかりあった・・・

ドオオオオン！！

その後・・・

冥林「派手にやつてくれたな二人共」

翔「何がまづかったか？」

冥林「クレーターが出来た事に決まってる！」

勇「クレーターより小さいから良いじゃん」

冥林「埋めなさい」

勇と翔「はい・・・」

この後、二人は昼飯抜きでクレーターの穴埋め合せをしました

穴埋め後翔達は、モンスターの情報を聞いた

翔「黒い獣？」

アル「近所の人からそう言われてる」

翔「この際だから行くか」

勇「わかつたじやあ、行こ」

翔達は、黒い獸を狩りに行つた

？？？

？？？「姫様、水谷と翔が接触しました」

？？？「大地、貴方はどう思つ?」

？？？「俺は、泳がせておくのが良いと思つ」

？？？「あら珍しいわね、大地がそんな事言つなんて」

？？？「そうですか?」

姫<sup>ヒメ</sup>と呼ばれてる女と大地<sup>ダイチ</sup>と呼ばれる男の所に

？？？「大地の本音は、翔を殺す事やろ」

？？？「桜夜<sup>サクヤ</sup>いつから聞いてた?」

？？？「アンタラが翔達をどりするかつて所から

？？？「最初からじゃない」

？？？「大地、翔を捕らえる事が目的やからな」

？？？

？？？「統魔、どうする？」

？？？「シャルダ華林達に伝えろ、兵の準備をしろ、と

？？？「わかった」

？？？「さて、翔の様子を見に行くか

翔達が黒い獣を狩りに行くころ、一つの勢力が動き始めてた・・・

## 第十二話 ダブルバティエンド（後書き）

作者「今日は内容がダメダメなので、あとがきにゲストとを呼んでます」

翔「ゲストか…」

勇「僕がいて大丈夫か？」

作者「勇の誕生は簡単だ」

翔「何で？」

作者「どつかのお坊ちゃんだけど、実は怪盗みたいな（笑）」

勇「単純だね」

翔「俺は？」

作者「刹那が好きだし、翔と言つ字が好きだから（笑）」

翔「単純だな」

勇「次回はモンスター戦だね」

作者「黒い獣だ」

翔「二大勢力つてなんだ？」

作者「片方は天の御遣いとクロノスだ」

勇「次回もお楽しみに」

作者「それは翔が言う所だろ」

## 第十四話　迅獣、ナルガクルガ（前書き）

作者「今日は、あれが出てきます」

翔「と言つよりターゲットだな」

勇「動きが速いからねえ」

アル「本編をどうぞ」

## 第十四話 迅獣、ナルガクルガ

翔「黒い獸…」

アル「まあクロスチエンジをすれば倒せるだろ」

ジン「そういえば場所は?」

勇「近くの森らしいよ」

レウス「何で雪蓮達もいるの?」

雪蓮「え? アタシ達も行きたい」

勇「危ないからダメって」

翔「まあ、勇が守れば良いだろ」

勇「うーん仕方ないな」

雪蓮「わーい!」

翔「大変だな…」

彼らは今、森にいる黒い獸を狩りに行つてゐるのだが…

翔「これ遠足のノリだな」

アル「大丈夫か?」

翔「大丈夫な訳ねえだろ」

「こんな遠足気分で近くの森に向かつて行つた…」

近くの森

翔「そろいえ、情報聞いてないよな」

アル「ああ、黒い獣に関してだろ?」

翔「ああ」

勇「僕達も援護するから」

翔「てか、クロスチョンジ出来たんだよな?」

勇「うん」

レウス「僕達の力なめ…」

翔「チビ黙れ」

レウス「最後まで言わせてよ…?」

ジン「チビに言ひ価値なし!」

アル「酷い事、言つんだな~」

レウス「良いし、どうせ僕何か…」

勇  
いじけたな

翔  
いじけたな

アル（いじけた）

ジン（いじけたねえ）

その時、雪蓮は何かの気配に気づいた

雪蓮「ねえ、何かの気配を感じるんだけど？」

冥林「雪蓮、それは私も同じだ」

勇「気配を感じる？」

その時！

翔「勇！ハンドガンを貸せ！」

勇「えつ！？わ、わかつた！」

勇は翔にサムライエッジを投げると、翔は雪蓮達がいる方向に構え…

勇「えつ、翔！？」

翔「雪蓮！屈め！」

雪蓮「わかつた！」

バーン！

翔が撃つた先には…

ナルガ「グギヤアアオーン！？」

アル「ナルガクルガ！？」

ジン「黒い獸つてそういう事？」

勇「多分ね、雪蓮達は下がつてて」

雪蓮「わかつたわ」

勇「レウス！」

レウス「わかつた！」

勇とレウス「クロスチエンジ！」

勇の体を光が包み、そして…

勇「クロスレウス！」

翔「ヒュー、カッコいいな」

勇「でしょ？」

クロスレウス

姿 モンハンのレウスの装備

武器 ツインハンドガン

特徴 レウスの翼で翔ぶ事が出来る

勇「レウス、行くよ！」

レウス（わかつた！）

翔「俺達も負けてられねえなアル！」

アル「わかつてるって」

翔とアル「クロスチエエエンジ！」

そして…

翔「クロスアルティメット！！」

翔と勇はナルガに向かつて武器を構えたが…

ナルガ「グギャアアアオン！」

電光石火の速さで殴つてきた

翔「ちょ！？」

ズガーン！

翔「痛え〜」

勇「かなりヤバく無い?」

レウス「ヤバいって言つよりスピードが速い」

アル「追いつけば良いって事だろ?」

翔「そうだな、行くぜ!〜」

翔はナルガに向かつてガトリングを撃つたが

ナルガ「ガルルルウ…」

あんまり効いて無いみたいだ

翔「あいつ、化け物か!?」

ジン「いや、化け物だろ」

レウス「いや、モンスター…」

翔とジン「「黙りやがれチビ!〜」」

レウス「・・・」

彼らに勝ち目は有るのか?

## 第十四話 迅獣、ナルガクルガ（後書き）

作者「さて、今回も適当に終わりました」

翔「次の話は今回の後半戦だな」

勇「後、僕がクロスチエンジを使った事だね」

作者「速く愛紗達に会いたい」

翔「次、愛紗達に会えた時つて…」

レウス「あれだね」

レウス以外「「「黙りやがれチビ…」」

レウス「酷い！？」

## 第十五話 第一の力（クロスチョンジ）（前書き）

作者「また、翔に新たな能力が！」

ジン「翔、カツコいい！！」

翔「・・・どうも」

## 第十五話 第1の力（クロスショット）

勇「翔！」「イツビツするの？」

翔「どうするって倒す以外何があるんだよ……」

勇「僕にそんな事」

勇は、ナルガクルガの頭に

勇「聞かないでよ……」

銃弾を浴びせたが……

ナルガ「ギャオーン！」

レウス（あんまり効いて無いみたいだけど……）

勇「いや、怯んだよ」

翔「なら……」

翔はガトリングで牽制しながら

翔「接近戦に持ち込む……」

翔はソードで切りつけたが……

ナルガ「ギャウッ！」

ナルガは右前足で止めた！

翔「チツー・コイツ何なんだよーー？」

アル（ガトリングを避けて、ソードを止める…普通なら無理なはずだ）

翔「アル！しゃべってる暇あるなら、代わりにせつてくれー！」

アル「ああ・・・つて出来ねえだろ」

ビシッ！

翔「ぐはつーー？」

翔はナルガの尻尾に打たれた

翔「打ちやがったなーー？親父にも・・・」

アル（翔、自主規制ーー）

翔「もう、ヤケクソだーー！」

勇「ヤケクソなら仕方ないか」

ヒヅヒと勇はツインハンドガンを合わせて一つの銃にした

レウス（勇、いつでも撃てるよーー）

勇「よし！必殺！」

勇はエネルギーチャージしながら、照準をセットした

勇「フルブラストショート！」

ズガーン！

勇はナルガに必殺技をぶちこんだが…

ナルガ「ギャルルル…」

勇「えつ？効いてない？」

ナルガ「ガルルルウ！」

ブウン！

ナルガが勇に連續で殴りかかってきた

勇「くつ！？」

翔「勇！」

翔は勇に近付こうとしたが…

ナルガ「ガルルルウ！」

翔「くつ！？」

雪蓮「勇！」

勇「雪蓮、来ちゃダメだよ！」

雪蓮「私だつて戦うわ」

雪蓮は腰にある南海霸王を引き抜き、ナルガに立ち向かったが：

ナルガ「ギャウッ！」

ナルガは尻尾からブレード状の物体を雪蓮に撃ち込んだ

勇「雪蓮！」

バン！

勇は雪蓮に向かってくるテールブレードを撃ち落としていた

が…

勇「くつ…」

雪蓮「勇！あなた肩ヶガしてるじゃない！？」

勇「大丈夫だよこのく…ら…」

翔「勇、無理すんな」

勇「翔…」

雪蓮「黒宮…」

翔「雪蓮、勇を安全な所に」

雪蓮「わかつたわ」

勇「レウス、ごめんね」

レウス「勇、けつこう傷ヤバいよ」

勇とレウスはクロスチェンジを解除し、雪蓮と一緒に、退却した

翔「さて、かなりヤバイ状況だけど、どうする?」

アル（はあ！？ヤバイも何も、絶体絶命だろ）

翔「そうだな」

その時！

ジン「俺を、なめんじゃねえええ！」

ブウン！

ナルガ「グギヤアアアオン！？」

翔「ジン！助かった」

ジン「兄貴、俺も今ならクロスチェンジがいける気がするー！」

アル（どうする？）

翔「やるしかないだろ」

翔は、クロスチェンジを解除し、そして

翔「ジン、行くぜ！！」

ジン「オウ！！」

翔ヒジン——ケロスチヒヒヒンジ!!」

翔とシンはケロスチョンシをし、そして……

翔とシノ、一ヶ戸シノ木だ！」

タロウシンスルガ

卷之三

武器  
体術

特徴  
四足歩行で行動し  
電気を操り戦う

翔  
が  
な  
り  
体  
が  
轉  
ぐ  
た  
だ  
め  
が  
な  
り

（ノルマニガル舞六）

翔はナルガに向かつて翔び

翔「ハアアアアツ！」

ジン（必殺！）

翔「ライトニング！」

翔とジン「クラッシュヤアアアー！」

翔は丸くなり、空中で回転し、電気を纏い、突っ込んだ

ナルガ「グギヤアアオン・・・」

翔達はナルガを倒したが…

ナルガ「グギヤアアオン！？」

翔「何だ！？」

勇「ナルガが泣いてる？」

雪蓮「もしかして、あれ死んだんじゃ…」

アル「まさか？」

アルは近づいてナルガの体を触れてみると…

アル「…死んでる」

翔「原因は？」

アル「何かで切り裂かれた後がある」

翔「切り裂かれた？」

アル「しかも、物理的な物じゃない」

翔「と言つと？」

アル「……わからねえ」

彼らは、分からなかつた

魏の天の御遣いがナルガを殺した事を…

海砂 城内

兵士「黒富様！」

翔「何だ？」

兵士「至急、蜀と言つ国に向かつてください」

翔「……？」

アル「行つてみようぜ」

ジン「行こう行こう！」

翔「……ああ」

翔達は蜀に向かつた…

勇「劉備が動き出したね」

雪蓮「ええ」

冥林「我らの敵になるんだろうか」

蓮華「黒宮が相手ならマズイわね」

雪蓮「いや、味方になるとと思つわよ」

雪蓮達が翔達につぶやいてた事は聞こえて無かつた…

## 第十五話 第1の力（クロスチョンジ）（後書き）

3万PV突破！！

翔「良かつたな作者」

作者「次回は、番外編が本編です」

翔「番外編はもし俺達が探偵だったらシリーズだ」

作者「本編ではついに翔が蜀のメンバー全員に会うつな」

翔「ついに蜀か…」

作者「そしてついにあの子が登場！？」

翔「あの子って？」

作者「イメージと違う子だ…」

作者と翔「次回をお楽しみに…」

### 3万アクセス記念！ 番外編 もし翔達が…だったら… 探偵編（前書き）

翔「今日は番外編だ」

作者「いや～書いて楽しかったな」

ジン「でも、登場メンバー少ないな」

作者「仕方ない」

翔「では」

全員「どうぞ…！」

### 3万アクセス記念！ 番外編 もし翔達が…だったら… 探偵編

「これはもし翔達が探偵だったたらの話です

ここは朱桜アカザクラ、さまざま人がいる町だ  
皆がさまざまな目的を持って生きている  
が…

その中には、この町を壊そうとしている奴もいる  
そしてここにこの町を守ろうとしてる奴がいた…  
とある探偵事務所

翔「俺は黒宮翔、この町でハードボイルドに生きる男だ」

翔は「一ヒーのブラックを飲みながら呟いた

翔「この町は俺の故郷であり、俺の庭だ」

翔は本を読みながら呟いた

翔「もともとは俺の師匠、おやつさんになこがれて…」

その時、事務所のドアが勢いよく開いた！

アル「翔、仕事が入った！」

入つて来たのはアルだった

翔「アル、人が話してる時に話すなよーー！」

アル「えつ？ 知らないよそんなこと」

翔「俺の自己紹介はどうするんだよ？」

アル「大丈夫でしょ」

黒富翔

おやつさんにあるがれてこの事務所に来た男

服は仮面ライダーWの左翔太郎みたいな感じ

性格 ハードボイルド？

アル

昔、おやつさんに助けられた男

翔とはコンビが長い

服は仮面ライダーWのフイリップが少し活発的な？

性格 冷静、少し常識知らず？

翔は行動、アルは頭脳、この不思議なコンビがなす仕事は探偵と言うより、何でも屋に近い

事務所は仮面ライダーWと同じ

翔「で仕事は？」

アル「ジン警部から頼まれた」

翔「はあ！？またジン警部の？」

アル「やらんかったら、また署まで来てもらつて」

翔「・・・しゃあねえな、で内容は？」

アル「最近噂の少女誘拐犯のアジトに潜入しろと」

アルは翔にジン警部から渡されたファイルと資料を見た

ジン警部

翔を昔から知る男である

若くイケメンだが翔達に仕事を押し付けて自分は無線で競馬の放送を聞いてたり、仕事中にカジノに出かけたりとダメな人だ

服は、仮面ライダーWのマッキー（真倉）である

翔はファイルに載つて男を見て思つた

翔（口リコンに見えるな）

アル「男の名前は北郷一刀、職業は高校生らしいが…」

翔「学生が犯罪者かよ…」

アル「今じゃ普通じゃねえの」

翔「普通じゃないだろ」

アル「潜入頼んだ」

翔「また改造?」

アル「そのうち使うぞ」

と言つとアルはガレージに入つて行つた…

翔「はあ…仕方ない俺一人で行くか」

翔は仕方なく行くことになつた

とある倉庫

翔「ここに犯人が…」

翔はバレないように潜入した

翔「犯人は3人か」

その中に主犯の北郷一刀がいた

犯人1「どうするんだよ一刀?」

一刀「売り飛ばせば高く売れるさ」

犯人2「しかし、警察に気づかれて無いよな？」

一刀「大丈夫、それよりあの女連れて来いよ」

犯人1「分かつた」

犯人1はあの女を連れてきた

愛紗「離せこの外道！」

犯人1「おっと、大人しくした方が良いぜ」

愛紗「くつ！」

犯人1は愛紗にナイフを突きつけた

翔あれがターゲット…

翔は気づかれないように動いたが…

ゴオン！

翔（ヤバい！？）

犯人3「誰だ！」

犯人3は翔の存在に気づかなかつた

犯人3「ちつ、いねえのかよ」

一刀「まあ氣にするな、もう少ししたら金と女が手に入るんだから」

犯人3「そうだな」

犯人2「早くしようぜ」

一刀達は、車のトランクに銃を積み込んでいた

翔（今だ！！）

翔は気づかれないよう愛紗に近づき、逃げようとしたが…

犯人2「侵入者だ！！」

犯人3「撃ち殺す！」

一刀「女に当てるなよ」

一刀達は翔に向かつて発砲してきた

翔「なあ、アンタ名前は！？」

愛紗「私が？私は愛紗だ」

翔「俺は黒宮翔、一応探偵だ！」

愛紗「助けに来たのか？」

翔「そういうことになるな」

その時、いきなりフェラーリが突っ込んで来た！！

全員「えつーー？」

出てきたのは・・・

アル「よう 翔助けに来た」

食パンを加えながらアルがフェラーリから出てきた

全員（アンタはマンガの女子高生かよーー？）

そんな下らない笑いに包まれてる間に翔達は、フェラーリに乗り込み逃げた…が

一刀「奴らを追いかけるーー！」

一刀達は翔達に向かつて銃を撃ちまくつてきた！

翔「アル！何か無いのかー！」

アル「後ろの席にスースケースが有るだろ」

翔はスースケースを開けてみると…

翔「コイツを使えーー？」

翔が取り出したのはマシンガンだった

アル「それで行けよ」

翔 「どうなつても知らねえぞ！！」

ガガガガ！！

翔は後ろのドアを蹴飛ばし、マシンガンをぶちかました

アル二のアヒテーりただのアヒテーりと懸うなよ!」

アルがボタンを押すと、後ろから機関銃とミサイルが出てきて、撃つた

犯人3 「うあああああ！？」

數分後

ジン「すまんな翔」

翔「アンタもいい加減に仕事中に競馬聞くの止めるや（笑）」

ジン「これが楽しみなんや」

翔「はあ…ダメなおっさんだ」

ジン「そういえば、北郷は逃げられた」

翔「俺のミスすか?」

ジン「いや、アイツはもともと逃げるつもりだつたみたいだ」

翔「あの少女は?」

ジン「話を聞いたら家に帰すつもりだ」

翔「何かあつたら連絡してくれ」

翔は探偵事務所に帰つたがこの後、衝撃を受ける事を知らなかつた…

探偵事務所

アル「だから知らねえつて」

???「父上なら分かるはずだ!」

アル「だからな…」

翔「どうしたアル?」

アル「ああ翔帰つたんだ」

翔「何があつた?」

アル「この女がバカな事言つんだ」

???「だから違つて…」

翔「あの何すか？・・・」

翔と女は顔を見た

翔と女「「ああ～ーー？」」

翔「お前はわざわざの探偵ー？」

愛紗「お前はわざわざの探偵ー？」

アル「よくみたらわざわざの捕まつてた女」

翔と愛紗「「今氣づくーー？」」

アル「まあ、気にすんな」

翔は愛紗から話を聞いた…

愛紗「と書つわけなのですが

翔「・・・」

アル「おやつわんの娘…」

愛紗「それで父上を訪ねに来たのだが・・・」

翔「おやつわんは…」

アル「おやつわん、まだ帰つて来ないんだ」

翔「ああ…」

愛紗「父上は帰つて来ないなら、私はここに住む」

翔「うん… はあ…？」

アル「ああ…えつ…？」

愛紗「では改めてよろしくお願ひいたします」

翔とアル「ウソだろ…？」

こうして翔達は新たなメンバー、愛紗を迎えていったのであった…

つづく？…

### 3万アクセス記念！ 番外編 もし翔達が…だったら… 探偵編（後書き）

作者「いや～面白かった」

翔「悪くないな」

アル「しかし、あの車は…」

作者「いやフューラーイガカツコいいからや」

翔「あれ300キロ越えるだろ」

作者「いやこのフューラーイは、マッハ3ぐらいまで…」

翔「普通死ぬだろ」

アル「涼しいからええやん」

翔「えつ！？」

アル「さて、作者よ次の予定は？」

作者「本編は蜀に向かう途中の話だ」

アル「番外編もまたメンバーが揃えば出来るんだろ」

作者「しかも予定ではロボットを出すぜ」

アル「さて次回をお楽しみ」

翔「・・・お楽しみ」

作者「翔、出れなかつたから嫌なんだろ（笑）」

## 翔「殺す！」

作者「ギヤアアアアア！？」

第十六話 新たな仲間、そして・・・（前書き）

今日は短く、グダグダです

## 第十六話 新たな仲間、そして・・・

翔達は、呉を発ち、蜀と並び國に向かつてゐるのだが…

翔「まだかよ」

アル「このへんのはずだけど・・・」

ジン「地図だとこのあたりですね」

翔「確かにそうだな」

アル「ん一分からん」

ジン「迷いましたね」

翔「迷つてしまつた

アル「迷つた」

翔とアルとジン「「「・・・並びしきよ」」

翔「うーん」

ジン「木の棒が倒れた方に向かうのは?」

アル「前にやつて迷つた」

翔「風を頼りに・・・」

アル「旅人じやねえだろ」

全員「うーん・・・」

その時

???「おー、そこの者」

翔「俺?」

???「やつ、お主らじや」

全員「・・・?」

呼ばれた方に向かうと・・・

???「お主らは何者だ?」

翔「俺は黒宮翔、アンタは?」

桔梗「ワシは巖願、こつちは魏延じや」

焰耶「よひじく」

翔「ひあひあそよひじく」

焰耶「お前らみたいな素人と行きたく無いが」

桔梗「これ、焰耶！何を言つんだ！」

焰耶「しかし、桔梗様！」

翔「なあ、俺を素人つて言いやがつたな？」

焰耶「ああ言つたぞ」

翔「戦つても無い奴に素人つて言つのはね・・・」

焰耶「コイツ！」

焰耶は持つてた剣で翔に殴りかかってきたが…

翔「甘いな」

翔は、天空を装備した状態で剣を掴み、折つた

バキンッ！

焰耶「そんな！？」

翔「甘いんだよ、動きが単純だな」

翔は焰耶の剣の欠片を捨てる、腹に一発殴つた

ドゴッ！

焰耶は怯んだが、翔に立ち向かおうとしたが…

翔「お前の負けだ、魏延」

焰耶「くつ！」

焰耶は仕方なく負けを認めた

ジン「翔、強いな」

翔「まあ、慣れてない剣で勝てると思つた」

桔梗「何じやと！？」

焰耶「……いつ気づいた」

翔「まず、アンタの剣の振り方は斬るつて言つより、潰すようなやり方だ」

焰耶「ああそうだ……」

翔「なあ厳願、魏延に何か打撃系の武器をやつしてくれ

桔梗「よからう、ワシはあと一つ武器があるから大丈夫じゃ」

そんなこと話してると……

ノッポ「よお兄ちゃん、身につけてる物を置いてきな

チビ「そつだ置いて……」

翔「知るか」

翔が蹴つた先にはノッポの股間だった・・・

キーン！

ノッポ「ギャアアアアッス！？」

アル「今のは痛そうだな・・・」

ジン「じゃあ、俺もやってみよう！」

アル「おいおい・・・」

そして翔達は、襲つてきた盗賊を返り討ちにしたが・・・

翔「暇だし、人間ハンマー投げやろりつぜ！」

ノッポ「えつ！？」

ジン「じゃあ負けたら、『チで』

チビ「はつ？」

アル「仕方ない・・・」

テブ「うえつ！？」

翔はノッポ、ジンはチビ、アルはテブの両足を持ち投げた・・・

翔「あー、飛ぶねえ」

翔達は盗賊を撃退？した

桔梗「しかし黒宮よ、さつきの賊から蜀の場所を聞けば良かつたのと思つじゃが？」

翔「・・・忘れてた」

ジン「翔、飛んで行つた方が早いと思つが」

翔「あつ、その手があつた」

アル「早めに氣づけよ！？」

アルは龍の状態になつたが・・・

焰耶「化け物！？」

桔梗「黒宮！お主は何者だ！？」

翔「あのな、俺最初に言つたぜ、モンスター狩りの死神 黒宮翔だ  
つて」

アル「言つて無いぞ翔」

ジン「翔が言つて無いよ」

翔「俺原因！？」

こんな感じで翔達は、アルの背中に乗り蜀に向かつた・・・

後、翔は厳願と魏延の真名を教えてもらつた・・・

## 第十六話 新たな仲間、そして・・・（後書き）

翔「ついに桔梗と焰耶が仲間か・・・」

作者「これから本格的になるかな・・・多分」

アル「次の話は？」

作者「一応、反董卓軍の後の話だ」

翔「あの口うつ娘が出るな」

作者「そして、予想外の事が！？」

全員「お楽しみ！」

## 第十七話 イメージが違う時だつてある（前編）

更新速度が遅くてすいません

## 第十七話 イメージが違う時だつてある

蜀 青山

セイラン

桃香「翔さん遅いねえ~」

愛紗「翔殿・・・」

鈴々「愛紗は翔お兄ちやんの事になると心配性なのだ」

愛紗「や、そんな」と無ごー。」

紫苑「あ!あ!、愛紗ひやん照れなくて跟ごの元」

愛紗「紫苑までー。」

愛紗が眞から言われまくつてこると・・・

ボレアス「あつ 翔だー。」

愛紗「何つー?」

愛紗が外に見てみると・・・

愛紗「ビリヒいるんだ翔殿は?」

ボレアス「愛紗さん、ウソに決まつてぬじやないですか(笑)」

愛紗「・・・」

愛紗は無言で青竜刀の刃をボレアスに向けた・・・

ボレアス「あれ、愛紗さん何で僕に青竜刀を・・・」

愛紗「・・・覚悟」

ボレアス「ヒィィイー？お助け〜！」

蜀の姫さんは翔が帰つてくるのを待つてた・・・

一方・・・

翔「もう着くだろ」

アル「あれじやない？」

青山 入り口

翔「オツス

門番「誰だ！・・・つて黒面将軍じゃないですか！？」

翔「すまんな、姫君？」

門番「姫さま、城にいますが呼びましょうか？」

翔「いや良いや、サプライズしてやるか？」

門番「分かりました、後ろの方は？」

翔「えつーと……あのおば「翔、わかつてあるじやうつな?」いや、銀髪のお姉さんの方が厳願、黒い髪で筋肉で体が出来る方が魏延だ」

焰耶「黒宮、覚悟は出来てるだろうな……」

翔「何や脳筋?」

焰耶「ぜつてえ、殺す!」

翔達は、愛紗達がいる限りまで行つた……

青山 城

ギイー……

翔「ただいま戻りました」

愛紗「翔殿!」

愛紗は翔に抱き付いた

翔「ちょ愛紗!?離れろって……」

愛紗「一週間も帰つて来ないから心配したんだぞ!」

翔「いや、短いだろ!?」

愛紗「もう心配だった……」

桃香「翔さんお帰りなさい」

翔「桃香、愛紗を離すの手伝つて」

桃香「じゃひくしたら離れますよ（笑）」

翔「見捨てるかよー？」

紫苑「あらあら、お盛んですね」

翔「紫苑も赤くなるなよー」

璃々「わーい、璃々もー！」

帰つて来たら手荒い？迎えだつた

その後・・・

桃香「で、桔梗さんと焰耶ちゃんはここに仕えるんですか？」

桔梗「出来たらやりたいのじゃが」

桃香「これからやり直してお願いいたしますー！」

焰耶「と、桃香様のためなら何でもしますー！」

桃香「あ、あはは・・・ありがとうございます（笑）」

蒲公英「えつーまた脳筋が増えるのー？」

焰耶「キサマみたいなチビよりマシだ」

翔「だけど、俺には負けたな（笑）」

焰耶「黒宮、覚悟は出来てるだろ？」「

翔「かかってこいよ」

物騒な会話をすると・・・

一刀「あつ翔、帰つてたんだ」

翔「よう種馬、ハーレム生活はどうだった？」

一刀「た、種馬つて・・・」

翔「剣の腕より、口説く技術が高いからな

一刀「酷いよ翔！」

その時・・・

？？？「主人様、お茶の用意が出来ました」

一刀「月、ありがと」

桃香「月ちゃんありがと」

ズズツー

全員「はあ…」

翔「コイツ誰…?」

月「えつーと…」

詠「コイツ、モンスター狩りの死神…?」

アル「この子どつかで見たことあるな…」

翔「無いだろ」

月「私は董卓です」

翔「…えつ？」

翔とアルとジン「えつーーー?」

翔「お前が董卓…?」

月「へうー」

翔達は月を見て思つた事…

翔とアルとジン「これが美少女の萌えか!?」

その後…

翔「コイツは呂布で、こっちは華雄、でそっちは陳宮か

月「私と詠ちゃんは真名で良いですよ」

詠「でも月、この人が死神?」

月「分かんないけど、恋ちゃんが大丈夫って」

恋「・・・翔、優しい」

セキト「ワン!」

翔「セキト、くすぐったいって(笑)」

詠「まあ恋とセキトがなつくなら大丈夫だろ?けど」

愛紗(翔殿は動物になつく...と言つ事はあれだ!)

愛紗は一体何を閃いたか分からぬがまあええだろ

## 第十七話 イメージが違う時だつてある（後書き）

翔「作者、何を悩んでる?」

作者「いや、この小説に会う曲を考えてるんだ」

翔「普通に恋姫無双、乙女大乱のオープニングだろ」

アル「いや、真ゲッターロボ、世界最後の日のHEATHだな」

作者「いや、獣装機攻ダンクーガノヴァの鳥の歌だ」

翔「ロボット系が多いな」

この討論はしばらく続いた・・・

ジン「さて、次回は予想外な事が起きます」

次回はハチミツ好きのあの子とバスガイド!??が登場

ジン「お楽しみ!」

## 第十八話 バスガイドとハチミツ少女（前書き）

感想をお願いいたします

## 第十八話 バスガイドとハチミツ少女

青山 会議室

翔「そういえば、月達は何でここに来たんだ？」

月「それは……」

詠「僕たちが悪者扱いされたから」

ジン「何で悪者！？」

アル「……バカな奴が月達を利用したんだ」

翔「自分の地位と名誉か」

詠「うん……」

霞「せやでえ」

翔「利用した奴は？」

桃香「それが……」

翔は話を聞いて驚いた

翔「袁術がやつた！？」

アル「まあ金持ちの考えは分からんからな」

愛紗「敵は我々の二倍です」

翔「そうか、愛紗何してるんだ?」

愛紗「し、翔殿が動物になつくから……」

翔「……」

愛紗はネコミミを付けて会議に出てた：

翔(やつきから皆が笑ってた訳だ……)  
しかし翔はあえて気にしなかつた、気いたら負けだと

翔「……久々にあばれますか」

と言ひ訳で

翔「袁術潰しに行こいつー。」

アル「やうと恐ろしい事言つてるな

翔達は袁術のいる雨都ハシメへ……

雨都 城内

美羽「七乃～ハチミツくれたも～」

七乃「はーい美羽様」

美羽は至福のハチミツを楽しんでいると……

兵士1 「申し上げます！」

美羽 「何事じゃ！？」

袁術軍兵士1 「し、死神の旗が！」

美羽 「死神の旗？」

七乃 「美羽様、それって噂のモンスター狩りの死神じゃないですか！？」

美羽 「七乃、わらわは死にたく無いのじゃ！」

七乃 「大丈夫ですよ、お嬢様は私が守りますから」

一方・・・

翔 「さて、袁術がどこにいるか吐いてもらうか」

袁術軍兵士2 「お、俺は知らねえ」

翔 「・・・じゃあ死ね」

グシャ

翔は袁術軍の兵士の頭を潰した

アル 「翔、服が血だらけだぞ（笑）」

翔「だつて月達をあんな風にさせた奴は許せねえじゃん」

アル「まあそっだが見つけたらどうするんだ?」

翔「まだ決まってねえ」

袁術軍兵士3「死ねえ!!」

翔「黙れ」

ズザツ!

翔「つたく、雑魚は失せろ」

雨都 城内

七乃「誰もいませんね・・・」

美羽「七乃、わらわは怖いのじゃ」

七乃「大丈夫ですよ」

しかし七乃是不安だった・・・

七乃（でも相手は死神・・・勝てる訳ない・・・）

美羽「七乃、ハチミツが飲みたいのじゃ」

七乃「お嬢様、今は無理ですよ」

美羽「いやじゃ、わらわは今飲みたいのじゃー。」

美羽はハチミツが飲めなくて不満だった・・・

その時！

翔「なあ、アンタが袁術か？」

美羽「やつじや、わらわが袁術じやー。どうだ、スゴいじやろ」

翔「じゃあ、死んでくれ無いかな？」

美羽「なぜわらわが？」

翔「てめえらのせいで俺の仲間が酷い目にあつたんだよ」

七乃「お嬢様、下がつてくださいー。」

七乃是持つてた剣で翔に襲いかかつたが

翔「甘いな」

翔はその剣を素手で掴んだ

七乃「あつ、ああ・・・」

美羽「な、七乃~」

翔「俺はてめえらみたいなバカを潰す死神なんだよー。」

七乃「お、お嬢様だけは...」

美羽「いや、七乃是助けて欲しいのじゃ」

七乃「いや、美羽様だけでも！」

美羽「七乃！」

七乃「美羽様！」

美羽「七乃！」

七乃「美羽様！」

美羽「七乃！」

七乃「美羽様！」

美羽「わらわじゃ！」

七乃「私です！」

美羽「わらわじゃ！」

七乃「私です！」

美羽「わらわじゃ！」

七乃「私です！」

美羽「わらわじや！」

七乃「私です！」

翔「そろそろ黙れ」

翔は懐から麻酔銃Mk22を取り出し、七乃と美羽の頭に撃つた

翔は七乃と美羽を拘束し、連れ帰つた

青山 城内

ピシッ！

翔「さあ吐けよ！」

七乃「だ、だから私は何も知りませんって！」

翔「あんま知らばつてると・・・」

バサツ

翔はナイフを取り出すと、美羽と七乃の服を切り裂いた

美羽「ピイー？」

七乃「キヤア！？」

愛紗「翔殿！？」

翔「さつさ吐けよ、死にたくねえだろ？」

アル「翔、やりすぎだ！」

翔「しゃべりいやんねえと吐かないからな」

七乃「だから何も・・・」

ダーン！

翔は壁に向かって銃を撃つた

美羽「七乃～もう嫌じや」

七乃「もう、許して・・・」

その時！

ジン「翔、ヤバい事が起きた！」

翔「何だ？」

ジン「月達をあんな風にした奴は別にいる！」

翔「相手は？」

ジン「・・・クロノスだ」

翔「！？」

その後・・・

翔「悪かつたな美羽、七乃」

美羽「翔はわらわの部下じゃから大丈夫なのじや」

翔「ハイハイ」

すると七乃是・・・

七乃「翔さんは私達を守ってくれますよね?」

翔「まあ仲間だしな」

七乃「嬉しい!」

七乃是胸で翔の腕を挟み抱き付いた

翔「な、七乃!?」

七乃「私、翔さんの事好きになつちやつかも」

翔「あ、あはは・・・(笑)」

その後ろで

愛紗「・・・」

星「このままだと取られるぞ?」

愛紗「そのくらいわかってる・・・」

星「まあ、どう動くかお主しだいだな」

愛紗（翔殿）

## 第十八話 バスガイドとハチミツ少女（後書き）

作者「鬼畜だな翔」

翔「アンタがそうしたんだろ」

作者「まあいいじゃん」

翔「で、次回は？」

作者「次はついにクロノスの幹部が登場！」

翔「ちなみに何人くらい？」

作者「……まだ決まって無い」

翔「おい！」

作者「さて、夏にオーブの映画があるな

翔「そらした」

作者「予告見たけど、コブカワニ何かす」いじян

翔「実際、好きなのは？」

作者「ラトラーラーかブトティラかタジヤトルだな

翔「ガタキリバとシャウタは？」

作者「ガタキリバとシャウタはカッコいいけど、何か足りないって感じがするな」

翔「サゴーヴは?」

作者「出た回数が少ない」

翔「・・・遠回しに影薄いって書いてねえか?」

作者「いや、無いよ?」

翔「じゃあ、ダブルだつたら?」

作者「うーん、ファンジジョーカーがゴールドエクストリームがジヨーカーだな」

翔「いや、アクセルは?」

作者「トライアルは良いけど、アクセルブースターはねえ?」

翔「もう、呆れた・・・」

## 番外編2 電波少年と死神（前書き）

今回は「流星のロックマン 転生者の絆物語」の作者、松上様とコラボです！

翔「かなり時間かかったな」

作者「それだけ大変だったんだよ」

ボレアス「僕出でない・・・」

作者「いろいろあつたんだよ」

ではどうぞ

## 番外編2 電波少年と死神

とある世界・・・

諒はスバル達と出かけていたのだが…

諒「フォルテ、ジャミンガーミ蒂な反応があつた所つてこの辺?」

フォルテ「ああそつだが・・・」

しかし諒が来た所には何もなかつた

諒「やつぱり、勘違いかな?」

フォルテ「分からん」

しかしその時フォルテは何かを感じた

フォルテ「諒、何が来るぞ!」

諒達の前に現れたのは…

全身が黒服の男だつた…

? ? ? 「フツハハハハ!」

フォルテ「諒、急いで電波変換しろ!」

諒「ああ!」

諒はいつものように電波変換をしようとした

諒「電波変換！新井諒、オン・エア！」

しかし・・・

諒「電波変換が出来ない！」

フォルテ「何！？」

？？？「フッハハハハ！私の力で封じたのだよ」

フォルテ「くつ！！」

諒「どうしようフォルテ！？」

その時！

？？？「私は全ての世界を手に入れるためにやつてきた

諒「なんだつて！？」

？？？「そして貴様らは邪魔だ」

と言つと諒の回りの空間が歪み始めた

フォルテ「何か嫌な予感がする…」

諒「僕もだよフォルテ」

そして

？？？一消え失せろ！」

一瞬で諒はどこかに飛ばされた……

？？？—さて次はお前だ、黒宮翔！」

???はアーティストを脱いた

？？？「私は神なのさー！」

もうこのひと？？？は消えた。

# 青山セイラビ 近くの森

諒「痛てて… フォルテ… じビ…？」

「…分から無い」

諒「えつ！？」

フォルテ「しかも時代が違う」

諒「・・・えつ？」

諒は辺りを見たが木しか無かつた

諒「とりあえず、森を出てみよつよ」

フォルテ「分かつた」

諒達は森を出ることにした...

青山 接見の間

一刀「森に流星？」

愛紗「ええそうらしいです」

愛紗達はさつき商人から森に流星が落ちたことを聞いた

桃香「天の國の人かな？」

一刀「わかんないけど... つて翔は？」

愛紗「翔殿は魚を釣りに行きました」

一刀「・・・えつ？」

一方「・・・」

翔「うおっしゃあーー魚を釣るぜえーー！」

翔は釣りカエルで釣りをしていた

アル「翔、大丈夫か？」

ジン「釣れるのが分かるんだけど……」

アル「アイツどうするつもりだ？」

アル達は翔の心配をすると…

ザバーン！！

ガノトトス「ギヤアアアオン！！」

翔「来た大物！！」

アル「絶対違うだろ！」

翔は背中から天翔を…

翔「あれ、天翔どうしたっけ？」

ジン「自分で置いてきたじゃない」

翔「・・・そうだった」

翔がそんな心配してると…

ガノトトス「ギャアアアーー！」

翔達にブレスをぶつけた

アル「危ねえ！？」

翔「アル、諒からもらつた奴あるよな？」

アル「あー、あつたな」

アルは翔に鏡花水月を渡した

翔「よつしゃあああー！今日は刺身だ！」

アルビジン「・・・えつ？（はあ？）」「

翔はその後ガノトトスを捕まえて帰つてから活け作りにじよつじよつとした

青山 野原

諒「フォルテ、ニニビニッ！」

フォルテ「だから分からん

諒「誰かいないのか？」

諒が歩いていると・・・

愛紗「貴様何者だ?」

諒「僕は新井諒です、貴方は?」

愛紗「私か?私は関羽だ」

諒「関羽さん、黒宮翔つて人を知りませんか?」

てかこの子は自分がタイムワープした事に気づかないのか?..

愛紗「翔殿を知ってるのか?」

諒「はい、前に会ったことがあります」 フォルテ「おい諒、不審に思わないのか?」

諒「何が?」

フォルテ「俺たち、多分タイムワープしたんだぞ」

諒「・・・おお!スゲー!」

フォルテ「感動してる場合じゃねえだろ」

気づくの遅い!!

愛紗「諒殿、行きますよ」

諒「分かりました」

諒と愛紗は城に戻った…

青山 接見の間

諒「フォルテ、僕にかしたかな？」

フォルテ「…分からねえよ」

諒は美少女と美女達に囲まれてた…

桃香「ねえ、ご主人様の人の人も天の國の人だよね？」

一刀「ううんどうのかな？見たことない服だし」

その時！

ダン！

翔「今戻った」

愛紗「あつ翔殿！」  
「ギュ！」

愛紗は翔に抱きついた

翔「あ、愛紗！？」

愛紗「翔殿帰りが遅かつたじやないですか…」

翔「まあ良いじゃねえか」

そして…

諒「あつ翔さん久しぶりです」

翔「…諒」

諒「ぱつちり見てましたよ」

翔「…・・・忘れてくれ」

諒「多分です」

その後翔は諒に愛紗達を紹介した

翔「諒、何でお前ら来たんだ？」

諒「僕はいきなり飛ばされたんだ」

翔「はつ？」

その後・・・

翔「つまり、誰かが飛ばしたと？」

諒「そうー」

翔「…………」

翔は戸惑っていたが大体予測は出来てた

アル「多分クロノスだな」

翔「クロノスだな」

諒「クロノス?」

翔「ああ俺を消そうとしてる組織だ」

フォルテ「お前危険な敵と戦つてんだがな」

翔「まあ転生する前に原因は有るんだがな……」

諒「何やつてたんです?」

翔「裏世界（暗殺）の仕事だ」

諒「あはは・・・ヤバいじゃないですか!?」

アル「お前のパートナーのツツコミ遅いな（笑）」

フォルテ「笑い事かそれ?」

和やかに包まれていたその時!-

愛紗「翔殿!大変です!」

翔「どうした、またモンスターか?」

愛紗「い、いえー本足の赤い牛が暴れないと・・・」

翔「牛?」

諒（あつ、それオックスファイアだ）

フォルテ（アイツまずいぞ）

翔「じゃあその牛を捕まえて焼きますか、魚もいるし」

アル「そつだな」

諒（電波変換出来ないじビツヒョウ）

フォルテ（斬月と千本桜で良いでしょ）

諒（後、翔さんに氷輪丸を渡さないと）

諒は電波変換出来ないけど、とりあえず斬月と千本桜で戦つ事にした

輪（・・・オックスファイア生きてられるかな?）

フォルテ（死んでしまったからナラだな（笑））

翔「諒、何してる?行くぞ」

諒「翔さん待つて下さー」

諒は翔の後を追いかけだが…

青山 城の広場

諒「……翔さん、どうして行くんですか？」

翔「どうやってって、『トイツ』

翔が指差した先にはアルがいた

諒「嫌々、翔さん無理ですよ」

翔「まあ見とけ」

するとアルはモンスター形態に戻った…

諒「……」

フォルテ「……諒、現実だよな？」

諒「……うん」

翔「何やつてんだ？ 早く行くぞ」

諒は翔達に度肝を抜かれた…

愛紗「翔殿、また私を忘れた！」

まあ貴方じゃ無理でしょ

どつかの村

オックスファイアは暴れていた

しかし誰も傷つかないように暴れていた

オックス「フッハハハハ！赤い物は全部壊す！」

翔「おい、牛野郎」

オックス「誰が牛野郎だあ！？ああん！？」

翔「ケンカなめてんのか」「ラッ！」

諒「翔さんコイツを使って下さい」

諒は翔に氷輪丸を渡した

翔「・・・よし、鏡花水月と一緒に使つか

オックス「おい、ちょ待て！？」

翔「牛肉に捌いてやるぜ牛野郎！」

オックス「俺電波だから効かねえ……」

ズバッ！

翔「いけ、氷輪丸！」

翔は氷輪丸の力を使い氷の竜を作り襲わせた

諒「フォルテ、千本桜を！」

フォルテ「分かつた」

諒は千本桜を取ると

諒「舞い散れ千本桜……」

オックスファイアの回りに千本桜が咲き、全て刺さり、そして氷の竜が襲つた……

オックス「もう、勘弁してくれ」

翔「さつさとどつか消え失せろ」

そしてオックスファイアが消えた直後何かが現れた

？？？「まったく使えない」

翔「誰だ？」

諒「翔さんそいつファントムブラックです！」

翔「ファントムブラック？ふざけた名前だと…？」の私が…」

ファンタム「ふざけた名前だと…？」の私が…」

アル「いちいちうるせえな

アルはガトリングをかましたが…

ファンタム「フッハハハハ！私には当たらんよ」

アル「何！？」

ファンタム「私は幽霊みたいな者なのでな

アル「ちつ！」

翔「幽霊？ならこっちも幽霊いや、幻覚を作つてやるよー。」

翔は鏡花水月に力を込めると斬りかかったかが…

ファンタム「こんな子供騙しに…」

スバン！

しかし…

翔「諒今だ！…」

諒「〇〇です翔さん！…」

ファンタム「何！…？」

諒「たああああああつ！…」

ファンタム「ブリックは後ろから諒が攻撃する」とが分からなかつた  
そして…

ズバッ！

ファンタム「ぐうううううううう！…？」

翔「諒行くぞ！…」

しかし…

ファンタム「残念だが勝負はドローだ」

ボン！

翔「ちつ！…」

諒「翔さん」これは?「

翔「街の当主の権利と釣つてきた魚」ガノトトス

諒「魚じゃないですよね・・・」

翔「冷凍便で送るわ」

すると神様が現れた

神様「さて、ゲートを開くぞ」

ギュイーン・・・

翔「うめんな、あんまり観光出来なくて」

諒「いえ、観光出来ましたし楽しかったですよ」

翔「また来いよ～！」

諒「やよなら翔さん元氣で～！」

ガタン...

翔「さて、ジジイ土産をくれ」

神様「バカかお主は」

翔「あんた神様か?」

こうして、諒は翔の世界を満喫出来たのであった

諒達の世界

ピンポーン

店員「ちわ～宅配で～す」

諒「あっ、はい」

諒がもらつたダンボールの中には・・・

諒「これって・・・」

フォルテ「翔が使つてた武器一種だな」

天翔（太刀）と天空（籠手）と月影（脚籠）と何故かロケットラン  
チャード…

諒「ロケットランチャードで使い道あるかな？」

フォルテ「さあ…ん？あれば？」

諒「あつ、ウイスキーとテキーラとハイボールだ」

フォルテ「アイツも酒は飲むんだな」

そして…

諒へ…

魚は庭に届くからな（笑）  
ガノトトス

諒「…・・・・・」

諒はこの後、大変な目にあつたのであつた…

翔「あのジジイ（神様）何もくれなかつた！」

作者「お前はいつたい何を貰ひ『氣』？」

翔「なにつて、酒専用の冷蔵庫」

作者「・・・女だと思った」

翔「お前じやあるまいし」

作者「いや、お前だわ」

翔「最近リア充だからつてふざけんなよ」

力チャ

作者「お前だつて愛紗に抱きつかれたからつて図に乗るなよ」

力チャ

ジン「どうせやるなら、持つといひで殴り合えば良いじゃん

作者と翔「まづはお前だ！」

その後・・・

翔「さて作者、諒が奴は？」

作者「奴は鍵だ」

翔「今はそれだけか…」

次回はクロノス幹部戦！

オリキヤラ登場！

第十九話 三人目の転生者と再開（前書き）

遅れていますません

## 第十九話 三人目の転生者と再開

呉ルート

海砂 広間

雪蓮「で、何があつたのかしら？」

呉軍兵士「先ほど、魏から手紙が・・・」

冥林「雪蓮はどう思う？」

雪蓮「・・・分からぬわ」

勇「・・・曹操の考え方が違う」

勇達は悩んでた

それは、魏から来た手紙は呉に攻撃をするとの内容だったからだ・・・

雪蓮「どうこうこと？」

勇「多分あの後、魏に転生者が現れて天下統一に乗り出して、まず僕達を倒す気だよ」

冥林「その後、劉備のいる蜀か

勇達はこの後もしばらく考え続けた・・・

魏ルート

砂背 庶務室

華林「ふう…」

コンコン

華林「誰?」

???「俺だ、華林」

華林「入つて良いわよ」

ガチャ…

華林のいる庶務室に来たのは西田の色が違う男だった

華林「あら、統魔じやないビツしたの?」

統魔「いや、眞に攻めるのは俺とシャルダだけで行けると思つが」

華林「多分、黒宮もやつてへると予測してゐるからね」

統魔「……さすが霸王」

そこへ……

春蘭「華林様、戦闘部隊についてですが……」

頭の悪い春蘭がやつてきた  
ちなみに眼帯済み

華林「あら春蘭、前にもいつたはずよ」「俺を前面に出すんだろ?」  
・・・よく分かつたわね」

統魔「まあ、人使いの荒い華林の事だし」

春蘭「九条、お前華林様になんて無礼を!-?」

華林「春蘭落ち着きなさい」

秋蘭「そうだぞ姉者」

更にやつて來たのは、バカで眼帯を着けてる春蘭の妹、秋蘭だ  
秋蘭の方が姉だと思うが……

秋蘭「我らは、九条がいるからある程度行けたんだぞ」

統魔「俺はある程度扱いか」

シャルダ「でも俺達がいなかつたら雑魚だつたじやん

そして来たのはシャルダだった

九条統魔  
クジョウトウマ

モデル ガンダム00（セカンドシーザン）のアレルヤ

武器 二双流のツインセイバー（ビームサーベル）

ちなみにこれは二つのビームサーベルを一つにして真ん中に取つ手が来て、上と下の所にビームが出てくる仕組みである

彼は沢山の人を殺害し、警察に追われる所に謎の光が彼を包み気がついたらこの世界に来て華林達の仲間に…

彼は殺害も有るが前科があり、いろいろとやっているがそれはまたどこかで…

翔とライバルであり親友であり戦友である（暗殺関係）

別名、鬼神  
オニガミ

シャルダ

統魔のパートナー

武器 一双流のツインセイバー

モンスター クシャルダオラ

人間形態 ガンダム00のリボンズ

統魔に従順であり、人間の状態でも強い

春蘭「シャルダ、貴様！」

シャキン…

春蘭はどつからか剣を取りだしシャルダ（人間形態）に襲いかかつたが…

シャルダ「俺に勝てると思つ？」

シャルダはビームサーベル一つで春蘭の剣を止めた

蜀ルート

青山 会議室

翔「…」

アル「…」

ジン「・・・」

ボレアス「・・・」

四人はにらみあつていた

そして…

ボレアス「スリーカード」

ジン「スリーカード」

アル「ツーペア」

翔「フルハウス」

アル「またお前かよ」

ジン「翔、強すぎ」

ボレアス「仕方ないじゃん、はい酒代」

翔「お前らもボレアスみたいに潔くしやがれ」

アル「ハイハイ…」

ドン！

愛紗「しそうどーの」

そこには青龍刀を持つた笑顔の愛紗がいたが

翔「愛紗、仕事はしたからな」

愛紗「警備は？」

翔「後、十勝したら行く」

愛紗「殴りますよ」

愛紗の後ろに般若がいた事に翔は気づいていた…

その時！

蜀軍兵士「申し上げます黒宮將軍…」

翔「何があつた？」

蜀軍兵士「ぐ、クロノス軍が攻めて来ました…」

翔「なに…？」

アル「ポーカーしてる場合じゃねえな」

ジン「急がないと…」

翔達は急いで準備してた…

呉ルート 海砂 廃墟の砦

勇「・・・」

勇はハンドガンを手に、雪蓮達とともにクロノスを探してた...

勇「どうだレウス？」

レウス「・・・ダメだ、いない」

雪蓮「でもいたらしいわよ」

冥林「戻るとするか」

勇「そうだね」

その時！

？？？「勇、久しぶり！」

そこにいたのは紫色の髪の少女と...

？？？「水谷久しぶりだな」

？？？「久しぶり！」

顔に傷がある男と茶色の髪の男だつた…

勇「真実…？それに友光、竜馬、何でいるの…？」

青空真実

姿 ガンダム00のアーユー

武器 十文字槍

紅月友光

姿 ガンダム00のラッセ

武器 ガンランス

アカツキリョウマ  
暁竜馬

姿 ガンダム00のロックオン

武器 ライトボウガン

真実「それはもちろん…」

真実はそういうと勇に十文字槍を突きつけた…

真実「勇を元の世界に戻すためだよ」勇「真実…どうして…？」  
そして…

友光「勇、動けば彼女が死ぬぞ」

雪蓮「勇！」

竜馬「そだぜ水谷、言つ」とを聞きな

「冥林「水谷逃げる！」

勇「くつ！」

勇（どうすれば良いんだ！）

勇は雪蓮と冥林を人質に取られ迷っていたが…

レウス「俺達を忘れるなあああ！」

上からレウスがブレスを真実達に放つた！

ズガーン！

真実「くつ！」

竜馬「青空、どうするー？」

真実「勇ちゃんをお持ち帰り、じゃなくて連れて帰るまではー」

友光「相変わらずお前の勇に対する執着心は深いな…」

真実「毎日ストーカーしてたし！」

竜馬「犯罪者予備軍じゃねえか！？」

勇を毎日ストーカーしてゐる眞実はもはや変人に近い…

魏ルート

砂背 近くの村

統魔「何があつた?」

凪「隊長!」

そこにいたのは親衛隊の凪、紗和、真桜だった

紗和「この村が襲撃を受けたなの」

真桜「でも襲撃した奴が見つからないんや」

統魔「とりあえず救出が先だ、急げ!」

その時!

????「させないよ統魔!」

？？？「させないよー！」

そこに現れたのは…茶髪の子とピンクの髪の少女達だった…

統魔「絢、波なんでお前らが？」

藤林絢

藤林絢

姿 ガンダム00のフェルト

武器 体術

藤林波

姿 ガンダム00のクリス

武器 ツインガンブレード

絢「なんでって言われてもねえ…」

波「うーん…統魔が好きだから？」

統魔「何で疑問だよ？」

真桜「それより統魔、早よした方がええぢやう？」

沙和「そつなのー！」

波「お子さま達は黙つてた方が良いと思つよ」

凪「キサマ、覚悟は出来てるだろ?」

凪は波に殴りかかったが…

ガキン!

凪「なに!?

波「単純過ぎるんだよ

波が凪を斬りかかったが…

ダーン!!

統魔「つたく、世話のかかる部下がいる上司は大変だな!」

全員「統魔!」「隊長!」

蜀ルート

青山 近くの村

翔「ここだな」

愛紗「ええ、そうです」

翔は近くの村に来ていたが、

翔「……なあ愛紗、血の匂いがしないか？」

愛紗「……確かにしますね」

彼らが回りを警戒してると、

ガキン！

翔「……何者だ！！」

？？？「久しぶりだね黒宮」

そこにいたのは、

翔「桜夜！？」

桜夜「久しぶりだね、黒宮」

翔「何でお前が？」

桜夜「もちろん、翔を片付けるためだよ」

翔「なんだと！？」

そして…

翔「夏菜？元？」

彼の前に現れたのは昔、いなくなつた幼なじみの夏菜と元だつた：

戸田夏菜  
トダナツナ

姿 ロザリオとバンパイアの萌香

武器 トマホーク

白井元  
シロイチヤン

姿 トーンのラタースクの騎士のエミル

武器 マグナム（リボルバー）

黄戸桜夜  
キエサクヤ

姿 トーンのユーリ

武器 サーベル

翔「なあ、なんか言えよ」

翔が夏菜？に言つたその時！

夏菜「…………」

ブウン！！

翔「止める夏菜！俺がわからないのか！？」

夏菜は翔にトマホークを振り回して襲ってきた！

翔「どういう事だ！？」

桜夜「操り人形だよ」

翔「何だと！？」

そして……

愛紗「翔殿！！」

翔「愛紗！？」

力チヤ：

桜夜「黒宮、それ以上動けば彼女が死ぬよ？」

桜夜は元のマグナムを愛紗の頭に突きつけた……

翔「……何が目的だ？」

桜夜「黒宮を消すことに決まってるじゃない」



## 第十九話 三人目の転生者と再開（後書き）

翔「・・・作者」

紅夜「なんだ翔？」

翔「遅れた理由」

紅夜「環姉とつむぎ先輩にはまつて遅くなつた（笑）」

翔「天誅！」

ゴキッ！？

## 第一十話 再開 吳ルート（前書き）

今回は二ルートありますなので後書きは最後に書きます  
ではじめや

## 第一十話 再開 吳ルート

勇「レウス、どうやってこの場所が？」

勇は雪蓮の縄をナイフで切りながらレウスに聞いた

レウス「シンクロを使えば分かるんだよ」

レウス（人間状態）は冥林の縄を咬みちぎりながら答えた

勇「ずいぶん、器用なんだな」

ブチッ！

雪蓮「やつと戦えるわ」

雪蓮は南海霸王を鞘から抜き構えた

勇「レウスは雪蓮と冥林のガードを…」

レウス「お前は？」

レウスはツインハンドガンを構えながら、聞いた

勇「僕はもちろん戦うよー！」

すると勇はティエンドライバーを構えて…

勇「変身！」

カメンライド！

「ディエンド！」

勇は仮面ライダー「ディエンド」に変身した

真実「……勇ちゃん」

勇「これが僕の答えだ……」

真実「……わかった、竜馬君、友光君」

竜馬「良いのか？」

真実「うん……」

友光「やるぞ竜馬」

真実はドレイクゼクターを呼び出し、竜馬はバースドライバー、友光はオーブドライバーを腰にセットし

三人「変身！」

「ヘンシン！」

「タカラバッタ！タ・ト・バ、タ・ト・バ、タ・ト・バ！」

「カボーン！」

真実はドレイクゼクターのしつぽを引っ張ると装甲に隙間ができた

真実「キャストオフ！」

キャストオフ

ズカーン！

チエンジ・ドレイク！

真実「勇ちゃん、『めんね』

すると勇は一枚のカードを取り出した

勇「友光と竜馬を頼むよー！」

カメンライド！

ゼロノス！

デルタ！

仮面ライダーゼロノスと仮面ライダーデルタを呼び出し、勇は真実と戦うこととした

勇「さて真実、やるしかないのか？」

真実「やるしかないんだよ」

しばらく一人は動かなかった…

勇と真実（さて、勇（真実）はどう動く？）

先に動いたのは勇だった

勇「確実に当てる！」

アタックライド！  
プラス！

ダダダダダ！

しかし・・・

真実「当たると思ってるの？」

クロックアップ！

真実はクロックアップをし、勇の前から消えた

勇「どこに消えた！？」

すると・・・

プテラ！  
トリケラ！  
ティラノ！  
プロティラノザウルス！

友光はタトバからプロティラノにコンボチェンジした！

友光「来い！メダガブリュー！」

友光が地面に手を突っ込むとメダガブリューが出てきた

クレーンアーム！

ドリルアーム！

ショベルアーム！

キャタピラレッグ！

カッターウィング！

ブレーストキャノン！

竜馬はバース・ディに変わった

勇「これはヤバいかも…」

さすがの勇も少し焦つていた

雪蓮「勇！後ろ！！」

勇「しまった！？」

勇は雪蓮からアドバイスをもらつたが…

ブ・ト・ティラノひつさ～つ！

友光はメダガブリューをバズーカモードに変形させた  
セルバースト！

竜馬はブレーストキャノンを勇に合わせた

そして・・・

真実「勇ちゃん、『めんね』

ライダーシューティング！

真実「さよなら・・・」

三人の砲撃が勇を直撃した！

雪蓮「勇！」

勇はさつきの砲撃で変身解除され、倒れた

勇「雪...蓮...逃げ...て...」

雪蓮「よくも勇を！」

しかし・・・

真実「勇ちゃんに伝えてくれる？「またかかって来い」って

すると三人は消えた...

雪蓮「冥林！早く勇を！」

冥林「ああ、わかってる」

勇は薄れてく意識の中についた...

勇「戦わなきやいけないのかな…」

セイジ 勇の意識は消えた…

## 第一十話 再開 魏ルート

統魔「さて、絢、波、お前らのボスに言つとけ、俺がぶちのめす、  
と」

波「なにを言つてゐるの統魔？」

統魔「あん？だからお前らと戦つんだよ」

統魔は腰にロストドライバーを装着するとメモリを取り出し・・・

エターナル！

統魔「変身！」

統魔はかつて風都を地獄に陥れた仮面ライダー エターナルになった

統魔「さあ、地獄を楽しみな！」

波「どうする絢？」

絢「決まつてゐるじゃない」

波はイクサベルトを装着し、イクサンナックルを取り出し、絢はカリスラウザーを装着し、ハートのエースを手にし、

絢と波「変身！」

チエンジ！

フィ・ス・ト・オ・ン

波は名護さんが変身した仮面ライダーイクサ（バーストモード）に変身し、絢はハートの仮面ライダーカリスに変身した

波「じゃあ、統魔を無理やり連れて帰るから」

波はイクサカリバー（ガンモード）を統魔に撃つたが…

統魔「銃には銃だ！！」

トリガー！

トリガーメモリをエターナルエッジに差し込み、白いトリガーマグナム エターマグナムに変換させ対応した

ダダダダ！

統魔「波、いい加減諦めろよ…」

すると…

トルネード！

ギュオーン！

統魔「くつー絢か！」

絢「統魔も二人じゃ無理でしょ？」

その時！

凪 「モウゴエンシユウ 猛虎炎襲！」

凪が上から蹴り技を繰り出した

真桜「くらえや！」

右から真桜がドリルを繰り出し

沙和「おりやあなの！」

左から沙和が剣技を繰り出した

絢「やんねんだね」

リフレクト！

絢の回りにバリアを発生させた

統魔「凪！沙和！真桜！」

統魔は三人を心配したが…

波「どこ向いてるの？」

バツ・シャー・マ・グ・ナ・ム

波はバツシャーマグナムとイクサカリバー（ソードモード）で統魔

に近づき切り裂き、ゼロ距離で撃つた

「ゴーン！」

「ぐはっ！？」

「統魔は吹っ飛ばされた…」

「まだだ…」

「しかし…」

「波「統魔、ごめんね」

イ・ク・サ・カ・リ・バ・ー・ラ・イ・ズ・アッ・ブ

「波は統魔にとどめを刺そうとしたが…」

「？？？「統魔！」

「ズサッ！」

「？？？「うつ…」

「統魔「て、天和？」

「天和「あはは…、統魔が無事なら…」」

「統魔「クソ！なんで庇つたんだよ！？」

リカバリー！

統魔は天和にリカバリーメモリを傷口に刺し回復させた

波「ああ～あなんでもうまくいかないのかな？」

その時、統魔の中で何かがキレた…

統魔「波、お前でも許せねえ事だつてあるんだよ」

統魔は様々なメモリを挿した

ブースター！

ヒート！

ユニコーン！

バンパイア！

エターナルの背中にブースターが付き、バンパイアの能力で身体能力を上げユニコーンとヒートでさらに威力を上げた

波「と、統魔？」

統魔「覚悟・・・」

エターナル！マキシマムドライブ！

その時、エターナルの体が青い炎に包まれた！

統魔「はああああ！」

波「なら、こっちだつて！」

波が反撃をしようとしたが…

統魔「バーニングベルベット！」

エターナルがブースターで高く飛び、ライダー・キックをした…

ドゴーン！

波「と、統魔、マジ過ぎだよ」

統魔「…………」

バタツ…

全員「えつ？」

統魔はメモリの力を使いすぎて倒れた…

そして…

華林「あなた達、助けに来了よ！」

凪と沙和と真桜「華林様！」

秋蘭「凪達は、天和と統魔を連れて退却しろー。」

凪と真桜と沙和「御意ー。」

凪達は統魔と天和を連れて退却したが…

華林「さて、あなた達が統魔を連れて帰る事で何をするつもり?」

絢「あら、ツルペタチビドリルには関係無いね」

華林「…………」

波「そういうこと(笑)」

すると二人はどこかに逃げた…

華林「…私は無いわけじゃない!」

## 第一十話 再開 蜀ルート

翔「俺を消す」と?「

桜夜「それが俺の任務だから」

翔「・・・まさか!?」

桜夜「そう、俺たちはクロノスなんだよ」

翔「じゃあ、中学の時誘拐した奴らって!?」

桜夜「あれば赤義の計画だ」

翔「赤義? 赤義姫か!?」

桜夜「あつ、知ってるんだ」

翔「バカかお前? あんなに有名なお嬢様ならいやでも分かる

翔は中学の時、赤義と同じクラスだったのだ

翔「しかしながらアイツが?」

桜夜「翔に恨みがあるみたいだよ」

そして・・・

? ? ? 「あつ! 翔ちゃん!」

そこにいたのは黄色い髪の少女だった

翔「あ、和<sup>アマネ</sup> なんでお前が！？」

和「だつてえ、翔ちゃんがいなきや死んじやつ」

翔「……」

和「それに私は翔ちゃんの彼女だから」

青原和<sup>アオハラアマネ</sup>

姿 ガンダムSEED DESTINYのステラ

武器 アームキャノン

翔の元彼女

翔とは両思いで学校では有名なカップルだったが……

桜夜「さて、感動の再会はこの辺で」

愛紗「翔殿！しつかりして下さー！」

翔（くそ、夏菜や元達もだがまさか和までいるなんて！）

翔は思つよつに動けなく焦つていた

翔<sup>いったいじゅすね</sup>

すると…

和「ねえ、翔ちゃん」

翔「なんだよ」

和「私と元の世界に帰らない？」

その場にいた奴ら全員驚いた

桜夜「待て、青原！目的が違うんちゃうか！？」

和「あんな女の目的なんて知らないよ…」

桜夜「…まあそれはええか…」

すると翔は鼻で和達を笑った

翔「俺はこの世界に残る」

和「えつ？」

翔は天翔を鞘から抜き和に斬りかかって來た

ガキン！

和はアームキヤノンで天翔の斬撃を止めた

和「翔ちゃん、帰りたくないの？」

翔「確かに帰りたいけど、やらなきゃいけない事があるからな！」

すると翔はダブルドライバーを腰に装着し、メモリを取り出した

ヒート！

メタル！

翔「変身！」

翔は仮面ライダーダブルHMに変身した

和「・・・分かつた翔ちゃんがそいつになら仕方ない」

アクセル！

和「変・・・身！」

和はもう一人の風都の仮面ライダーアクセルに変身した

和「わあ、振りきるよー！」

ブォンブォーン！

翔「来いよ！」

和「はつ！」

ガキーン！

翔のメタルシャフトと和のエンジンブレードがぶつかりあった！

翔「なかなかやるな」

和「翔ちゃんも…」

しかし・・・

桜夜「俺、忘れて無いか？」

愛紗「私もです」

桜夜「ええ」とアンタも翔に無視られてんのか？」

愛紗「あなたもですか？」

敵同士なのに忘れられてる二人

愛紗「私一応ヒロインですよ！？」

ヒロインなのに出番が少ない愛紗

翔「くそ、メモリを変えるか」

すると翔はメモリを変えた

ルナ！

メタル！

翔はH MからL Mに変わった  
ヒートメタル ルナメタル

翔「はつー。」

パキン！

翔は和に攻撃したつもりなのだが・・・

翔「えつ？」

翔は間違つて和を拘束してしまつた

和「やつぱり、翔ちゃんはあんな馬のしつぽみたいな髪の女より私  
だよね？」

翔「待て、何故そつなるー。」

翔が必死に弁解する中・・・

愛紗「もひ、我慢の限界です・・・」

すると愛紗は青竜刀を持って翔と和を殺そうとしたー。

愛紗「仲良く逝つてきてくれー。」

翔「文字違つしー。とか、まとめて殺すつもりー。」

和「翔ちやん、仲良く逝い」

翔「死にたくねえー。」

翔は間一髪の所で避けた

和「よつと」

すると和は翔に投げキスをし、言った

和「またね翔ちゃん！」

和達はどこかに消えた…

この後翔は愛紗に半殺しされた

## 第一十話 再開 蜀ルート（後書き）

翔「今日は疲れた」

作者「俺も」

翔「さて、次回は・・・作者?」

勇「逃げたね」

翔「・・・」

勇「翔もどこかに行ってしまったので代わりに僕がやります」

転生者三人の前に現れた友人達

彼らは戦わなきゃいけないのか?

次回もお楽しみに

第一十一話 黒面鏡の憂鬱？（前書き）

遅れてしまません

## 第一十一話 黒宮翔の憂鬱？

青山 中庭

翔「はあ…」

翔は中庭の池の魚を見て思つた

翔（魚・・・いやシーフードが食いたい）

翔が考へてると…

愛紗「翔殿」

愛紗がやつて來た

翔「ん？ああ愛紗がどうした？」

愛紗「いえ、何も無いですがなんとなくです、翔殿は？」

翔「俺？俺は考え事」

愛紗（やつぱり、この前の友人の事でしょうか…）

翔（愛紗なんかにシーフード食いたいって言つたら怒られそうだな）

なぜか、考へてる方向がいつも逆になる一人

するとそこには…

ジン「翔~！」

璃々「翔お兄ちゃん~! 愛紗ちゃん~!」

ジンの背中に乗った璃々がやって来た

ジン「よつヒ」

璃々「愛紗さん、あそぼ~」

璃々と愛紗が去った所でジンが話を切り出した

ジン「翔、東の方で赤い化け蟹が出たそつだ」

翔「化け蟹? · · · ダイミョウか」

そして翔は気づいた

翔(ダイミョウ=蟹=シーフードーつまり食えるー)

何を思ったか翔はダイミョウを狩るひつと黙つた

ジン「で、翔ビーツ狩るん~! · · · はあ?」

翔「ダイミョウ狩りに行くべ~!」

ジン「···珍しく行く気だね」

とこう訳で一狩りに行こうとしたが···

愛紗「私も行きます」

翔「なんで?」

愛紗「翔殿が心配だからです」

なぜか愛紗も行きたいこと言つたのだけ今は仕方なくオーケーを出した

青山 城内 本屋

朱里「雛里ちゃん一八百一の本見つかって良かつたね」

雛里「そうだね朱里ちゃん!」

朱里と雛里は八百一の本を買つていたが…

翔「いやあ、諸葛亮と法統がこんな本を買つてるなんて知らなかつたな~」

朱里と雛里「えつー?」

朱里と雛里が後ろを振り返つてみると…

翔「(;) れは没収しようか」

翔は朱里と雛里が買つた八百一の本を奪つた  
しかもジャンプしても届かない高さに…

朱里「か、返して下やー!」

雛里「あわわわわ！」

しかし…

ボコッ！

翔「痛つ！？」

愛紗「翔殿、悪ふざけは止めてください」

愛紗が翔を殴り、本を取ったのだが…

愛紗「…朱里、雛里」

朱里と雛里「…はい」

愛紗「バレずに買いなさい」

この後、朱里と雛里は無事に帰れたらしげが…

カシナリ  
神成 近くの森

翔「この森か？」

アル「聞いた話だけだな」

ジン「本当にいるの?」

ボレアス「たまには僕を「はい、削除」作者さん酷いよ!…」

すると愛紗が

愛紗「翔殿、あれって…」

愛紗が指を指した先には

翔「ん? ああ、ブロスの頭だな」

アル「翔、今なんて言つた?」

翔「だから、ブロスの頭だなって…  
その時、翔とアルとジンは気づいた

三人「あれは、ダイミョウだな…」

そして…

翔「アル! クロスチェンジだ!」

アル「了解」

翔はクロスアルティメットになつたが…

アル(勝てるのか?)

翔（勝たなきや飯が食えない！）

アル（・・・・・・呆れた）

翔は接近をダイミョウにかけたが…

ガキン！

ダイミョウ「ギュオー！…」

プシュー！

ダイミョウが翔に向かつて水ブレスを放つた！

翔「しまつた！？」

ドゴーン！

アル（クソ、砂が…）

翔「翔はあんちくせこな…」

アル（ああ、しかしじんじゃ無理だろ）

翔（じやあ僕つ子か？）

アル（するしか無いだろ）

翔は解除するとボレヤスを呼び出した

ボレアス「翔、行くよー。」

翔「ちやちやと決めるー。」

翔とボレアス「クロスチューンジーー。」

そして・・・

翔とボレアス「クロスボレアスー。」

クロスボレアス

翔がミラボレヤスの力を借りた形態

背中の翼で空を飛び、二丁拳銃で戦う

翔「ボレアス、行くぞー！」

ボレアス「了解！」

翔は大空に飛び、ダイミョウの上から撃ちまくったー！

ダダダダダ！

ダイミョウ「ギュオーンー。」

アル「オラオラオラアーーー。」

アル（人間形態）はガトリングを撃ちまくった

ジン「サンダーシュート！」

ジンは頭の角から雷を放った！

翔「ボレアス！決めるぞ！」

ボレアス（オーケー！）

翔はダイミョウに向かって急降下しつづけた。

翔「当たれえええ！」

ダダダダダ！

そして・・・

翔「必殺！」

ボレアス「バスター！」

翔とボレヤス「キィイイイック！」

右足にスピードを駆け突つ込んだ！

ダイミョウ「ギュオーンー？」

ズガーンー！！

翔「よつしゃあああ！」

青山 調理部屋

愛紗「翔殿、一体何を作ってるんですか？」

翔「ん？ ハビチリだけど」

愛紗「・・・？」

数分後・・・

桃香「翔さんが作ったんですか！？」

翔「そうだが

鈴々「おいしいのだ！」

愛紗「おいしいです」

しかし・・・

一刀「なんで俺には飯が無いんだ？」

翔「はつ？ 種馬に飯は無い！」

そして翔は大盛りの白飯に真ん中に割り箸を挿したのを出した

一刀「・・・翔」

翔「まだ飯は残ってるからな」

この後一刀は翔に土下座して飯をもらつたが、種馬の名は認めるしか無かつた

## 第一十一話 呉の逆襲

砂背 中庭

統魔「・・・」

統魔は空を眺めてた・・・

天和「統魔」・！」

統魔「天和か」

天和が統魔の近くに寄ると・・・

統魔「何の用だ？」

天和「なんも無いよ、統魔は？」

統魔「俺か？俺は・・・」

統魔はしばらく考えて言った・・・

統魔「空を見てた・・・」

統魔（何か嫌な予感がする・・・）

青山 庶務室

翔（なんだこの感じは…）

翔は何か不思議な感じを感じてた

翔「何が起きるんだ…？」

海砂 会議室

勇「今田？」

雪蓮「母さんの墓参りに行かない？」

勇は雪蓮に誘われていたが…

勇（何も無かつたよね…）

とつあえず、勇は雪蓮と一緒に墓参りに行くことにした…

砂背 会議室

統魔「呉を攻めこむ?」

華林「そうよ」

統魔は華林から作戦の説明を聞いていたが…

統魔（・・・なんだ、この感覺は?）

統魔はさつきもあつた謎の感覺にまた襲われた…

統魔（うつー頭が…）

統魔「すまん、少し休んでくる」

華林「統魔！」

桂花「あんた、作戦は!?」

統魔は無視して中庭に行つた

中庭

統魔（マズイ、クラクラしてきた…）

その時

？？？（戦え・・・）

統魔の頭の中に直接何かが流れてきた

統魔（お前は何者だ！）？？？（私が何者かを知つてビリする？）

統魔

？？？（黒富と戦えるだ？）

統魔（ホントか！？）

統魔はライバル、翔と戦えると分かると謎の声を信じ、奥に向かった

？？？

姫「ふう…」

大地「どうした、赤義?」

姫「私たち以外に何者かがこの世界にいる気がするんだよ」

大地「黒富達じゃなくて?」

姫「ええ…」

姫は翔達以外の存在を感じていた…

南樹ナンキ

冥林「よく來たな」

華林「あなた達の大將は?」

冥林「もうすぐ来る」

華林「あら、ずいぶんのんびりなのね」

海砂 墓場

雪蓮「いじよ

雪蓮は回りは林だらけの所に墓石が一つ建てられていた

勇「いじよ…」

そこにあつたのは…

雪蓮「私の母、孫堅が眠つてゐる墓よ

勇「…」

雪蓮「私、いつか母上のよつての國を守りたい」

雪蓮は空を見ながら呟いた…

勇「…雪蓮なり出来るよ

雪蓮「勇…」

その時

ガザツ

林の中から三人ぐらゐ』を構えた兵士が現れ雪蓮に向かつて放つた！

勇（マズイ！）

勇は急いで雪蓮を押し・・・

グサツ！！

勇「うつ！！」

勇は心臓や肺に刺さつては無いものの、右肩に刺さつてしまつた

雪蓮「勇！！」

雪蓮は勇に急いで近づいたが・・・

勇「雪蓮！明命達を！」

このあと、勇は雪蓮を暗殺しよつとした兵士を捕まえたが・・・

勇「ぐつ！？」

勇に刺さつた矢は毒矢だつたため、簡単には治らなかつた

雪蓮「勇！大丈夫！？」

勇「大丈夫だよ・・・」の・・・くらい

勇は立ち上がりしたが…

勇「ぐつー…?」

亞莎「まだ動かさないで下をこ勇さまーー。」

勇「でも…・・・」

セリヒ…

翔「勇、お前は休んでる」

勇「翔!」

やつてきたのは翔だった

翔「レウスから話は聞いた」

勇「うめん、翔」

翔「左じや撃てないから仕方ないだろ」

雪蓮（よくも勇を傷つけてくれたわね曹操）

雪蓮は大口叩いてる華林にキレた

そして、呉の逆襲が始まる…

第一二三話 死神と鬼神（前書き）

どうにか更新できた…

## 第一二三話 死神と鬼神

南樹

雪蓮「ずいぶん機嫌が良いね、曹操」

華林「あら、遅刻してきた人の言つやつつかしり?..」

雪蓮（まあ、良いわ…その余裕な顔をすぐに真つ青にしてあげる）

雪蓮はそんな事を考えながら華林に伝えた

雪蓮「あなたの兵士がずいぶん私の領内でよく暴れたからね…」

すると華林は・・・

華林「・・・なにを言つてゐるあなたは?..」

雪蓮「まあいいわ、奴らを!!」

すると思春が捕まえた兵士を連れてきた

華林「!?」

雪蓮「・・・」

ザシユ!..

雪蓮は無言で兵士の首を斬り、華林に・・・いや全ての兵士に聞こえるよつと叫んだ

雪蓮「聞け県の兵士達よ・・・」トイシヒナ私を暗殺しようとした、しかしみんなも知ってる勇が私を庇つたが、彼は今、毒矢の影響で瀕死の状態である、我らの県の民を傷つけ私を暗殺しようとした奴らに我ら県の怒りをぶつけよ・・・」

華林「誰だ！孫策を暗殺しようとしたのは・・・」

桂花「か、華林さま」

風「ぐ、どうします？」

華林「今すぐ撤退よ・・・」

桂花「しかし華林さま、今が攻め時では・・・？」

華林「じゃあ、あなたは私に汚れた戦をじりと叫びつのー？」

華林は苛立つていた・・・まさかこんなことは誰も想つていなかつた

一方…

翔「…來たか」

統魔「久しぶりだな、黒宮」

今、死神と鬼神が再開し戦いの火蓋が切られた

翔「何年ぶりだ、会つたのは?」

翔は天翔を構えながら、統魔に聞くと…

統魔「さあな?」

統魔もツインセイバーを構えながら答えた

ヒュー…

蓮華「黒宮はなぜ動かないの!?」

蓮華は長い髪を風に揺らがせながら、思春に聞いた

思春「動かないじゃないです蓮華様」

蓮華「じゃあ何なの?」

祭「お互い、様子を見てるのじゃ」

三人は翔と統魔の戦いを見てた…

そして…

翔「行くぞーー!」

先に動いたのは翔だつた

翔は統魔に近づき、斬りかかつた!

統魔「俺に剣の雨を!」

すると統魔は翔の攻撃を回避しながら出来たスキに斬つた

統魔「アマツルギ  
雨劍」

翔は避けきれず、脇腹を切られたが…

翔「今のは効いたぜ」

統魔「見切つたお前もなかなかだな」

翔「そりやどうもーー!」

翔はジャンプし、空中から統魔に斬りかかった！

翔 「テンクワハサン 天空刃斬！」

統魔は避けきれず、かなり斬られたが…

統魔 「こんな傷…！」

リカバリー！

統魔はリカバリーメモリを傷口に刺した

翔 「なるほど、だが治るには時間がかかるはずだ…！」

しかし…

ガキン！！

翔 「なに…？」

統魔 「あんなあ、俺は二刀流のツインセイバー使いなんだよ…！」

統魔はツインセイバーを両手に持ち振り回した

統魔 「行くぜえ…！」

統魔は翔の攻撃をふさぎながら、反撃した

翔 (マズイ、このままだと…！?)

翔が考えをしてる間に天翔が飛ばされた！

統魔「終わりだあ！！」

しかし・・・

翔「ブラッド・デイ！！」

翔は天空と月影を使うかけ技、ブラッド・デイで防いだ

統魔「甘いな」

統魔は攻撃を仕掛けようとしたが...

翔「ジエットマグナム！」

統魔「しまつ...」

翔「マグナム！」

翔は構えて、パンチを繰り出すとわずかに遅れて相手に衝撃を放つ  
技、ジエットマグナムを統魔の傷口に放った

統魔「ぐはっ！？」

しかし・・・

翔「がはっ！？」

統魔「おれが簡単にやられると思ったか？」

翔「少し思つてたがな…」

翔の体には大量のナイフが刺さっていた

翔「勝負は預けないか？・・・」

統魔「良いぜ…」

こつして翔と統魔の戦いは終わつた…

魏軍の本陣

天和（ああ～もう！早く帰つて来てよ統魔！）

天和は統魔が無事か心配してたが…

地和「大丈夫だつて姉さん、統魔は帰つて来るつて

お氣楽そうに三姉妹の二女、地和は答えたが…

天和「簡単に答えないとよ」

すると…

ガサツ

誰かが入ってきた

蓮和「はあ…はあ…」

入ってきたのは三姉妹の三女、人和だつたが…

天和「どうしたの?」

人和「はあ…はあ…聞いて姉さん、統魔が…」

天和「えつ…」

天和はそれを聞いて統魔の所に向かつた…

翔「ああーー！痛い痛い！もう少し優しく出来ないの？」

冥林「あんなに刺さつてるなら」のぐらに痛くないだろ？」

翔「いや、痛いから！？」

翔は冥林に治療を頼んでたが…

翔（自分でやれば良かった）

かなり後悔してた

翔「じゃあ俺は戻るな

勇「助かつたよ翔」

雪蓮「劉備によろしくね

冥林「しつかり治せよ

翔は見送られながら蜀に帰つたが…

和「翔ちゃんみつーけ」

和が遠くから見てたことに気づいていなかつたが・・・

和「さて、追いかけよお〜」

ディアブロッサに和は乗り翔のあとを追跡した

## 第一二三話 死神と鬼神（後書き）

翔「どうも、ナイフが刺さつても死なない翔です」

勇「じゃあ次は頭を銃で撃ち抜こうかと考えてる勇です！」

翔「ちよつと待て！俺を殺す気が！？」

勇「えー、カンペにそう書いてあるから（棒読み）」

翔「つたぐ、作者は？」

勇「えつーと・・・」

作者「どうも皆さん作者の紅夜です、今回は星空へ架かる橋を全話見ていて、魔法少女まどか マギカのマリセさんとほむらを口説いてお出かけしますのでいません」

勇「・・・つて言つてたけど・・・」

翔「・・・」

第一十四話「翔と和」（前書き）

連続更新を頑張ります

## 第一十四話「翔と和」

海砂 練習場

勇はマートを見つめていた。.

勇（ターゲットを撃ち抜く！）

勇は三十メートル先のマートを弓矢で狙い撃つた

スパン！  
ガツ！

当たったと思ったが・・・

勇「やつぱり外れるよね」

ど真ん中ではなく、五センチ右にはずれた所に当たった

祭「わう、コシは良」と思つが

勇「あれじゃダメなんだよ、確実に撃ち抜かないと」

亞莎「そつなんですか？」

勇「そういうものなんだよ」

すると・・・

穂「旦那様～」

穂がやつて來た

穂「雪蓮様が呼んでましたよ」

勇「ホント?」

勇は雪蓮の元に向かつた

砂背 会議室

魏は、とても重苦しい雰囲気に包まれていた…

統魔（わい、華林はどう動くかな?）

稟「華林様、今回の件はどうます?」

華林「どうするも何も謝罪の文を送るに決まってるじゃない

桂花「なら九条にやらせたらいですか?」

桂花は統魔を指差しながら言った

統魔（俺は苦情係かよ）

統魔はそう思いつつもあることを思い出した…

統魔（僕を見に行けるチャンスだな）

すると統魔は僕に届けに行くことにした

暁山レキヤマ

翔はハードボイルダーを走らせていくと・・・

ズギューンー！

翔「ちつ！？」

翔はハードボイルダーを横に倒し、つこけた

翔「つたぐ、誰だよ」

翔が天翔を構えると・・・

和「翔ちゃん！」

いたのは和だつた

翔「和、なんでお前がクロノスにいるんだ」

和「それは・・・」

和は話し出した、自分がなぜクロノスに入つたかを…

和「私は翔ちゃんが消えたあの日、探し回つた…必死に探し回した  
けどいなかつた  
だから姫ちゃんに聞いたの」

過去 学校

和「姫ちゃん、翔ちゃんはなんでいないの？」

姫「私は知らないわ」

和は姫を壁に追い詰めた

和「ウソだ！！」

姫「私はなんも知らないわ」

和「姫ちゃんが翔ちゃんを知つてゐつて聞いたもん！」

姫「……ビームで知ってるの？」

和「ふえ？」

そのあと和は知ってる」と全てを話した

姫「……わかった」

姫ははじこかに電話すると和に叫びついた

姫「今からあなたは普通の日常に戻れないけど、それでも覚悟はある？」

和「翔ちゃんに会えるなら……」

現在 晓山

翔「それでお前はクロノス……」

和「姫ちゃんは翔ちゃんをビームするか知らないけど、私は翔ちゃんと一緒に帰りたいだけなの」

翔「だから俺を連れ戻そとと・・・」

和「だから翔ちゃん・・・」

和はアームキヤノンを構えた

和「ゴメンね」

ドーン!!

海砂 部屋

雪蓮「びいする勇?」

勇「一応対応しようが、これがとんでもないやつだとは僕も出るから

雪蓮「わかったわ、よろしくね」

海砂 近くの道

統魔はエターボイルダーを走らせていた

統魔（孫策か・・・）

統魔は自分の限界を求めて戦うため様々な強い者 と戦うが…

統魔（少しは楽しめると良いが・・・）

ブオオオオオン！！

統魔は少し笑うとエターボイルダーのアクセルを全開にした

暁山 森

翔「・・・なんで撃たなかつた？」

和「撃てるわけ無いよ」

翔「和・・・」

その時

？？？「やつぱり、バカな奴はバカなんだな」

その時、翔の後ろに男がいた

翔「・・・大地」

大地「久しぶりだな翔」

松田大地（マツダ ダイチ）

姿 TOSのクラトス

武器 日本刀

中学の頃、同じクラスだった  
剣術は翔と同じくらい？だが・・・

大地は翔に斬りかかつたが・・・

ガキン！！

翔「相変わらず、お前の剣術は暴力的だな」

大地「徹底的に潰すからな」

翔「そうか」

大地はあるカード「デッキ」を取り出すと腰にバッグルが出てきた

翔「ライダーだと…？」

大地は前で両手をクロスさせ、腕を時計回し、肘を曲げ左手を前につきだし、肘を曲げ右手を後ろにして腰を少し落として

大地「変身！」

デッキをバッグルに入れた

大地「さて、行くぞ…！」

大地は首を「ゴキゴキ」って回してから翔に立ち向かった

翔「ここのは、龍騎だと良いけど…」

サイクロン！  
メタル！

翔はサイクロンメタル（CM）に変身したが

翔「くつ！」

力押しされて負けていたが…

その時！

アクセル！

和「変・・・身！」

和はアクセルに変身した

大地「さつせと決めるか」

ファイナルベント

大地は牙召杖ベノバイザーにファイナルベントのカードを挿した

シユララララ…

どこからかベノスネーカーが現れると大地は宙返りをして

大地「たああああああああああああああ！」

ベノクラッシュユを翔に喰らわせたが…

大地「逃げたか…」

翔「グハツ！？」

和「翔、大丈夫？」

翔「なんで助けたんだよ？」

和「翔ちゃんが死んだら困るもん」

翔「・・・そつか」

和「じゃあ、私は戻るね」

すると翔は・・・

翔「俺は、お前と戦いたくない！」

翔は和に向かつて叫んだが・・・

和「次あつたときは、味方だつたらね」

和はディアブロッサに乗り、去つていった

この後、翔はリボルギャリーを呼び蜀に戻った

## 第一十四話「翔と和」（後書き）

翔「作者、生きてるか？」

紅夜「あ、当たり前だバカやつ！」

翔「なにをお前は焦つて書いてるんだ？」

紅夜「もう少ししたら新たな展開だからな、急いで書いてんだよー。！」

翔「珍しい」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2287q/>

---

真恋姫無双 死神の名を継ぐ者

2011年10月10日02時50分発行